

Forum on



2005

Information Technology

第4回情報科学技術フォーラム

プログラム

会場案内図	1
周辺案内図	2
キャンパス図	3
プログラム概要	7
講演論文集の内容	11
FIT委員名簿	12
イベント企画の御案内	13
会場別イベント企画プログラム	14
イベント企画講演概要	19
一般講演プログラム	58

平成17年9月7日(水)~9日(金)
中央大学後楽園キャンパス (東京都文京区春日1-13-27)

懇親会 9月8日(木) 18:00より
5号館 B1F 食堂 (会場キャンパス内)

FIT2005本部 5号館1F 5134教室
電話・FAX: (03) 3817-1995

社団法人 情報処理学会
Information Processing Society of Japan

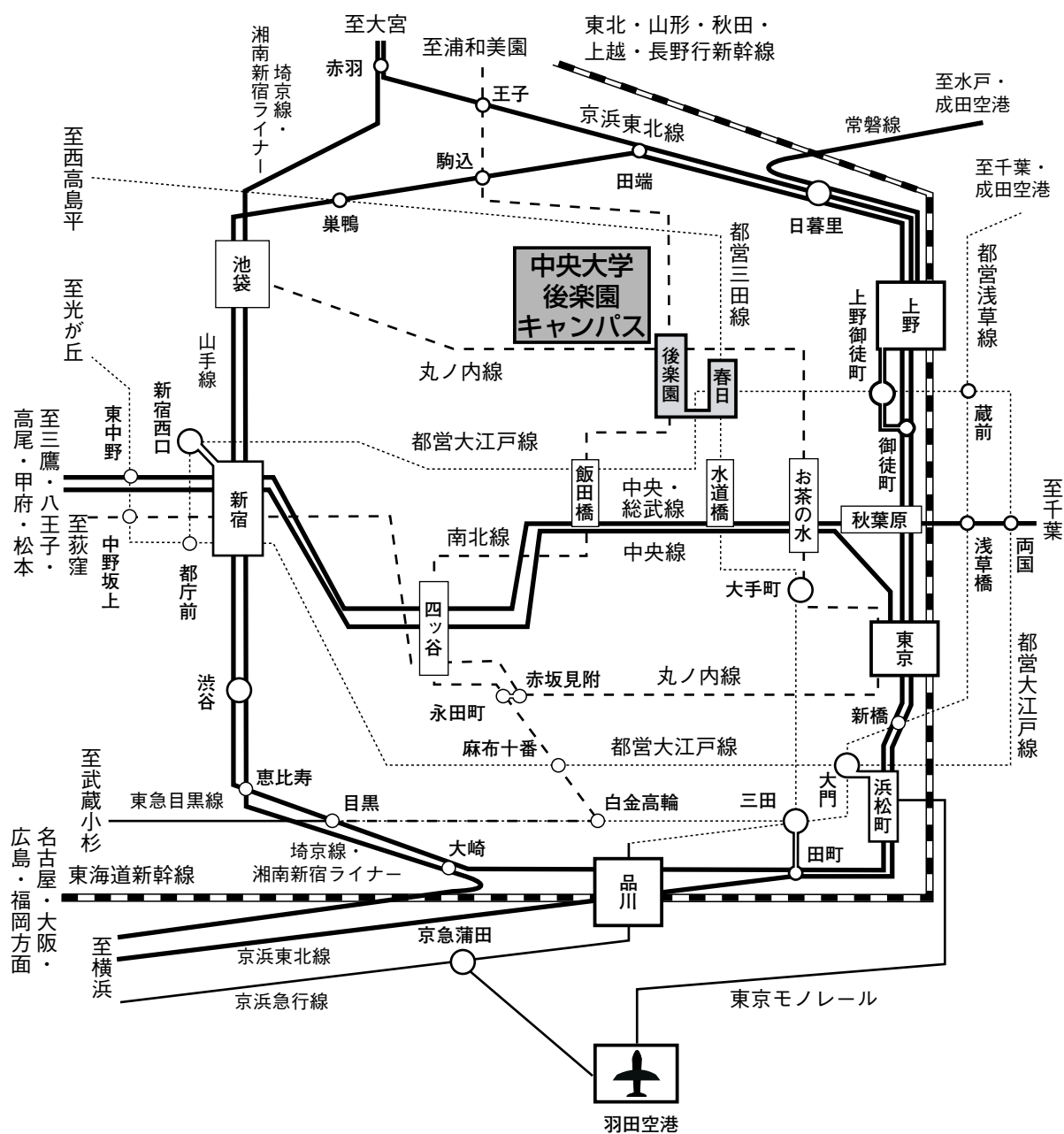
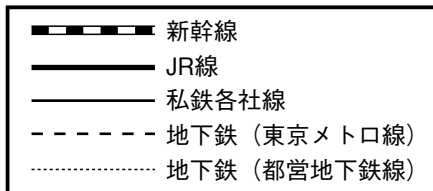
社団法人 電子情報通信学会
The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers
情報・システムソサイエティ(ISS)
Information and Systems Society
ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)
Human Communication Group

会場案内図

- 電車 [後楽園駅 (東京メトロ丸ノ内線・南北線) → 徒歩約5分]
 [春日駅 (都営地下鉄三田線・大江戸線) → 徒歩約8分]
 [水道橋駅 (JR中央・総武線各駅停車) → 徒歩約15分]

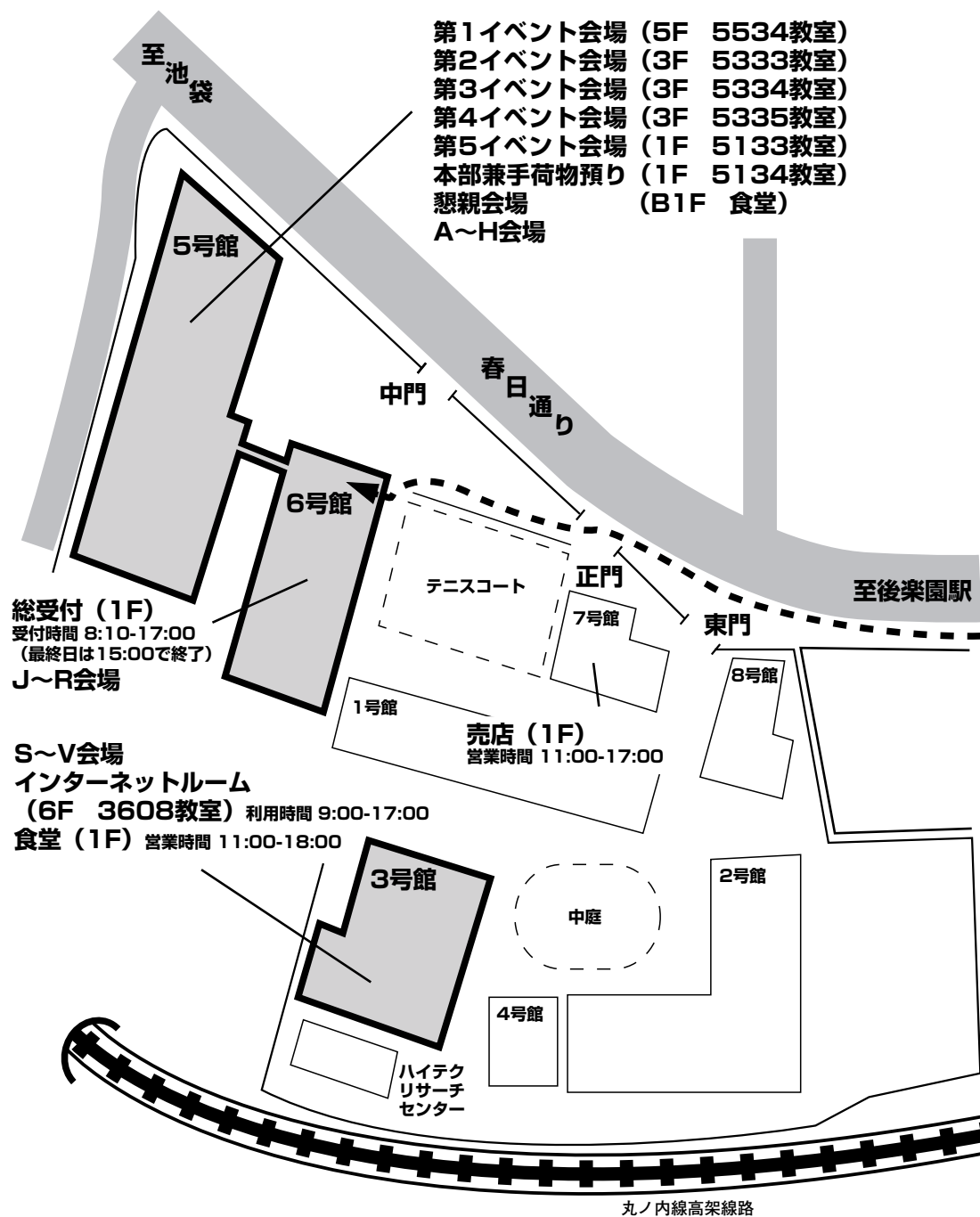
◎最寄駅までのアクセス

- ・東京駅 (東京メトロ丸ノ内線) → 後楽園駅
- ・新宿駅 (都営地下鉄大江戸線「新宿西口」駅) → 春日駅
- ・池袋駅 (東京メトロ丸ノ内線) → 後楽園駅
- ・上野駅 → 上野御徒町駅 (都営地下鉄大江戸線) → 春日駅
- ・羽田空港 (京浜急行線・都営地下鉄浅草線直通) → 三田駅 (都営地下鉄三田線) → 春日駅



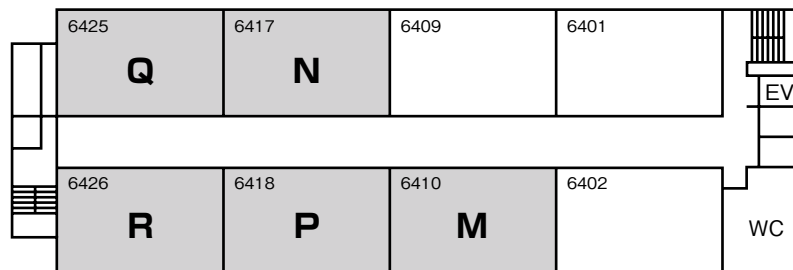


中央大学後楽園キャンパス図

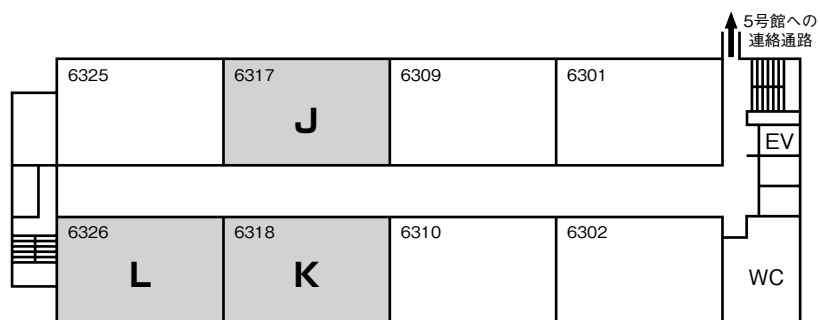


6号館

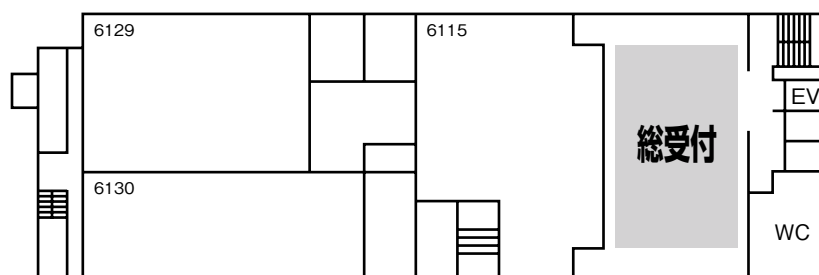
4F



3F

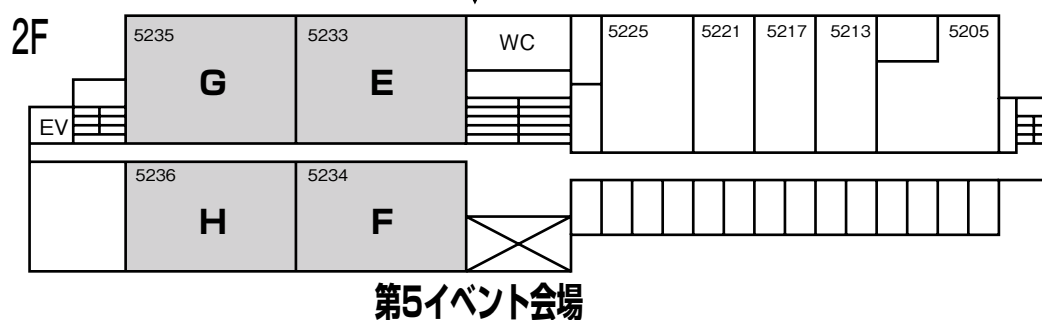
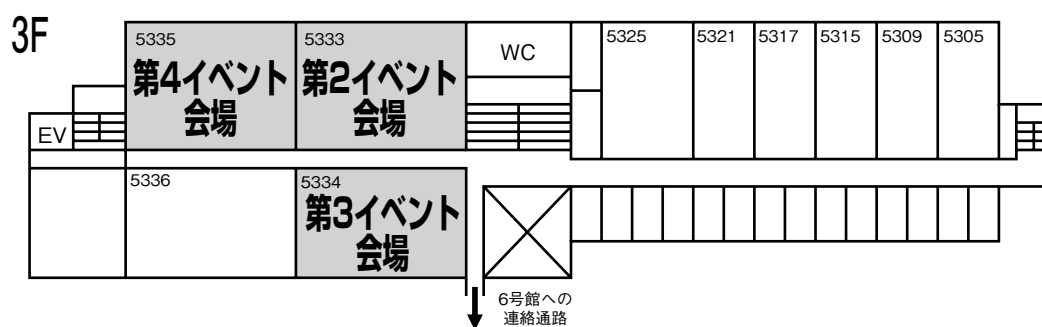
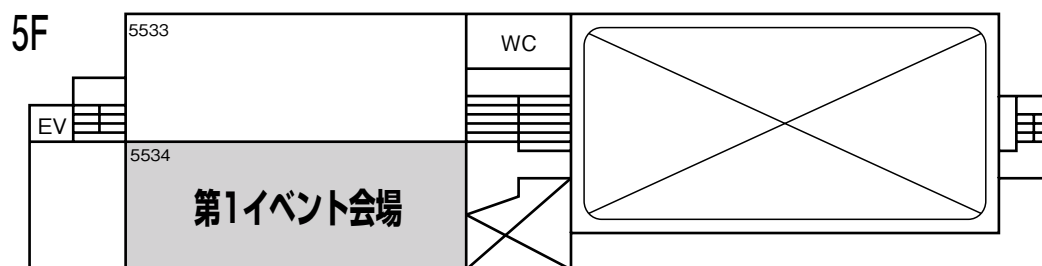


1F



受付時間 8:10-17:00
(最終日は15:00で終了)

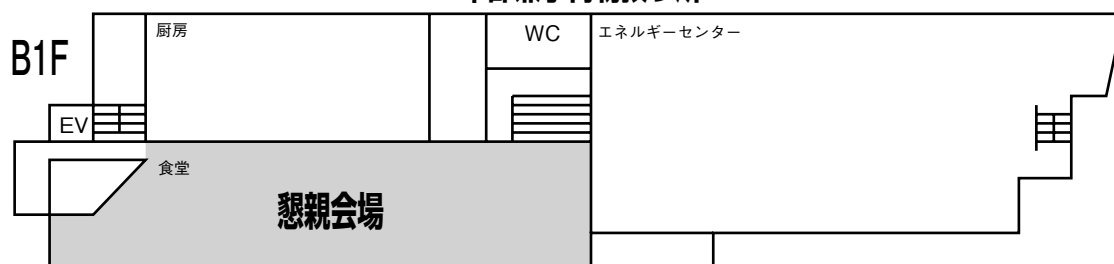
5号館



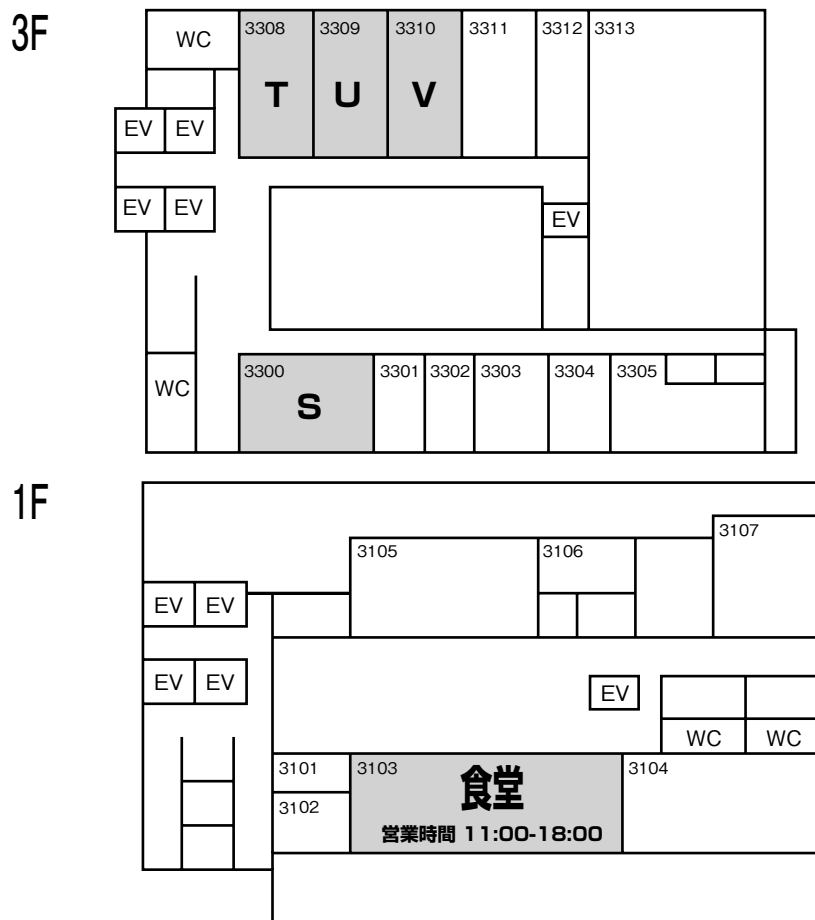
第5イベント会場



本部兼手荷物預り所



3号館



会場から参加者へのお願い

- 喫煙について
中央大学では後楽園キャンパス内での喫煙に関し、以下の通り定めておりますのでご協力をお願い致します。
・各建物内における喫煙は「煙吸引機」を設置した場所に限定し、それ以外は全面禁煙です。
・屋外においては、特に「歩行中禁煙」とし、灰皿を設置した場所以外は禁煙です。
なお、キャンパスには付属高校が併設されており、未成年者が多数おりますので、喫煙可能な場所でも非喫煙者への配慮をお願い致します。
- トイレについて
FIT開催期間中、5号館トイレが改装工事のため、使用禁止の見込みです。お手数ですが、隣接する6号館トイレをご利用ください。
なお、5号館3階と6号館3階が渡り廊下でつながっております。
- 食堂について
FIT開催期間中、3号館1階の食堂が営業しておりますのでご利用ください。
なお、5号館地下の食堂は期間中休業しております。
また、飲料・弁当・パン・スナック類は7号館1階生協にて販売しております。
- インターネットルームのご利用について（注意事項）
・Linuxマシン上でプロキシサーバ経由のブラウザ(Netscape)のみ利用可能です。
※学外への直接接続は不可、ノートPC等の接続不可
・利用時間帯は9:00～17:00です。
・飲食物持込は厳禁、禁煙です。
・情報工学科学生の利用状況によっては、入室制限をする可能性があります。
- キャンパスの開門と受付開始時間
キャンパスの開門は8:00です。各日共、FIT2005の受付時間は8:10からとなります。
(受付場所：FIT2005総受付 6号館1F)

皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

FIT2005 プログラム概要

7

日	会場 時間	第1イベント会場 5号館5階 5534教室	第2イベント会場 5号館3階 5333教室	第3イベント会場 5号館3階 5334教室	第4イベント会場 5号館3階 5335教室	第5イベント会場 5号館1階 5133教室
9月7日 (水)	9:00	10:00 - 17:00 A-1 イベント企画 異文化コラボレーション シンポジウム	10:30 - 12:00 B-3 イベント企画 海外への情報発信の 方法論 -研究成果を 世界へ広めよう- 29	9:30 - 12:00 B-5 イベント企画 JABEEおよび 情報処理学会と 日本技術士会の連携 36	10:00 - 12:00 FIT2005 論文賞セッション (午前の部 4件)	
	12:00					
	13:00		13:00 - 16:30 A-8 イベント企画 最先端 医用イメージング技術	13:00 - 16:10 A-4 イベント企画 3次元ビデオ処理に関する シンポジウム	13:00 - 14:30 FIT2005 論文賞セッション (午後の部 3件)	
	15:00					
	15:30					
9月8日 (木)	17:30	20	30	38		
	9:00	9:00 - 12:00 B-1 イベント企画 脳科学と情報科学は どう融合していくのか 24	10:00 - 12:00 B-2 イベント企画 ITベンチャーが拓く 新しい未来・社会 31	9:00 - 12:00 B-4 イベント企画 暗黒時代の大学に 夜明けは来るか -黒船来航! 官民連携の 大学評価結果公表- 41	9:00 - 12:00 B-7 イベント企画 安全・安心のための 情報技術 -医療、原子力、 宇宙航空を題材として- 49	
	12:00					
	13:00	13:00 - 14:30 特別講演 〈船井業績賞受賞記念講演〉 坂村 健 (東大) ユビキタス・ コンピューティングの未来 19				
	14:30					
9月9日 (金)	15:00	15:00 - 17:30 B-8 イベント企画 船井業績賞記念 パネル討論 ユビキタス社会の 担い手は何か? 19	15:00 - 17:25 A-2 イベント企画 フェロー&マスターズ 特別講演会 「今だから言う、 私の失敗体験」 -失敗からの教訓と これからの若い人たちに の提言- 32	14:30 - 17:30 A-7 イベント企画 情報システムの ブレイクスルー 可能性を探れ! -ベンダとユーザが win-winで結ばれるための 有効なアプローチとは?- 44	14:30 - 17:30 A-9 イベント企画 オールジャパン体制での 情報セキュリティ研究開発 -技術的アプローチと 社会的アプローチの 融合に向けて- 52	
	17:30					
9月9日 (金)	9:00	9:00 - 16:00 C-1 イベント企画 国家的課題としての 情報セキュリティ 人材育成 26	9:30 - 12:00 B-6 イベント企画 若い才能と 未踏ソフトウェア 創造事業 34	9:00 - 12:00 A-10 イベント企画 クラスタコンピュータは どうなっていく? 46	9:00 - 12:00 A-12 イベント企画 マルチメディア・ バーチャルリアリティ ビデオセッション -あの研究室のあの成果、 全部見せます- 54	A-11 イベント企画 サイバーワールド (デモ展示あり) 56
	12:00					
	13:00		13:00 - 15:50 A-3 イベント企画 パターン認識・ メディア理解 アルゴリズムコンテスト 35	13:00 - 16:00 A-5 イベント企画 分子計算のしくみ 48	13:00 - 16:00 A-6 イベント企画 スパコン日本の時代は 取り戻せるか 54	
	16:00					

※右下の数字は当プログラム冊子の掲載ページ番号です。

日	会場 時間	A会場 5号館1階 5135教室	B会場 5号館1階 5136教室	C会場 5号館1階 5137教室	D会場 5号館1階 5138教室	E会場 5号館2階 5233教室	F会場 5号館2階 5234教室	G会場 5号館2階 5235教室
9月7日(水)	9:00	実装・ テスト技術	セキュリティ プロトコル／ 電子透かし	文字・文書 (1)	顔画像処理	マイニング		MEとバイオ サイバネティクス (1)
	12:00	野中 誠 (東洋大)	吉浦 裕 (電通大)	池田尚司 (日立)	福井和広 (筑波大)	村田剛志 (東工大)		根本 幾 (電機大)
		B 59	M 78	I 68	I 68	D 62		H 65
	13:00	ソフトウェア開発	不正アクセス対策	文字・文書 (2)	画像処理基礎	XML	教育工学 (1)	MEとバイオ サイバネティクス (2)
9月8日(木)	15:00	奥野 拓 (はこだて未来大)	竹森敬祐 (KDDI研)	黄瀬浩一 (大阪府大)	間瀬健二 (名大)	浦本直彦 (日本IBM)	佐々木整 (拓殖大)	椎名 毅 (筑波大)
		B 59	M 79	I 68	I 68	D 62	K 72	H 66
	15:30	Web・ 分散システム	セキュリティ ポリシー／ アクセス制御	映像メディア解析	画像処理応用	ユビキタス	教育工学 (2)	ネットワーク ロボット
	17:30	飯島 正 (慶大)	大嶋嘉人 (NTT)	馬場口登 (阪大)	原 健二 (九大)	松本一則 (KDDI研)	鈴木栄幸 (茨城大)	南條義人 (NTT)
9月9日(金)	9:00	システム構成法	ユビキタス ネットワーク	3次元解析	人物動作・計測	空間、画像情報と 信号処理	マルチメディア・ 仮想環境基礎 (1)	異文化 コラボレーション
	12:00	盛合 敏 (NTT)	堀内浩規 (KDDI研)	角 保志 (産総研)	岩井儀雄 (阪大)	橋本隆子 (リコー)	瀬崎 薫 (東大)	大平雅雄 (奈良先端大)
		B 59	M 79	I 69	I 69	D 62	K 73	K 73
	13:00	ストレージ システム	ユビキタス コンピューティング	3D解析 (2)	画像・ パターン認識	分類と フィルタリング	マルチメディア・ 仮想環境基礎 (2)	ヒューマン 情報処理 (1)
9月9日(金)	14:30							
	15:00	市川俊一 (NTT)	大内 一成 (東芝)	岡谷郁子 (農工大)	川嶋宏彰 (京大)	大森 匡 (電通大)	金子正秀 (電通大)	三浦佳世 (九大)
	17:30	B 60	M 79	I 69	I 69	D 62	K 74	K 74
9月9日(金)	9:00	ハイパフォーマンス コンピューティングと グリッド	ネットワークと 分散処理	領域抽出	トラッキング	オブジェクトと ネットワーク	顔と音声の コミュニケーション	ヒューマン 情報処理 (2)
	12:00	黒田久泰 (東大)	佐藤文明 (静岡大)	孟 洋 (国立情報学研)	角所 考 (京大)	加藤弘之 (国立情報学研)	青木義満 (芝浦工大)	朝倉暢彦 (金沢工大)
		B 60	M 79	I 69	I 70	D 62	K 74	K 74
	13:00					情報検索	ヒューマン コミュニケーション 一般	サイバーワールド
	16:00					橋本泰一 (東工大)	米村俊一 (NTT)	加藤博一 (阪大)
						D 63	K 75	K 75

※表中の中央下のアルファベットは分野を表します。

プログラム概要

9

H会場 5号館2階 5236教室	J会場 6号館3階 6317教室	K会場 6号館3階 6318教室	L会場 6号館3階 6326教室	M会場 6号館4階 6410教室	N会場 6号館4階 6417教室	P会場 6号館4階 6418教室
視覚インタフェース 塩澤秀和 (玉川大) K 72	アルゴリズム (1) 中野眞一 (群馬大) A 58	ストレージと データ収集 萩原洋一 (農工大) L 76	携帯端末と Web技術 阪田史郎 (千葉大) L 76	画像処理・ 視覚モデル 鉄谷信二 (電機大) J 70	3次元映像 川田亮一 (KDDI研) J 70	
音声インタフェース 小作浩美 (ATR) K 72	コンピューテーション 草刈圭一朗 (名大) A 58	プロトコル・ 性能評価 相原玲二 (広島大) L 76	セキュリティ 藤野信次 (富士通研) L 76	暗号化・ 電子透かし (1) 如澤裕尚 (NTTレゾナント) J 70	映像編集・検索 今泉浩幸 (NHK-ES) J 70	音楽情報科学 (1) 平井重行 (京産大) G 65
学習と支援 インタフェース 志築文太郎 (筑波大) K 73	プログラミング (1) 富樫 敦 (宮城大) A 58	ITS 屋代智之 (千葉工大) L 76	ネットワーク制御 高橋 修 (はこだて未来大) L 77	暗号化・ 電子透かし (2) 合志清一 (NHK技研) J 70		音楽情報科学 (2) 平田圭二 (NTT) G 65
日常生活 インタフェース 田村弘昭 (富士通研) K 73	アルゴリズム (2) 渋谷哲朗 (東大) A 58	グループウェアと コミュニティ 荒金陽助 (NTT) L 77	P2P・ コンテンツ共有 山井成良 (岡山山大) L 77	CGレンダリング 斎藤 豪 (東工大) J 71	CGインタフェース 長谷川晶一 (東工大) J 71	意味解析・ 知識獲得 森 辰則 (横浜国大) E 63
入力インタフェース 鈴木健嗣 (筑波大) K 74	プログラミング (2) 岩崎英哉 (電通大) A 58	情報共有 荒金陽助 (NTT) L 77	P2P・ アドホック 松原大典 (日立) L 77	CGモデリング 三谷 純 (筑波大) J 71	フィルタ処理・ 画像品質 内海 章 (ATR) J 71	自然言語応用 加藤直人 (ATR) E 63
福祉情報工学 (1) 西本卓也 (東大) K 75	アルゴリズム (3) 築地立家 (電機大) A 59	デジタルID・ 位置情報 高汐一紀 (慶大) L 77	Web アプリケーション 山崎克之 (KDDI研) L 78	CGモーション 関口大陸 (東大) J 71	静止画像符号化・ JPEG2000 小池 淳 (KDDI研) J 72	情報検索, 質問応答 内元清貴 (NICT) E 63
福祉情報工学 (2) 中山 剛 (国立身体障害者 リハビリテーション センター) K 75	数理モデル化 古瀬慶博 (三菱スペース・ ソフトウェア) A 59	モバイル エージェントと 管理運用技術 今泉貴史 (千葉大) L 78	レコメンデーション・ Web検索 寺田松昭 (農工大) L 78	グループ コミュニケーション 井上智雄 (筑波大) L 78	画像符号化 境田慎一 (NHK技研) J 72	機械翻訳, 多言語処理 出羽達也 (東芝) E 63

FIT2005 プログラム概要

日	会場 時間	Q会場 6号館4階 6425教室	R会場 6号館4階 6426教室	S会場 3号館3階 3300教室	T会場 3号館3階 3308教室	U会場 3号館3階 3309教室	V会場 3号館3階 3310教室
9月7日 (水)	9:00	システム評価	最適化／学習	リコンフィギャブルシステム	学習支援・教育評価		
	12:00	西岡大祐 (日立) O 81	小林正樹 (山梨大) F 64	名古屋彰 (NTT) C 60	松居辰則 (早大) N 80		
	13:00		人工知能とWeb	組込システムとプロセッサ	情報倫理, 読解支援システム	ニューロコンピューティング (1)	
	15:00		大須賀昭彦 (東芝) F 64	山崎勝弘 (立命館大) C 60	立田ルミ (独協大) N 80	村田 昇 (早大) H 66	
	15:30		テキストマイニング／自然言語処理	並列処理とプロセッサ	e-Learning, 協調学習	ニューロコンピューティング (2)	
	17:30		鍋嶋英知 (山梨大) F 64	山崎 剛 (ソニーCE) C 60	金子敬一 (農工大) N 80	福村直博 (豊橋技科大) H 66	
9月8日 (木)	9:00	システム構築とモデリング	推論／Semantic Web／オントロジ	LSIテストニング	プログラミング教育	医用画像 (1)	音声・音響処理
	12:00	辻 秀一 (東海大) O 81	岩沼宏治 (山梨大) F 64	細川利典 (日大) C 60	辰巳丈夫 (農工大) N 80	清水昭伸 (農工大) H 66	山田武志 (筑波大) G 65
	13:00						
	14:30						
	15:00	知能と複雑系	エージェント	コンピュータシステム	情報処理システム, コミュニケーションツール	医用画像 (2)	
	17:30	山田誠二 (国立情報学研) F 64	藤田 茂 (千葉工大) F 65	吉永 努 (電通大) C 61	高岡詠子 (千歳科技大) N 80	高橋正信 (芝浦工大) H 66	
9月9日 (金)	9:00	社会と情報システム		ディペンダブルシステム	社会基盤とコンピュータ	バイオ情報学	
	12:00	刀川 真 (NTTデータ) O 81		古屋 清 (中大) C 61	横澤 誠 (野村総研) N 80	山村雅幸 (東工大) H 67	
	13:00			システムLSI設計メソドロジ			
	16:00			北原 健 (東芝) C 61			

講演論文集の内容

発行日 平成 17 年 8 月 22 日

情報科学技術レターズ（査読付き論文）

コンピュータ関連、データベース関連、画像関連、ネットワーク関連

一般講演論文集 第 1 分冊（コンピュータ関連）

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング

B 分野：ソフトウェア

C 分野：アーキテクチャ・ハードウェア

一般講演論文集 第 2 分冊（データベース関連）

D 分野：データベース

E 分野：自然言語

F 分野：人工知能・ゲーム

G 分野：音声・音楽

H 分野：生体情報科学

一般講演論文集 第 3 分冊（画像関連）

I 分野：画像認識・メディア理解

J 分野：グラフィクス・画像

K 分野：ヒューマンコミュニケーション&インタラクション

一般講演論文集 第 4 分冊（ネットワーク関連）

L 分野：ネットワークコンピューティング

M 分野：ユビキタス・マルチメディア・セキュリティ

N 分野：教育・人文科学

O 分野：情報システム

講演論文集 CD-ROM

上記全論文およびプログラムを収録

FIT 委員名簿

FIT 推進委員会

IPSJ 委員長	白鳥則郎 (東北大)
ISS 委員長	村岡洋一 (早大)
IPSJ 委員	山田敬嗣 (NEC), 阿草清滋 (名大), 久世和資 (日本 IBM), 橋田浩一 (産総研)
ISS 委員	荒井秀一 (武蔵工大), 植芝俊夫 (産総研), 森本正志 (NTT), 佐藤 敦 (NEC)
HCG 委員	大和淳司 (NTT)
実行委員長	清木 康 (慶大/FIT2005), 雨宮真人 (九大/FIT2006)
プログラム委員長	西田豊明 (京大/FIT2005), 湯淺太一 (京大/FIT2006)

FIT2005 実行委員会

委員長	清木 康 (慶大)
幹事	尾家祐二 (九州工大/IPSJ), 植芝俊夫 (産総研/ISS)
会計幹事	山田敬嗣 (NEC/IPSJ), 久永 聡 (三菱/ISS)
IPSJ 委員	富田悦次 (電通大), 高汐一紀 (慶大), 中條拓伯 (農工大), 今井倫太 (慶大), 佐藤文明 (静岡大), 山崎謙介 (東京学芸大)
ISS 委員	西田豊明 (京大), 荒井秀一 (産総研), 定兼邦彦 (九大), 中渡瀬秀一 (NTT), 中野幹生 (ホンダ RI), 川端 豪 (関西学院大), 清水昭伸 (農工大), 佐藤洋一 (東大), 内海 章 (ATR), 堀川健史 (NTT), 松田 順 (綜研テクニックス)
HCG 委員	柳田康幸 (名城大)
委員 (現地)	篠田庄司 (中大), 牧野光則 (中大)

FIT2005 プログラム委員会

委員長	西田豊明 (京大)
幹事	富田悦次 (電通大/IPSJ), 荒井秀一 (武蔵工大/ISS)
IPSJ 委員	尾家祐二 (九州工大), 築地立家 (電機大), 土田正士 (日立), 内元清貴 (NICT), 山田武志 (筑波大), 和田俊和 (和歌山大), 内藤 整 (KDDI 研), 萩原洋一 (農工大), 戸田真志 (はこだて未来大), 安達文夫 (歴史民俗博), 清水尚彦 (東海大)
ISS 委員	植芝俊夫 (産総研), 権藤克彦 (東工大), 細川利典 (日大), 小林正樹 (山梨大), 内田雅文 (電通大)
HCG 委員	喜多伸一 (神戸大)

FIT2005 担当委員

IPSJ 委員	築地立家 (電機大), 古瀬慶博 (三菱スペース・ソフト), 佐藤周行 (東大), 山本里枝子 (富士通研), 富樫 敦 (宮城大), 高汐一紀 (慶大), 中條拓伯 (農工大), 北原 健 (東芝), 土田正士 (日立), 岩山 真 (日立), 内元清貴 (NICT), 根岸寛明 (富士通), 山田武志 (筑波大), 堀内靖雄 (千葉大), 今井倫太 (慶大), 伊藤毅志 (電通大), 和田俊和 (和歌山大), 齋藤 豪 (東工大), 内藤 整 (KDDI 研), 小池英樹 (電通大), 萩原洋一 (農工大), 藤川和利 (奈良先端大), 新井克也 (NTT), 藤野信次 (富士通研), 戸田真志 (はこだて未来大), 佐藤文明 (静岡大), 寺田雅之 (NTT ドコモ), 山崎謙介 (東京学芸大), 安達文夫 (歴史民俗博), 櫻井紀彦 (NTT), 阿部昭博 (岩手県大), 久保田浩司 (NTT), 清水尚彦 (東海大), 関口大陸 (東大), 石井 信 (奈良先端大)
ISS 委員	内田雅文 (電通大), 小泉 稔 (日立), 内海 章 (ATR), 中野幹生 (ホンダ RI), 緑川博子 (成蹊大), 定兼邦彦 (九大), 小林正樹 (山梨大), 権藤克彦 (東工大), 中渡瀬秀一 (NTT), 佐藤洋一 (東大), 細川利典 (日大), 久間和生 (三菱), 廣田豊彦 (九産大), 川端 豪 (関西学院大), 中村直人 (千葉工大), 清水昭伸 (農工大), 松田 順 (綜研テクニックス), 堀川健史 (NTT), 鈴木 譲 (阪大), 大田友一 (筑波大), 吉野 孝 (和歌山大), 米山暁夫 (KDDI 研), 久我守弘 (熊本大), 神田崇行 (ATR)
HCG 委員	青木義満 (芝浦工大), 喜多伸一 (神戸大), 柳田康幸 (名城大), 渡辺哲也 (特殊教育総研)

FIT2005 現地実行委員会

委員長	篠田庄司 (中大)
副委員長	古屋 清 (中大)
幹事	牧野光則 (中大)
委員	浅野孝夫 (中大), 今井桂子 (中大), 榎本忠儀 (中大), 久保田光一 (中大), 趙 晋輝 (中大), 堂上一男 (中大)

IPSJ: (社) 情報処理学会

ISS: (社) 電子情報通信学会情報・システムソサイエティ

HCG: (社) 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ

この度の FIT 開催にあたりましては、中央大学様より貴大学後楽園キャンパスを会場として無償提供戴き誠にありがとうございました。ここに厚くお礼申し上げます。

FIT 推進委員会

ーイベント企画の御案内ー

■特別講演（船井業績賞受賞記念講演）

第1 イベント会場 8日 13:00-14:30

「ユビキタス・コンピューティングの未来」 坂村 健（東大）

■船井業績賞記念パネル討論

第1 イベント会場 8日 15:00-17:30

ユビキタス社会の担い手は何か？

■イベント企画

第1 イベント会場

- ・ 7日 10:00-17:00 異文化コラボレーションシンポジウム
- ・ 8日 9:00-12:00 脳科学と情報科学はどう融合していくのか
- ・ 9日 9:00-16:00 国家的課題としての情報セキュリティ人材育成

第2 イベント会場

- ・ 7日 10:30-12:00 海外への情報発信の方法論 - 研究成果を世界へ広めよう -
- ・ 7日 13:00-16:30 最先端医用イメージング技術
- ・ 8日 10:00-12:00 ITベンチャーが拓く新しい未来・社会
- ・ 8日 15:00-17:25 フェロー & マスターズ特別講演会「今だから言う、私の失敗体験」
- 失敗からの教訓とこれからの若い人たちへの提言 -
- ・ 9日 9:30-12:00 若い才能と未踏ソフトウェア創造事業
- ・ 9日 13:00-15:50 パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト

第3 イベント会場

- ・ 7日 9:30-12:00 JABEE および情報処理学会と日本技術士会の連携
- ・ 7日 13:00-16:10 3次元ビデオ処理に関するシンポジウム
- ・ 8日 9:00-12:00 暗黒時代の大学に夜明けは来るか
- 黒船来航！官民連携の大学評価結果公表 -
- ・ 8日 14:30-17:30 情報システムのブレイクスルー可能性を探れ！
- ベンダとユーザがwin-winで結ばれるための有効なアプローチとは？ -
- ・ 9日 9:00-12:00 クラスタコンピュータはどうなっていくの？
- ・ 9日 13:00-16:00 分子計算のしくみ

第4 イベント会場

- ・ 7日 10:00-14:30 FIT2005 論文賞セッション
- ・ 8日 9:00-12:00 安心・安全のための情報技術
- 医療，原子力，宇宙航空を題材として -
- ・ 8日 14:30-17:30 オールジャパン体制での情報セキュリティ研究開発
- 技術的アプローチと社会的アプローチの融合に向けて -
- ・ 9日 9:00-12:00 マルチメディア・バーチャルリアリティビデオセッション
- あの研究室のあの成果，全部見せます -
- ・ 9日 13:00-16:00 スパコン日本の時代は取り戻せるか

第5 イベント会場

- ・ 9日 10:00-16:00 サイバーワールド（デモ展示あり）

ー会場別イベント企画プログラムー

第1 イベント会場 (5号館 5F 5534 教室)		
日	時 間	内 容
7 日 (水)	10:00-17:00	異文化コラボレーションシンポジウム (午前の部: 自然言語処理と異文化コラボレーション)
		[10:00-10:05] 導入 石田 亨 (京大)
		[10:05-10:30] 講演 1: 機械翻訳を用いた異文化コミュニケーションの実現 吉野 孝 (和歌山大)
		[10:30-10:55] 講演 2: 機械翻訳へのユーザの適応と書き換えへの教示効果 山下直美 (NTT)
		[10:55-11:20] 講演 3: 機械翻訳可能性の自動評価と機械翻訳不適個所の推定 内元清貴 (NICT)
		[11:20-11:45] 講演 4: コミュニケーション支援のための言い換え技術の現状と今後 乾健太郎 (奈良先端大)
		[11:45-12:00] 全体討論 (質疑応答)
		異文化コラボレーションシンポジウム (午後の部: 異文化コミュニケーション最前線)
		[13:00-13:05] 導入 石田 亨 (京大)
		[13:05-13:35] 講演 1: 小・中学校での異文化コミュニケーション:Pangaea プロジェクト 森由美子 (NPO 法人パンゲア)
		[13:35-14:05] 講演 2: 海外との大学間遠隔講義における異文化コミュニケーション:Tide プロジェクト 美濃導彦 (京大)
		[14:05-14:35] 講演 3: 職場での異文化間コミュニケーション 西田ひろ子 (静岡県大)
		[14:35-14:50] 全体討論 (質疑応答)
		[15:00-17:00] パネル討論: 異文化コラボレーションの難しさとは? (オフショア開発) 司 会: 吉野 孝 (和歌山大) パネリスト: 青山 健 (緑システム設計), 落水浩一郎 (北陸先端大), ガドギル ニランジャン (マナスソリューションズ), 坂本史郎 (いいじゃんネット)
8 日 (木)	9:00-12:00	脳科学と情報科学はどう融合していくのか
		[9:00 - 9:10] 講演 1: 21 世紀の脳科学 甘利俊一 (理化学研)
		[9:10 - 9:45] 講演 2: 計算論的神経科学 深井朋樹 (理化学研)
		[9:45-10:20] 講演 3: 知識発達ロボティクスによる心と脳の理解に向けて 浅田 稔 (阪大)
		[10:20-10:55] 講演 4: 脳科学、情報科学と物理学 岡田真人 (東大)
		[10:55-11:30] 講演 5: 人工知能と機械学習の立場から 麻生英樹 (産総研)
		[11:30-12:00] パネル討論: 脳科学と情報科学はどう融合していくのか 司 会: 甘利俊一 (理化学研)
		パネリスト: 浅田 稔 (阪大), 麻生英樹 (産総研), 岡田真人 (東大), 深井朋樹 (理化学研)
		13:00-14:30 特別講演 (船井業績賞受賞記念講演) ユビキタス・コンピューティングの未来 坂村 健 (東大)
		15:00-17:30 船井業績賞記念パネル討論: ユビキタス社会の担い手は何か? 司 会: 大蒔和仁 (産総研) 特別ゲスト: 坂村 健 (東大) パネリスト: 関口智嗣 (産総研), 高田広章 (名大), 中野博隆 (阪大), 保科 剛 (日本ユニシス)
9 日 (金)	9:00-16:00	国家的課題としての情報セキュリティ人材育成
		[9:00 - 9:15] 開会挨拶 篠田庄司 (中大)
		[9:15 - 9:45] 主題解説: 情報セキュリティ人材育成は国家的課題 辻井重男 (情報セキュリティ大)
		[9:50-11:50] パネル討論: 情報セキュリティ人材育成の現場から 司 会: 関口和一 (日本経済新聞社)
		パネリスト: 武田圭史 (カーネギーメロン大), 土居範久 (中大), 林紘一郎 (情報セキュリティ大), 村岡洋一 (早大), 安田 浩 (東大)
		[12:40-13:20] 講演: 情報技術と人材育成 丸山剛司 (文部科学省)
		[13:20-14:00] 記念講演: 日本国際賞を受賞して 長尾真 (NICT)
		[14:10-15:55] パネル討論: 情報分野における女性の活躍 司 会: 小館香椎子 (日本女子大)
		パネリスト: 今井桂子 (中大), 土井美和子 (東芝), 藤本正代 (富士ゼロックス), 盛合志帆 (ソニー CE)
		[15:55-16:00] 閉会

第2 イベント会場 (5号館 3F 5333 教室)		
日	時 間	内 容
7 日 (水)	10:30-12:00	海外への情報発信の方法論 - 研究成果を世界へ広めよう - 金谷健一 (岡山大)
	13:00-16:30	最先端医用イメージング技術
	[13:00-14:00]	講演 1: 最先端画像再構成 工藤博幸 (筑波大)
	[14:00-15:00]	講演 2: 最先端 PET イメージング 村山秀雄 (放射線医学総研)
	[15:00-16:00]	講演 3: 最先端 MR イメージング 本間一弘 (産総研)
	[16:00-16:30]	総合討論 司 会: 仁木 登 (徳島大) パネリスト: 工藤博幸 (筑波大), 本間一弘 (産総研), 村山秀雄 (放射線医学総研)
8 日 (木)	10:30-12:00	IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会
	[10:00-10:30]	講演: IT 系ベンチャーの現状と動向 武藤佳恭 (慶大)
	[10:30-12:00]	パネル討論: IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会 司 会: 武藤佳恭 (慶大)
		パネリスト: 家本賢太郎 (クララオンライン), 登 大遊 (ソフトイース), 森戸 宏 (先端情報工学研)
	15:00-17:25	フェロー & マスターズ特別講演会 「今だから言う、私の失敗体験」 - 失敗からの教訓とこれからの若い人たちの提言 -
	[15:00-15:05]	司会挨拶 江尻正員 (産業技術コンサルタント), 大田友一 (筑波大)
	[15:05-15:40]	講演 1: 非凡なる凡研究 - デジタルメディア革命はいかにして誕生したか - 吹抜敬彦 (東京工科大)
	[15:40-16:15]	講演 2: 画像処理システムの技術開発と事業開発 - ボイントは人間との勝負 - 木戸出正継 (奈良先端大)
	[16:15-16:50]	講演 3: 音声研究 - 私の反省と提言 - 中島隆之 (技術コンサルタント)
	[16:50-17:25]	講演 4: 文字認識に取り付かれた楽しい失敗談 - 「いい研究者」と「いいマネージャ」の分かれ目 - 萩田紀博 (ATR)
9 日 (金)	9:00-12:00	若い才能と未踏ソフトウェア創造事業
	[9:30-10:00]	講演 1: 軽量型 OS とデータ圧縮について 川合秀実 (OSASK 計画)
	[10:00-10:30]	講演 2: 未踏型の SoftEther VPN 開発から現在に至るまで 登 大遊 (ソフトイース)
	[10:30-11:00]	講演 3: レーザードローイングツール Afterglow の開発 田川欣哉 (リーディング・エッジ・デザイン)
	[11:00-12:30]	パネル討論: 未踏ソフトウェア創造事業のインパクト 司 会: 竹内郁雄 (東大) パネリスト: 池田正喜 (シーカネット), 川合秀実 (OSASK 計画), 田川欣哉 (リーディング・エッジ・デザイン), 中島秀之 (はこだて未来大), 登 大遊 (ソフトイース)
	13:00-15:50	パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト
	[13:00-13:05]	開会挨拶 村瀬 洋 (名大)
	[13:05-13:15]	課題概要説明, 審査結果発表
	[13:15-13:20]	入賞者表彰
	[13:20-14:50]	入賞者によるアルゴリズム紹介
	[14:50-15:50]	招待講演: オブジェクト指向からイベント指向へ: 事例ベースビジョナリアルゴリズムの展開 和田俊和 (和歌山大)

第3 イベント会場 (5号館 3F 5334 教室)		
日	時 間	内 容
7	9:30-12:00	JABEE および情報処理学会と日本技術士会の連携 [9:30 - 9:40] シンポジウムの趣旨説明 大岩 元 (慶大) [9:40-10:00] 講演 1: 日本技術士会情報工学部会の現状 安田 晃 (松下電工) [10:00-10:20] 講演 2: 技術士と CPD 黒澤兵夫 (TAKE 国際技術士事務所) [10:20-10:40] 講演 3: 技術士試験と CPD に関する情報処理学会の取り組み 有澤 誠 (慶大) [10:40-11:00] 講演 4: JABEE 認定審査における技術士会との連携 掛下哲郎 (佐賀大) [11:00-12:00] 総合討論 司 会: 大岩 元 (慶大) パネリスト: 天野英晴 (慶大), 有澤 誠 (慶大), 掛下哲郎 (佐賀大), 黒澤兵夫 (TAKE 国際技術士事務所), 児玉公信 (エヌ・ケー・エクス), 安田 晃 (松下電工)
	13:00-16:10	3次元ビデオ処理に関するシンポジウム [13:00-13:10] はじめに 相澤清晴, 山崎俊彦 (東大) [13:10-13:30] 講演 1: 多視点映像からの 3 次元形状・運動復元のための弾性メッシュモデル 延原章平, 他 (京大) [13:30-13:50] 講演 2: 圧縮と検索のための 3 次元ビデオ処理 山崎俊彦, 他 (東大) [13:50-14:10] 講演 3: 3 次元映像アーカイブのための動的 3 次元ビデオの取得・表示技術 岩館祐一, 他 (NHK 技研) [14:10-14:30] 講演 4: 自由視点 3 次元映像スタジオのインターネットライブ配信 大田友一, 他 (筑波大) [14:30-14:50] 講演 5: 多視点画像からの自由視点スポーツ映像生成 稲本奈穂, 他 (慶大) [14:50-15:10] 講演 6: 自由視点テレビ 谷本正幸 (名大) [15:10-15:30] 講演 7: レンズアレイとカメラアレイを用いた全焦点自由視点画像の合成と圧縮 苗村 健, 他 (東大) [15:30-15:50] 講演 8: Light Field Rendering の鮮鋭化 久保田彰 (東工大) [15:50-16:10] まとめ 相澤清晴, 山崎俊彦 (東大)
8	9:00-12:00	暗黒時代の大学に夜明けは来るか - 黒船来航! 官民連携の大学評価結果公表 - 第 1 部 講演 [9:00 - 9:30] 講演: 日本の産業再生のための人材の条件と大学 - 東アジアの台頭への対抗は可能か 中田研一郎 (ソニー) 第 2 部 変革への仕掛け [9:30 - 9:50] ポジションステートメント 1: 大学教育における産業ニーズと教育カリキュラムの乖離をどう縮めるか 宮本岩男 (経済産業省) [9:50 -10:10] ポジションステートメント 2: カリキュラムデザインの時代の到来 - 評価結果の解説と使い方 - 山本真司 (河合塾) 第 3 部 大学教育改革実践の立場から [10:10-10:30] ポジションステートメント 3: IT 産業界で真に役立つ実践的で先進的な IT 技術教育を目指して - オープンな標準技術に基づく IT 技術者育成の試み 丸山不二夫 (稚内北星学園大) [10:30-10:50] ポジションステートメント 4: 日本再生のための、社会を変える大学像 - 入学者選抜から教育・研究、そして就職まで 船曳建夫 (東大) 第 4 部 ディスカッション [11:00-12:00] パネル討論: 少子化時代の大学再生の条件 司 会: 阪田史郎 (千葉大) パネリスト: 中田研一郎 (ソニー), 船曳建夫 (東大), 丸山不二夫 (稚内北星学園大), 宮本岩男 (経済産業省), 山本真司 (河合塾)
	14:30-17:30	情報システムのブレイクスルー可能性を探れ! - ベンダとユーザが win-win で結ばれるための有効なアプローチとは? - [14:30-14:40] はじめのご挨拶 岩田祐一 (情報通信総研) [14:40-15:00] 講演 1: 情報システムのブレイクスルー可能性 (1) 堀内 一 (東京国際大) [15:05-15:25] 講演 2: 情報システムのブレイクスルー可能性 (2) 大根田秀雄 (富士通) [15:30-15:50] 講演 3: 情報システムのブレイクスルー可能性 (3) 伊東曉人 (静岡大) [15:55-16:15] 講演 4: 情報システムのブレイクスルー可能性 (4) 黒木美和 (損保ジャパン) [16:20-17:20] パネル討論: 情報システムのブレイクスルー可能性を探れ! 司 会: 岩田祐一 (情報通信総研) パネリスト: 伊東曉人 (静岡大), 大根田秀雄 (富士通), 黒木美和 (損保ジャパン), 堀内 一 (東京国際大) [17:20-17:30] おわりのご挨拶 岩田祐一 (情報通信総研)

第3 イベント会場 (5 号館 3F 5334 教室)		
日	時 間	内 容
9 月 日 (金)	9:00-12:00	クラスタコンピュータはどうなっていくの？
		[9:00 - 9:10] 講演 1：クラスタコンピュータ！その魅力 中條拓伯（農工大）
		[9:10 - 9:25] 講演 2：高性能 PC クラスタ構築用ハードウェアの近未来像 田邊 昇（東芝）
		[9:25 - 9:40] 講演 3：10Gbit Ethernet の戦略 住元真司（富士通研）
		[9:40 - 9:55] 講演 4：Myrinet の戦略 柴崎勝憲（住商エレクトロニクス）
		[9:55-10:10] 講演 5：InfiniBand の戦略 Michael Kagen（Mellanox Technologies）
		[10:10-10:25] 講演 6：クラスタコンピュータヘビーユーザとして 吉瀬謙二（電通大）
		[10:25-10:40] 講演 7：教育の現場でのクラスタコンピュータ 廣安知之（同志社大）
	13:00-16:00	[10:50-12:00] パネル討論：クラスタコンピュータ・・・どう使えばいいの？ 司 会：中條拓伯（農工大） パネリスト：吉瀬謙二（電通大），柴崎勝憲（住商エレクトロニクス），住元真司（富士通研）， 田邊 昇（東芝），廣安知之（同志社大），Michael Kagen（Mellanox Technologies）
		分子計算のしくみ
		[13:00-14:15] 講演 1：分子コンピューティングと分子プログラミング 萩谷昌己（東大）
		[14:30-15:15] 講演 2：DNA ナノテクノロジー -DNA タイルによる自己組織的ナノ構造制御 山本雅人（北大）
		[15:15-16:00] 講演 3：自律的に動作する DNA コンピュータ = 生体高分子を組み合わせた『人工生命』 木賀大介（東工大）

第4 イベント会場 (5 号館 3F 5335 教室)		
日	時 間	内 容
7 月 日 (水)	10:00-14:30	FIT2005 論文賞セッション（午前の部）
		[10:00-10:30] 講演 1：ひとつの高適合文書を高精度に検索するタスクのための評価指標 酒井哲也（東芝）
		[10:30-11:00] 講演 2：テンス・アスペクト・モダリティの翻訳における機械翻訳システムの誤りの調査 村田真樹（NICT）
		[11:00-11:30] 講演 3：携帯電話用プロセッサで動作する大語彙連続音声認識の並列処理 石川晋也（NEC）
		[11:30-12:00] 講演 4：仮想音環境のための頭部伝達関数コーパス 渡邊貴治（山梨大）
		FIT2005 論文賞セッション（午後の部）
		[13:00-13:30] 講演 5：生成・識別ハイブリッドモデルに基づく半教師あり学習 藤野昭典（NTT）
		[13:30-14:00] 講演 6：拡張現実感のための実画像のぼけ推定に基づく画像合成手法 奥村文洋（奈良先端大）
	14:00-14:30	[14:00-14:30] 講演 7：表情譜：タイミング構造に基づく表情の記述・生成・認識 川嶋宏彰（京大）
8 月 日 (木)	9:00-12:00	安全・安心のための情報技術 -医療，原子力，宇宙航空を題材として-
		[9:00 - 9:30] 講演 1：航空機業界におけるヒヤリハット 河内啓二（東大）
		[9:30-10:00] 講演 2：原子力における安全と安心そのための情報技術 佐藤一男（原子力安全研究協会）
		[10:00-10:30] 講演 3：生命科学からの発想による情報科学の医療応用 辰巳治之（札幌医大）
		[10:30-12:00] パネル討論：ノイズとシグナルの違い 司 会：岩田修一（東大） パネリスト：伊関 洋（東京女子医大），大澤幸生（筑波大），西田豊明（京大），古田一雄（東大），堀 浩一（東大）
	14:30-17:30	オールジャパン体制での情報セキュリティ研究開発 -技術的アプローチと社会的アプローチの融合に向けて-
		[14:30-15:10] 講演：我が国における情報セキュリティへの取り組み 山口 英（内閣官房情報セキュリティセンタ）
		[15:10-16:10] パネル討論 1：法制度からみた情報セキュリティ 司 会：中尾康二（NICT） パネリスト：稲垣隆一（稲垣隆一法律事務所），岡田仁志（国立情報学研），佐々木良一（電機大）
		[16:20-17:30] パネル討論 2：情報セキュリティ研究開発の社会的インパクト 司 会：門林雄基（奈良先端大） パネリスト：伊藤良孝（三井物産セキュアディレクション），岩井博樹（ラック），高木浩光（産総研），土井 洋（情報セキュリティ大），福澤淳二（情報処理推進機構），山村元昭（セキュアブレイン）

第4 イベント会場 (5号館 3F 5335教室)		
日	時 間	内 容
9 日 (金)	9:00-12:00	マルチメディア・バーチャルリアリティ ビデオセッション -あの研究室のあの成果、全部見せます- 短編ビデオクリップによる研究事例の紹介 1クリップあたり3分程度で、全国各地の研究室の成果を紹介
	13:00-16:00	スパコン日本の時代は取り戻せるか 司 会:小柳義夫(東大) パネリスト:秋山 泰(産総研), 奥田基(富士通), 菊池純男(日立), 住 明正(東大), 姫野龍太郎(理化学研), 平木 敬(東大), 渡辺 貞(NEC)

第5 イベント会場 (5号館 1F 5133教室)		
日	時 間	内 容
9 日 (金)	10:00-16:00	サイバーワールド (デモ展示あり)
		[10:00-10:30] 講演1:サイバーワールドが拓く新しい分野 杉山知之(デジハリ学校)
		[10:30-11:00] 講演2:サイバーワールドが拓く新しい分野 -価値創造に向けたコンテンツとモノの融合- 市川晴久(NTT)
		[11:00-12:00] *デモ展示(見学・説明)
		[13:00-14:30] パネル討論:サイバーワールドフィールドマップを作る -今後の発展領域と研究分野- 司 会:井原雅行(NTT) パネリスト:國井利泰(金沢工大), 田中英彦(情報セキュリティ大), 中嶋正之(東工大)
		[14:30-16:00] *デモ展示(見学・説明)
		*展示1:遠隔教育システム Web-Com(PC版+携帯電話版) 平木和輝(茨城大), 新堀道信(ラーニングアイ), 米倉達広, 鎌田宗尚(茨城大) 展示2:対話型アニメ簡易作成環境 islay 岡本秀輔(成蹊大), 山本瑞秋, 下村達也, 中川昌幸(茨城大), 鎌田 賢(茨城大/ラーニングアイ) 展示3:ニュース番組の収録音声を利用した音声合成 -TVMLと連動したデータ放送自動読み上げ- 世木寛之, 都木 徹, 浜口斉周, 道家 守(NHK 技研) 展示4:価値観相違可視化シミュレータ 井原雅行, 小林 稔(NTT) 展示5:VRに基づいた視覚および触覚提示技術の応用 橋本直己, 赤羽 歩, 佐藤 誠(東工大) 展示6:ネットワークを活用したロボットサービスの実証実験 成田雅彦, 鈴木純二(ロボット・サービス・イニシアチブ)

一般講演会場 (5号館, 6号館)	
7日(水) 9:00～12:00, 13:00～15:00, 15:30-17:30	8日(木) 9:00～12:00, 15:00～17:30 9日(金) 9:00～12:00, 13:00～16:00

懇親会会場 (5号館 B1F 食堂)	
8日(木) 18:00～20:00	※船井業績賞, 船井ベストペーパー賞, FIT2005論文賞, FIT2004ヤングリサーチャー賞表彰式も行います.

展示会場 (5号館 1F)	
7日(水)～9日(金)	

イベント企画 講演概要

特別講演〈船井業績賞受賞記念講演〉：ユビキタス・コンピューティングの未来
 9月8日（木）13:00-14:30 [第1イベント会場（5号館5階 5534教室）]



坂村 健（東大）

1951年東京生まれ。東京大学大学院情報学環副学環長／教授。工学博士。

1984年から新しいコンピュータ体系 TRON を構築。現在、TRON はユビキタス環境を実現する重要な組込 OS として世界でもっとも使われている。さらに、コンピュータを使った電気製品、家具、住宅、ビル、都市、ミュージアムなど広範なデザイン展開を行っている。2002年1月より YRP ユビキタス・ネットワークング研究所長を兼任。

『ユビキタス、TRON に会おう』、『ユビキタス・コンピュータ革命』など著書多数。

〔講演概要〕

身のまわりのあらゆるモノにコンピュータが入り、それらがネットワークで相互接続され、協調しながら我々の生活をかけから支えてくれる。私が早くから提唱してきたこのようなユビキタスコンピューティング(どこでもコンピュータ)が現実のものとなってきた。ユビキタス・コンピューティンが従来のモデルとの違うところは現実の人・物・空間の状況を常に意識している点である。在庫管理、物流、食品のトレーサビリティ、医薬品管理など応用分野は無限であり、われわれの生活のさまざまな場面を一変させる革新的な技術であるユビキタス・コンピューティングの未来についてお話す。

船井業績賞記念パネル討論：ユビキタス社会の担い手は何か？
 9月8日（木）15:00-17:30 [第1イベント会場（5号館5階 5534教室）]

〔討論概要〕

「ユビキタス社会」という概念が出されて久しい。このたびの坂村先生の受賞に当たり、今一度ユビキタス社会を支えるべき、(組み込み)ソフトウェアのあり方、ハードウェアのあり方、携帯端末等ハードウェアのあり方、高速ネットワークインフラのあり方、さらには産業界のあり方、という観点から各領域で精力的に活動されている方々をパネリストとしてお招きして議論する。議論では技術的なブレイクスルーが必要な項目、および制度的にブレイクスルーが必要な項目について議論したい。

パネルの途中には随所で坂村先生からのコメントもお願いしたいと考えている。

特別ゲスト：坂村 健（東大）

写真および略歴は「特別講演：ユビキタス・コンピューティングの未来」を参照。



司 会：大蒔 和仁（産総研）

1979年3月東北大学大学院工学研究科博士課程修了。1979年4月通商産業省工業技術院電子技術総合研究所入所。1984年12月～1985年12月スイス連邦工科大学（ETH）情報工学研究所客員研究員。1995年6月電子技術総合研究所企画室長。1997年5月同所情報アーキテクチャ部長。2001年4月独立行政法人産業技術総合研究所情報処理研究部門長。2003年4月同所研究コーディネータ（情報通信・エレクトロニクス担当）（現在に至る）。1992年7月ISO/IEC JTC1 SC21 WG8 CCR LOTOS Project Editor（1995年12月まで）。1995年5月日本ソフトウェア科学会理事（1999年5月まで）。1998年4月情報処理学会理事（2000年4月まで）。2003年7月情報処理学会情報規格調査会副会長。情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、IEEE、ACM 各会員。



パネリスト：関口 智嗣（産総研）

1982年東京大学理学部情報科学科卒業。1984年筑波大学大学院理工学研究科修了。同年工業技術院電子技術総合研究所入所。以来、データ駆動型スーパーコンピュータ SIGMA-1 の開発、ネットワーク数値ライブラリ Ninf、クラスタコンピューティング、グリッドコンピューティング等に関する研究に従事。2001年独立行政法人産業技術総合研究所に改組。2002年1月より同所グリッド研究センター長。市村賞、情報処理学会論文賞受賞。グリッド協議会会長。Global Grid Forum (GGF) External Advisory Committee を始め国際会議委員委嘱多数。情報処理学会、日本応用数理学会、SIAM、IEEE、つくばサイエンスアカデミー各会員。



パネリスト：高田 広章（名大）

名古屋大学大学院情報科学研究科教授。東京大学助手、豊橋技術科学大学助教授などを経て、2003年4月より現職。組込みシステム開発技術の研究に従事。ITRON 仕様の標準活動に参加し、 μ ITRON4.0仕様などの取りまとめを行なう。

オープンソースのITRON仕様OSなどを開発する TOPPERS プロジェクトの会長をつとめる。



パネリスト：中野 博隆（阪大）

1972年東京大学工学部電気工学科卒業。1977年同大学大学院工学系研究科電子工学専門課程博士課程修了。同年電電公社（現NTT）入社。電気通信研究所にて、キャプテン、VODなど画像・映像提供システム、マルチメディア通信システムの研究開発に従事。1999年NTT移動通信網株式会社（現NTTドコモ）マルチメディア研究所所長を経て、2004年4月より現職。



パネリスト：保科 剛（日本ユニシス）

1981年、日本ユニシス入社。数値計画・人工知能分野の研究、アプリケーション開発を担当。その後、オブジェクト指向開発環境「TIPPLER」トランザクショナルORB「SYSTEM v」、システム開発技法「LUCINA」、ASP事業「asaban.com」を企画・開発。2002年、ビジネスアグリゲーション事業部長。2003年、アドバンステクノロジー本部長。2004年4月、最高技術責任者（CTO）兼ビジネスイノベーション本部副本部長。2004年7月より最高技術責任者（CTO）兼先端技術企画部長。

異文化コラボレーションシンポジウム

9月7日（水）10:00-17:00 [第1イベント会場（5号館5階 5534教室）]

[全体概要]

情報通信技術のめざましい進展により、言語や文化的差異を超えて人々の交流が急速に増大し、新たなコラボレーションと摩擦を同時に引き起こしている。例えば、海外におけるオフショア開発、国際共同プロジェクト数の増大など、事例には事欠かない。特にアジアワイドなコラボレーションは緊急の課題である。このような課題に対応するためには、様々な技術を有機的に結合した異文化間相互理解のための支援が必要である。そこで、今後の異文化コラボレーションのあり方とその支援技術の発展を考えるために、異文化コラボレーションの事例報告、研究報告およびオフショア開発に関するパネル討論を行い、研究者間の交流を図る場を提供する。具体的には、異文化コラボレーションの基盤技術の一つである機械翻訳技術から異文化コラボレーションへのアプローチの招待講演および、様々な領域で実際に行われている異文化コミュニケーションについての招待講演を企画する。さらに、オフショア開発の現場の方々を招いてパネル討論を行い、現在直面している現場での問題点および、どのような支援が必要か、それらの問題はコンピュータ技術でどのように解決できるかなどの討論を行う。



司会（午前の部）：宇津呂 武仁（京大）

1989年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。1994年同大学大学院工学研究科博士課程電気工学第二専攻修了。京都大学博士（工学）。奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手、豊橋技術科学大学工学部情報工学系講師を経て、2003年より京都大学情報学研究科知能情報学専攻講師。自然言語処理の研究に従事。

● [10:05 - 10:30] 午前の部・講演1：機械翻訳を用いた異文化コミュニケーションの実現



吉野 孝（和歌山大）

1969年生。1992年鹿児島大学工学部電子工学科卒業。1994年同大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。1995年鹿児島大学工学部電気電子工学科助手。1998年同大学工学部生体工学科助手。2001年より和歌山大学システム工学部デザイン情報学科助手。2004年より同大学助教授。博士（情報科学）東北大学。2001年本会DICOMO2001シンポジウムにおいてベストプレゼンテーション賞、2003年本会大会奨励賞をそれぞれ受賞。異文化コラボレーション、モバイルグループウェア、遠隔授業支援システム、衛星放送システムに関する研究に従事。ACM、IEEE、情報処理学会、電子情報通信学会各会員。

[講演概要]

インターネットの世界規模の普及と広帯域化により、異なる言語を用いる人々の間でのコラボレーションが可能となりつつある。このような世界規模の異文化間協調作業における参加者間のコミュニケーションには、通常は共通言語が使用される。一般に「異文化間のコミュニケーション」という場合には、暗黙的に共通言語を利用した異文化間のコミュニケーションを意味することが多い。しかし、共通言語を利用できない参加者にとっては、他の言語を用いる人とのコミュニケーションは非常に限定されたものになる。そこで、主となるコミュニケーションの手段をお互いの母国語とするが、テキストベースの機械翻訳を積極的に活用することによって、相互に理解可能な環境を提供する。多言語対応リアルタイム電子会議システムを開発し、実際に日本人と中国人の間のコミュニケーション実験を行った。本講演では、開発システムおよび日中間で実施した実験について述べる。

● [10:30 - 10:55] 午前の部・講演 2：機械翻訳へのユーザの適応と書き換えへの教示効果



山下 直美 (NTT)

カナダ、オンタリオ州生まれ。1995 年同志社高等学校卒業。1999 年京都大学工学部情報学科卒業。2000 年カリフォルニア大学アーバイン校訪問研究員。2001 年京都大学情報学研究科数理工学(最適化研究室)修士課程修了。2001 年 NTT 入社。コミュニケーション科学基礎研究所配属。コンピュータを介した対話 (Computer-Mediated Communication) や、コンピュータ支援によるユーザの共同作業 (Computer Supported Cooperative Work) に興味を持つ。

〔講演概要〕

近年、アジアを中心に、インターネット上で機械翻訳を用いて議論をするコミュニティを見かけるようになった。国際的な協調作業が年々増加する中、円滑なコミュニケーションを実現する機械翻訳の需要は今後も増加すると考えられる。

ところが、機械翻訳は本来、新聞記事のように文語体で記述された文書を翻訳するために開発されてきたツールである。このため、機械翻訳システムをコミュニケーションの用途として用いると様々な問題が浮上する。例えば、誤訳による相互理解の破綻や、誤訳を回避するためにユーザに多大な負荷がかかることなどが挙げられる。これらの問題を解決し、機械翻訳がユーザ間のインタラクションでうまく機能するためには、翻訳精度の向上のみならず、実際のコミュニケーションの特徴を考慮に入れた支援機能を組み込む必要がある。

本講演では、機械翻訳を用いて実際に行われたコミュニケーションを分析した結果を紹介し、機械翻訳を介した対話に必要なと思われる支援方法について考察する。

● [10:55 - 11:20] 午前の部・講演 3：機械翻訳可能性の自動評価と機械翻訳不適個所の推定



内元 清貴 (NICT)

1994 年京都大学工学部電気工学第二学科卒業。1996 年同大学院修士課程修了。博士 (情報学)。同年郵政省通信総合研究所入所。現在、独立行政法人情報通信研究機構主任研究員。自然言語処理の研究に従事。2000 年言語処理大会年次大会優秀発表賞、2001 年情報処理学会山下記念研究賞受賞。情報処理学会、言語処理学会、ACL、各会員。

〔講演概要〕

機械翻訳システムと入力文が与えられたときに、そのシステムによって入力文の機械翻訳がどの程度うまく行なえるかを自動評価する方法を紹介する。本手法では、システムには原言語と対象言語相互間の翻訳を行なえることが要求されるが、機械翻訳の自動評価に必要とされるような参照文は必要としない。この手法を原言語文の各部分に適用することにより、機械翻訳がうまくできない個所を自動推定することができる。このような機械翻訳に不向きな部分を被験者に提示し、原言語文を書き換えてもらったところ、翻訳システムによる翻訳文の質が向上することが分かった。近年、言い換え技術が盛んに研究され、フリーのソフトウェアも公開されている。このような言い換え技術を利用し、提案手法で機械翻訳可能性が高くなるような書き換え候補を自動で選択することにより、機械翻訳システムそのものに手を入れることなく、自動的に翻訳の質を向上させられるようになると期待される。

● [11:20 - 11:45] 午前の部・講演 4：コミュニケーション支援のための言い換え技術の現状と今後



乾 健太郎 (奈良先端大)

1967 年生。1995 年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了。同年より同研究科助手。1998 年より九州工業大学情報工学部助教授。1998 年～2001 年科学技術振興事業団さきがけ研究 21 研究員兼任。2001 年より奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授。現在にいたる。2004 年文部科学省在外研究員として英国サセックス大に滞在。博士 (工学)。自然言語処理の研究に従事。情報処理学会、人工知能学会、ACL 各会員。

〔講演概要〕

意味が近似的に等価な言語表現の異形を言い換えと言う。言い換え技術とは、所与の言語表現からその言い換えを生成する言い換え生成技術、および所与の言語表現対が言い換え関係にあるか否かを判定する言い換え認識技術の総称である。これらの技術は、機械翻訳の前編集や読解支援のための文章簡単化、質問応答や複数文書要約など、様々な応用に貢献する応用横断的なミドルウェア技術になると期待されており、近年研究者の関心を集めてきた。本講演では、こうした言い換え技術について、工学的研究を中心に近年の動向を紹介する。具体的には、コミュニケーション支援の観点から言い換え技術の応用可能性について論じた後、主として言い換え生成の研究を機械翻訳と対比させながら概観し、最後に言い換えに必要な言語資源に関する最新の研究動向を紹介する。



司会 (午後の部)：石田 亨 (京大)

1976 年京都大学工学部情報工学科卒業。1978 年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。現在、京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻教授。上海交通大学客座教授。工学博士。IEEE フェロー、情報処理学会フェロー。人工知能、コミュニケーション、社会情報システムに興味を持つ。デジタルシティ、異文化コラボレーションなどのプロジェクトを主宰。

● [13:05 - 13:35] 午後の部・講演 1：小・中学校での異文化コミュニケーション「Pangaea プロジェクト」



森 由美子 (NPO 法人バンゲア)

1985 年 Saint Mary's College, California 卒業 (幼児心理学・幼児教育学を専攻)。モンテソリ教員の資格を持ち、アメリカで計 5 年幼稚園教師を務める。1986 年スタンフォード大学研究員 (Schizophrenia Biological Research Center) となる。1988 年 UCLA School of Education にて国際比較教育を学ぶ。1991-1999 年 (株) トミーにて、幼児知育玩具の事業室長。2001 年 4 月 (株) CSK の CAMP (Children's Art Museum and Park) 大川センター企画立案立ち上げ。現在、エグゼクティブ・プロデューサー。2002 年 MIT (マサチューセッツ工科大学) メディアラボ客員研究員となる。NPO 法人バンゲアを設立 (理事長)。2004 年文部科学省初等中等教育局国際教育課の「初等中等教育における国際教育推進検討会」委員。

〔講演概要〕

世界の子ども達がネットを通して一緒に遊べるユニバーサルブレイグラウンドを、これが研究開発型 NPO 法人バンゲアのミッションである。そこで互いに「つながり」を感じられることができれば、異文化に対する興味や関心もパーソナルなものとなり、それが如いてはひとりでも多くの子ども達の笑顔につながる第一歩なのではと考えた。インターネットを用いることでいろいろな情報やデータを交換できる時代。しかし、言葉の壁は大きく立ち上がる。アフリカ・ヨーロッパ・アジア・アメリカの様々な国から参加希望のメールが届く。アメリカから生まれたコンピュータとインターネットの使用言語はもちろん英語。子どもたちが「つながり」を感じるために、外国語でそれは可能なのか。全ての子ども達が遊ぶブレイグラウンドに言葉で優劣はつけられない。そこから多言語コミュニケーションツール、Communicator の開発が始まった。子ども達が互いに創作物にコメントしたり、質問したりする。ということの想定から始まった。使用するのは絵文字と子ども達が日常使用する定型文の組み合わせ。国境を越えたネットによるアンケート調査と海外拠点との連絡の中で見えてくる文化の差。絵文字にも文化により変換が必要である。「つながり」は、顔、声、動作とその相手に関する様々な情報が伴うことで増していく。バンゲアビデオレターをアフリカと始め、その中から見えてきた翻訳の必要性。主要言語はマンパワーでどうにかするが、カンボジアのクメール語ではどうするのか。機械翻訳を子ども達の持つ力を利用し、自らが理解するために努力をすることで、言葉の壁を越えるチャレンジが始まった。

● [13:35 - 14:05] 午後の部・講演 2：海外との大学間遠隔講義における異文化コミュニケーション「Tide プロジェクト」



美濃 導彦 (京大)

1978 年京都大学工学部情報工学科卒業。1983 年同大学院博士課程修了。同年工学部助手。1987 年～1988 年マサチューセッツ州立大学客員研究員。1989 年京都大学工学部附属高度情報開発実験施設助教授。1995 年同教授。1997 年京都大学総合情報メディアセンター教授を経て、2002 年京都大学学術情報メディアセンター教授。画像処理、人工知能、知的コミュニケーション関係の研究に従事。工博、IEEE、ACM、情報処理学会、電子情報通信学会、画像電子学会、日本ロボット学会、日本バーチャルリアリティ学会各会員。

〔講演概要〕

京都大学と UCLA の間で 6 年間継続的に行ってきた実時間遠隔講義プロジェクト TIDE における学生間の異文化コミュニケーションについて述べる。大学の教室間を高速専用回線で接続し、実時間で双方の学生が同時に講義を受けられるシステムを利用して、さまざまな科目を試行してきた。教師は双方の大学でそれぞれ存在し、どちらか一方の教師が講義を行う。講義は英語で行っているが講義のレベルは日本の大学生にとってそれほど高いものではないので、学生の負担は双方とも同じ程度である。学生からのアンケート調査によれば、遠隔講義のものに対する興味や講義に対する態度などで学生の態度に文化的な違いがみられる。講義の内容も人文系の講義の方が文化の違いが講義に現れて興味深いことが分かった。

● [14:05 - 14:35] 午後の部・講演 3：職場での異文化間コミュニケーション



西田 ひろ子 (静岡県大)

静岡県生まれ。米国ミネソタ大学大学院コミュニケーション研究科博士課程修了。1979 年 Ph.D. (コミュニケーション学博士) 取得。その後、東京大学大学院社会学研究科 (社会心理学専攻) 博士課程修了。1989 年より静岡県立大学国際関係学部助教授。1991 年同大学院国際関係学研究科助教授兼任。1995 年より静岡県立大学国際関係学部教授。同大学院国際関係学研究科教授兼任。国際行動学会副会長、同学会『国際行動学研究』編集長。米国 International Communication Association、及び National Communication Association 会員。主要著書に『異文化間コミュニケーション入門』(編著) 創元社、2000 年、『人間の行動原理に基づいた異文化間コミュニケーション』(単著) 創元社、2000 年、『マレーシア、フィリピン進出日系企業における異文化間コミュニケーション摩擦』(編著) 多賀出版、2002 年などがある。

〔講演概要〕

「交通機関や通信技術の飛躍的な発達によって、今や地球は一つの『地球村』になりつつある」というと、「いまや単一の普遍的な文明のなかで生きるための基盤ができつつある」と感じる人があるかもしれない。しかし、現実には、部族や民族の対立あるいは宗教的な紛争の激化など、これまでよりさらに文化間の相違が浮き彫りになってきている。本講演では、「文化間の相違」により実際にどのような摩擦が生じているのか、海外進出日系企業で働く日本人と現地従業員を対象に実施した調査結果を基に、異文化間コミュニケーション摩擦について考察する。調査は、中国、マレーシア、フィリピンといったアジアに進出した日系企業と米国に進出した日系企業で働く日本人と現地従業員 2,558 名を対象に行われたものである。調査結果から、各国の現地従業員の特徴及び日本人の特徴が浮かび上がってきた。このような調査結果を基に、「なぜ異文化間コミュニケーション摩擦が生じるのか」について言及する。

● [15:00 - 17:00] パネル討論：異文化コラボレーションの難しさとは？（オフショア開発）

〔討論概要〕

情報通信技術のめざましい進展により、言語や文化的差異を超えて人々の交流が急速に増大し、新たなコラボレーションと摩擦を同時に引き起こしている。例えば、海外におけるオフショア開発、国際共同プロジェクト数の増大など、事例には事欠かない。特にアジアワイドなコラボレーションは緊急の課題である。このような課題に対応するためには、様々な技術を有機的に結合した異文化間相互理解のための支援が必要である。

そこで、今後の異文化コラボレーションのあり方とその支援技術の発展を考えるために、オフショア開発の現場に詳しい方々を招いてパネル討論を行い、これまでの現場において発生した異文化間コラボレーションの問題点について、特に、日頃直面されている文化や言語の違いによる問題点などについて議論を行い、異文化コラボレーションの問題点を浮き彫りとすること狙っている。さらに、それらの問題はソフトウェア工学の観点から、あるいはコンピュータ技術でどのように解決できるか、これらの問題にどのようにアプローチできるかについての討論を行う。

司 会：吉野 孝（和歌山大）

写真および略歴は「午前の部・講演1：機械翻訳を用いた異文化コミュニケーションの実現」を参照。



パネリスト：青山 健（緑システム設計）

1981年、中国浙江大学 Biomedical Instrument 科入学。1988年、来日。1990年、京都大学情報工学科入学。1994年、同大学院情報工学専攻入学。1996年、NTTソフト（株）入社。1998年、退社、独立。2000年、日本に帰化。現在、東京と杭州（中国）に1ヶ所ずつ開発拠点を構え、オフショアを初め、システム開発に従事している。



パネリスト：落水 浩一郎（北陸先端大）

1946年生。1969年大阪大学基礎工学部卒。1974年同大学院基礎工学研究科博士課程修了。工学博士。静岡大学工学部講師、助教授、教授を経て、1992年より北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授。ソフトウェア工学、特に、オブジェクト指向開発方法論とその支援環境、分散共同開発のプロセスモデルと支援環境に興味を持つ。著書に「ソフトウェア工学実践の基礎」、「オブジェクトモデリング」等。IEEE、情報処理学会、日本ソフトウェア科学会、教育システム情報学会各会員。



パネリスト：ガドギル ニランジャン（マナスソリューションズ）

1968年インドのブネー町生まれ。1984年6月FERGUSONカレッジ卒業。1992年6月ブネー大学コンピューターエンジニアリング部卒業。1993年7月～1995年4月国際基督教大学で日本語とマーケティングマネジメントを修得。1995年8月日本のWEBプロダクションハウスで技術担当として入社。1997年4年インドでマナス・ソリューションズ正式設立し、在籍中の会社からPLAYSTATIONゲーム開発の仕事受託。1997年～2000年4月在籍中の会社の仕事を受託してインド側で開発を行い、これらのプロジェクトマネージャを担当。2000年5月WEBコミュニティー中心としたベンチャー企業へ転職。マナス・ソリューションズが投資して、インド側でサイト開発作業の日本側担当として従事。2001年5月より、マナス・ジャパン有限会社（マナス・ソリューションズの子会社）を設立し、取締役社長に就任。インドと日本の間の“かけはし”となって、両国の関係を深めるように頑張っていきたい。



パネリスト：坂本 史郎（いいじゃんネット）

1986年早稲田大学理工学部卒業。1986年東レ（株）入社 ケブラー事業部。1995年バージニア大学経営学院修了。1995年東レ・デュポン（株）ケブラー事業部。2000年東レ（株）経営企画室。2000年（株）いいじゃんネット設立。代表取締役。

（株）いいじゃんネットは、携帯電話で社内データを安全に閲覧できるカチャットサーバーの開発を行い、セキュリティとモバイルをキーワードに販売を拡大している。

脳科学と情報科学はどう融合していくのか

9月8日(木) 9:00-12:00 [第1イベント会場 (5号館5階 5534教室)]

[全体概要]

20世紀前半は物理学が主導した世紀といえたが、後半は生命科学与情報科学の時代となり、この勢いは21世紀にながれ込んだ。脳は生物の情報機能を担っているが、人間にあっては、記憶、言語、意識など、高次の精神機能がここに生じている。これに挑むには、情報科学の方法が必要である。一方、情報科学はコンピュータの発展とともに高度化した。インターネットやマルチメディアを通じて新しい社会文明をもたらした。これにつれて、より直接的に人間に接する技術となり、いまや人間をも含めた情報システムが議論されなければならない。これには、人の脳に学ぶ情報技術が要求される。脳科学と情報の科学技術はどのように交流し、新しい融合分野を築いていくのか、未来に向けてその展望を行ってみたい。



司 会：甘利 俊一（理化学研）

1963年東大院（博士）終了，九大助教授，東大助教授，教授を経て，現在同名誉教授。理化学研究所脳科学総合研究センターセンター長，数理工学と理論脳科学を専攻し，情報幾何学を脳に応用している。日本学士院賞，IEEE Piore 賞，C&C 賞など受賞多数。国際神経回路学会会長，電子情報通信学会会長などを歴任。

● [9:00 - 9:10] 講演 1：21 世紀の脳科学

甘利 俊一（理化学研）

写真および略歴は「脳科学と情報科学はどう融合していくのか」司会紹介を参照。

[講演概要]

脳は、ニューロンという生物学的な材料をもとにこれを結合して大規模なネットワークを形成し、この上に情報を表現し、また独自の並列アルゴリズムで情報を処理している。さらに学習と自己組織がこれに加わる。脳を解明するには、情報科学と生命科学の融合が必要である。21世紀の脳科学は、人間の解明を目指し、いろいろなレベルで情報科学と生命科学を融合させ、新しい学際科学を作っていくだろう。

● [9:10 - 9:45] 講演 2：計算論的神経科学



深井 朋樹（理化学研）

1985年早稲田大学大学院物理学及び応用物理学専攻において博士課程修了，理学博士号を取得。そのときの専門は素粒子モデルと場の理論。

タタ基礎科学研究所，東海大学工学部，玉川大学工学部などを経て，現在は理化学研究所脳科学総合センター脳回路機能理論チーム チームリーダー，計算論的神経科学研究グループ グループディレクターを兼務。

[講演概要]

感覚認知、記憶や学習、運動制御などの分野において、現在までにさまざまなタイプの工学的な神経回路モデルや、学習・計算理論が提案され、それなりに成功を納めてきた。しかしながら脳と同等あるいはそれ以上の情報処理能力をもつ脳型計算機を開発できたかと問われれば、それはまだ先のことでありと答えざるを得ない。現状の脳の理解において著しく欠けているものに、ニューロン等の構成要素の研究と、もっとマクロな脳の領野ごとの計算機能を解明する研究の中間に位置する、局所神経回路の機能的理解がある。工学的計算理論が脳の情報処理の大筋をとらえていたとしても、実際の脳では、その計算理論を実装するブレインウェアが非常に優れているために、高い処理能力が創出されているように思える。そこで、複雑に張り巡らされた脳の神経回路に関して、近年の脳研究によって解明されたことや、そのような神経回路をモデル化することで明らかになってきたことなどを紹介しながら、脳科学と情報科学の融合に向けて、計算論的神経科学で何ができるかということを、考えてみたい。

● [9:45 - 10:20] 講演3：知識発達ロボティクスによる心と脳の理解に向けて



浅田 稔 (阪大)

1977年大阪大学基礎工学部制御工学科卒業。1982年大阪大学大学院基礎工学研究科後期課程修了。同年大阪大学基礎工学部助手。1989年大阪大学工学部助教授。1995年同教授。1997年大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻教授。工学博士(大阪大学)となり現在に至る。この間、1986年から1年間米国メリーランド大学客員研究員。知能ロボットの研究に従事。1989年情報処理学会研究賞、1992年IEEE/RSJ IROS'92 Best Paper Award、1996年日本ロボット学会論文賞、1998年人工知能学会研究奨励賞、1999年日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門貢献賞、2001年文部科学大臣賞・科学技術普及啓発功績者賞、2001年日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門賞・学術業績賞、2004年人工知能学会研究会優秀賞それぞれ受賞。博士(工学)。

1990年代初頭からロボカップの活動を開始し、1996年秋、知能ロボットとシステムに関する国際会議で実行委員長を務める傍ら、プレロボカップ96を開催し、実機デモとシミュレーションリーグの試合を実施。その後1997年人工知能国際会議で第1回ロボカップ国際大会を開催、阪大チームを優勝に導く。2002年福岡での第6回大会では、総括実行委員長をつとめ、世界30カ国から約200チーム、1000人の競技参加者、12万人の市民がロボカップを観戦した。日本ロボット学会(元理事)、電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会、日本機械学会(2003年4月からフェロー)、計測自動制御学会、システム制御情報学会、日本赤ちゃん学会(理事)、IEEE(fellow since 2005) R&A, CS, SMC societiesなどの会員、NPOロボカップ日本委員会理事、ロボカップ国際委員会プレジデント。

[講演概要]

ヒトの心と脳を理解する研究は、融合的な学問分野であり、生理学、神経科学を基盤とするミクロスコピックなアプローチ、心理学、社会学、認知科学を基盤とするマクロスコピックなアプローチに加え、ロボットなどの人工物の設計・作動による構成的アプローチが考えられる。構成的アプローチが、ヒトの心と脳の理解に、どのような貢献が可能であるか、いまだ手探り状態であるが、本講演では、その可能性について議論する。我々が推進している「認知発達ロボティクス」では、理解の対象となるヒトの発達モデルを人工物の中に埋め込み、環境のなかで作動させ、その挙動から、発達モデルの新たな理解を目指すものである。最初に発達の様相を構成的視点から眺め、認知発達ロボティクスの幾つかの具体例とそれぞれについての討論を通じて、認知発達ロボティクスの方向性を明らかにする。最後に、今後の課題を示してまとめる。

● [10:20 - 10:55] 講演4：脳科学、情報科学と物理学



岡田 真人 (東大)

1985年阪市大・理・物理卒。1987年阪大院・理・物理博士前記課程修了。同年三菱電機入社。1991年阪大院・基礎工・生物工学分野博士課程中退。同年阪大・基礎工助手。1996年科技団川人プロジェクト研究員。2001年理研副チームリーダー。2002～2005年(独)科技機構さきがけ研究員。2004年東大院・新領域・教授。1993年度日本神経回路学会研究賞。1997年度(社)計測自動制御学会生体・生理工学部会 研究奨励賞受賞他受賞。

[講演概要]

物理学と脳科学、情報科学とのまじわりを語るとき、Hopfieldの名前を無視することはできない。彼の影響を受けた多くの物理学者は脳科学に参入し、現在その分野で確固たる地位を築いている。Hopfieldモデルは記憶や認知の素過程がアトラクターによって担われているという仮説を生み、その仮説は高次視覚野や記憶を司る海馬で実証されつつある。その一例として、側頭葉の顔反応細胞に関する知見を紹介する。もうひとつの流れは確率的情報処理への情報統計力学的アプローチである。ベイズ統計と統計力学の数理的な類似性に基づき、統計力学的手法が確率推論、機械学習に適用され、成功を収めている。Hopfieldモデルを出発点に情報統計力学が最も成功した誤り訂正符号と移動体通信技術であるCDMAを紹介する。これらの事例をもとに、未来に向けて物理学が脳科学と情報の科学技術の交流の要となりうるかを議論してみたい。

● [10:55 - 11:30] 講演5：人工知能と機械学習の立場から



麻生 英樹 (産総研)

1981年東京大学工学部計数工学科卒業。1983年同大学院工学系研究科情報工学専攻修士課程修了。同年通商産業省工業技術院電子技術総合研究所入所。1993年から1994年ドイツ国立情報処理研究センター客員研究員。2001年組織改編により独立行政法人産業技術総合研究所に転任。現在、独立行政法人産業技術総合研究所情報技術研究部門主任研究員。学習能力を持つ知的情報処理システムの研究に従事。電子情報通信学会、人工知能学会、日本神経回路学会、行動計量学会、各会員。

[講演概要]

本講演では、機械学習研究を通して、人間の情報処理と機械の情報処理の関係、脳科学と情報科学の交流について考察する。「学習」は、複雑で多様な環境で知的な情報処理を実現するためのプロセスであり、脳にとってもコンピュータにとっても本質的に重要である。機械学習の研究は動物や人間の学習、帰納的推論を模倣することから始まった。統計的な機械学習の研究では、その問題を、観測データと事前知識(ヒューリスティクス、バイアス)を用いた仮説探索として定式化した。統計的な学習の最大の成果のひとつである各種パターン認識技術は、ネットワーク上のデータ量の急激な増加にも支えられて成熟してきており、その先への展望が模索されている。一つの方法は、より人間の学習に近づけるという方向であり、もう一つの方法は、人間には扱えない大規模のデータから学習するという方向である。それぞれの方向において、脳科学と情報科学の相互交流がどのように進むのかを考えてみたい。

● [11:30 - 12:00] パネル討論：脳科学と情報科学はどう融合していくのか

〔討論概要〕

脳科学と情報科学の統合に向けて、何をなすべきかを論じたい。
特に、新しい情報科学としての数理脳科学が必要であることを論ずる。

司 会：甘利 俊一（理化学研）

写真および略歴は「脳科学と情報科学はどう融合していくのか」司会紹介を参照。

パネリスト：浅田 稔（阪大）

写真および略歴は「講演 3：知識発達ロボティクスによる心と脳の理解に向けて」を参照。

パネリスト：麻生 英樹（産総研）

写真および略歴は「講演 5：人工知能と機械学習の立場から」を参照。

パネリスト：岡田 真人（東大）

写真および略歴は「講演 4：脳科学、情報科学と物理学」を参照。

パネリスト：深井 朋樹（理化学研）

写真および略歴は「講演 2：計算論的神経科学」を参照。

国家的課題としての情報セキュリティ人材育成
9月9日（金）9:00-16:00 [第1イベント会場（5号館5階 5534教室）]

〔全体概要〕

情報セキュリティは自然科学分野のみならず社会科学としても重要な課題であり、かつ、研究成果の速やかな社会への反映が求められている。このためには、技術の発展はもちろんのこと、それに携わる人材育成も急務であり、各地でさまざまな取り組みがなされている。本シンポジウムでは、我が国における情報セキュリティ分野の人材育成の現状と近未来もにらんだ対応を紹介し、進むべき道を探る。



司 会：牧野 光則（中大）

1987 早稲田大・理工・電子通信卒。1992 早稲田大院修了，博士（工学）。1991～1992 早稲田大・助手，1992～中央大勤務。現在中央大学理工学部情報工学科教授。2003～2004 イリノイ大学シカゴ校訪問研究員。コンピュータグラフィックス，可視化，非線形システム解析に関する研究に従事。中央大学 21 世紀 COE プログラム「電子社会の信頼性と情報セキュリティ」事業推進担当者。現在，電子情報通信学会認定企画委員会幹事，日本技術者教育認定機構（JABEE）基準委員会幹事長。

● [9:00 - 9:15] 開会挨拶



篠田 庄司（中大）

工学博士，IEEE フェロー，電子情報通信学会フェロー。現職：中央大学教授（理工学部電気電子情報通信工学科）。最終学歴：1973 年 3 月，中央大学大学院理工学研究科電気工学専攻修了（工学博士）。
研究活動：主に，フロー・テンションネットワーク，電気回路，セルラーモバイルコミュニケーションネットワーク，マルチホップ無線ネットワーク等に対するグラフ・ネットワーク理論的研究（論文多数）
学会等活動：現在，電子情報通信学会の理事・編集長，認定企画実施委員会（APC: Accreditation Policy Council）委員長ならびに「技術と歴史の研究会」委員長，日本技術者教育認定機構（JABEE）理事也。
著書：演習グラフ理論（共著，1983 年，コロナ社），回路論入門（巻 1, 2: 1996 年，コロナ社），線形代数学（1997 年，コロナ社）ほか数冊。
受賞：David Sarnoff RCA Scholarships 受賞（1962，1963 年度），中央大学総長賞（1964 年），電子情報通信学会論文賞（1992，1997，1998 年度），1995 IEEE International Conference on Neural Networks and Signal Processing から Best Paper Award（1996 年），中央大学学術奨励賞（1997，1998，1999，2001，2002 年），IEEE Third Millennium Medal（2000 年），電子情報通信学会業績賞（2005 年度）。

● [9:15 - 9:45] 主題解説—情報セキュリティ人材育成は国家的課題



辻井 重男（情報セキュリティ大）

1958年東京工業大学工学部電気工学コース卒業。情報セキュリティ大学院大学学長、中央大学研究開発機構教授、東京工業大学名誉教授。工学博士。電子情報通信学会会長、総務省電波監理審議会会長等歴任。現在、日本学術会議会員、電子情報通信学会論文賞、業績賞、功労賞等受賞。IEEE Fellow、第三千年記念賞受賞。総務省「電波の日」総務大臣表彰（2003年度）。日本放送協会「第55回放送文化賞」（2003年度）受賞。著書「暗号—ポストモダンの情報セキュリティ」（講談社メチエ選書）、「暗号と情報社会」（文藝春秋社）、「電子社会のパラダイム」（新世社）等。

〔講演概要〕

本シンポジウムの主題である「国家的課題としての情報セキュリティ人材育成」の緊急性について解説する。

情報セキュリティは、技術、組織運営、法制度、情報倫理などを強く連結させる総合的対策であり、各企業や自治体などにおいて、技術面、制度面等を合わせて総合的に理解しつつ、経営的視点から情報セキュリティを総括できるCISO（Chief Information Security Officer）の育成が緊急の課題となっている。

また、アクティブシニアの2007年問題とCISO人材不足の連動的解決や、国際的に見て極端に遅れている女性の社会進出、特に情報分野における適応の活躍について述べる。

● [9:50 - 11:50] パネル討論：情報セキュリティ人材育成の現場から

〔討論概要〕

「e-Japan戦略」に伴い、ブロードバンド（高速大容量）通信や携帯電話など日本の情報通信インフラは急速な発展を遂げたが、一方でウイルス攻撃や情報流出など新たな社会問題も起きている。こうした問題を防ぐにはシステム上の安全対策がまず必要だが、背景には情報の持ち出しなど人的要素が大きく関係しているだけに、教育面からの解決手段も不可欠である。

本パネル討論会では、情報セキュリティ分野の教育に携わる第一線の学者をパネリストに迎え、日本が現在遭遇している問題点やその原因などを議論し、人材育成の観点からあるべき情報セキュリティ教育の姿を展望する。特に技術者教育だけでなく、CIO（情報統括責任者）やCISO（情報セキュリティ責任者）の育成など、経営者や管理職を対象にした情報セキュリティ教育のあり方などについても議論する。



司 会：関口 和一（日本経済新聞社）

1982年一橋大学法学部卒、日本経済新聞社入社。1988年フルブライト研究員として米ハーバード大学に留学。1989年英文日経キャップ、1990～1994年ワシントン支局特派員。電機担当キャップ、日経産業新聞「サイバースペース革命」企画キャップを経て、1996年より産業部編集委員。2000年から論説委員を兼ね、主に情報通信分野を担当。文化庁文化審議会（著作権）委員、早稲田大学、明治大学の非常勤講師を兼務。著書に「パソコン革命の旗手たち」（日本経済新聞社）など。



パネリスト：武田 圭史（カーネギーメロン大）

1992年防衛大学校理工学専攻卒業。2001年慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士（政策・メディア）。1992年 防衛庁航空自衛隊勤務。2002年アクセンチュア株式会社勤務。2004年カーネギーメロン大学情報ネットワーク研究所客員教員。2005年カーネギーメロン大学大学院情報セキュリティ研究科（日本校）教授。



パネリスト：土居 範久（中大）

1969年慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学。慶應義塾大学理工学部教授を経て、2003年より中央大学理工学部教授、慶應義塾大学名誉教授。工学博士。現在、文部科学省科学技術・学術審議会委員、総務省情報通信審議会委員、科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センターミッションプログラムII「高度情報社会の脆弱性の解明と解決」研究統括、特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会会長、国際計算機学会（ACM）日本支部長、など。専門はソフトウェアを中心とした計算機科学および情報セキュリティ。情報処理学会名誉会員。



パネリスト：林 紘一郎（情報セキュリティ大）

情報セキュリティ大学院大学副学長・教授。元NTTアメリカ社長。経済学博士、博士（法学）。専門は、技術標準や知的財産、メディアのあり方などをめぐる法と経済学、インターネットの自由と規律、セキュリティ法など。著書に『ネットワークの経済学』（NTT出版）、『ユニバーサル・サービス』（共著：中公新書）、『電子情報通信産業』（電子情報通信学会）、『著作権の法と経済学』（編著、勁草書房）、『情報メディア法』（東京大学出版会）、など。



パネリスト：村岡 洋一（早大）

早稲田大学副総長、理工学部教授、COE「プロダクティブICTアカデミアプログラム」拠点リーダー。1965年早稲田大学理工学部卒業、1971年アメリカイリノイ大学電子計算機学科博士課程修了（Ph.D.）。同大学 Visiting Research Associate、日本電信電話公社（現NTT）電気通信研究所などを経て、1985年より早稲田大学理工学部教授、2002年11月より早稲田大学副総長。



パネリスト：安田 浩（東大）

1967年東京大学工学部電子科卒業、1972年同大学院博士課程修了。同年4月日本電信電話公社入社。NTT理事・情報通信研究所所長を経て、1997年3月退社。NTT在職中は、画像符号化、画像信号処理、マルチメディアサービスに関わる研究・開発に従事。

1997年4月東京大学教授、先端科学技術研究センター所属。1998年4月より同大学教授、国際・産学共同研究センター所属。2003年4月～2005年3月国際・産学共同研究センター長就任。高速通信網およびその応用、インターネットおよびその応用、画像処理・画像符号化・知的財産権保護技術の研究ならびに感性工学研究に取組中。

● [12:40 - 13:20] 講演：情報技術と人材育成



丸山 剛司（文部科学省）

1975年東京工業大学大学院電子工学科（工学修士）1981年ハーバード大学ケネディ行政大学院（公共政策修士）、1975年科学技術庁、1991年宇宙国際課長、その後、原子力、宇宙開発行政、科学技術政策などに携わり、2000年科学技術政策局政策課長、2001年文部科学省大臣官房政策課長、2002年文化庁審議官、2005年大臣官房総括審議官などを経て、2005年7月より科学技術・学術政策局長。

〔講演概要〕

政府は、科学技術基本計画、e-Japan戦略などに沿った情報通信技術の振興を図ると同時に、高度情報化社会を支える人材の育成に関し様々な施策を推進している。文部科学省では、教育と科学技術の有機的連携の下に、初等中等教育段階から大学院に至るまで総合的かつきめ細かい人材育成の施策を講じている。また、科学技術基本計画において重点分野とされている情報科学技術については地球シミュレータの運用、次世代機の開発、また産業への利用を含む広範な活用をハード、ソフトの両面から施策を推進している。このような情報技術と人材育成の取り組みについてその狙い、概要を述べる。とりわけ産業界からも要望の強い産学官による高度な情報通信技術人材の育成強化についての現状や今後の取り組みの強化について具体的に述べる。

● [13:20 - 14:00] 記念講演：日本国際賞を受賞して



長尾 真（NICT）

1936年10月4日生。1959年京都大学工学部卒。1966年京都大学工学博士。1961年京都大学工学部助手。1967年京都大学工学部講師。1968年京都大学工学部助教授。1969年フランス・グルノーブル大学客員助教授（1970年10月帰国）1973年京都大学工学部教授。1986年京都大学大型計算機センター長（1990年まで）。1992年京都大学評議員（1994年まで）。1995年京都大学附属図書館館長（1997年まで）。1995年京都大学評議員（1997年まで）。1996年京都大学総長特別補佐（1997年まで）。1996年京都大学大学院工学研究科教授。1997年京都大学大学院工学研究科長・工学部長。1997年京都大学総長（2003年まで）。2001年国立大学協会会長（2003年まで）。2004年独立行政法人情報通信研究機構理事長。1997年紫綬褒章、2005年日本国際賞受賞。

情報工学を専門分野とし、文字認識、画像処理の研究に従事し、世界的な業績を挙げる。日・英語の自動翻訳の研究を中心とする自然言語の研究に従事し、機械翻訳技術の分野で世界をリードする。それらの業績により、国内外の関連学会の会長を歴任している。さらに、京都大学の学内要職に就き、総長を満期2期務める他、国立大学法人法策定過程における国立大学協会会長として同協会の運営を行うなど、組織マネジメントにも多大な業績を挙げる。

〔講演概要〕

私がコンピュータを使って人の顔や航空写真の解析・認識の研究をしたり、言葉の解析や自動翻訳の研究を行いましたのは、子供の頃から人間の心、頭脳の働きに不思議を感じ、興味を持っていたからと存じます。人はよく誤ったり、試行錯誤をしますし、過去の経験から多くを学びます。コンピュータに画像を認識させ、言語の翻訳をさせようとするれば、人間の行っているこのような機能をコンピュータで実現しなければならないと考えました。今日画像の認識や機械翻訳、言語情報処理はいろんな形で実現されるようになってきておりますが、子供の頃の夢が実現されつつあることを実感いたします。

● [14:10 - 15:55] パネル討論：情報分野における女性の活躍

〔討論概要〕

我々が生きる21世紀は、科学技術の将来にとって女性の積極的関与が鍵を握る時代となる。先進諸国では、すでに女性の人材開発に力が注がれてきているが、我が国では少子高齢化など切迫する事態からようやく1999年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、内閣府に男女共同参画局が設置された。

しかしながら、研究者全体に占める女性の割合は依然として11.6%（96,000人、2004年度）と国際的にも低い水準にあり、十分に女性の能力が発揮できる環境が整っているとはいえない。さらに、男女ともに若年層の理工系離れが進む中で、情報は物理と共に女性比率が伸び悩む分野の一つである。創造的かつ調和の取れた社会形成のために、多様性の確保は不可欠であり、そのためにも情報分野で活躍する女性研究者の姿をロールモデルとして発信することは重要な支援策となろう。

パネル討論では、産業界・大学に所属され、活躍されている女性研究者を迎えて、女子の情報分野へのチャレンジ支援、技術者・研究者の生活スタイル、能力発揮・人材育成に必要な事柄などについて討論していただく予定である。



司 会：小舘 香椎子（日本女子大）

1963 年日本女子大学家政学部卒業，1966 年東京大学工学部電子工学科助手，1988 年日本女子大学教授，1992 年より同大学理学部教授，2001 年 4 月から 4 年間同大学院理学研究科委員長。工学博士（東京大学）。応用物理学会理事・評議員，電子情報通信学会評議員，男女共同参画学協会連絡会初代委員長，電波監理審議会委員（総務省），総合科学技術会議専門委員（内閣府），専門分野：情報フォニクス



パネリスト：今井 桂子（中大）

1976 年東京都立三田高等学校卒業，1980 年津田塾大学文学部数学科卒業，1982 年津田塾大学大学院理学研究科数学専攻博士課程前期課程修了，1985 年津田塾大学大学院理学研究科数学専攻博士課程後期課程単位取得退学，理学博士（津田塾大学）。1985 年～1988 年東京大学工学部計数工学科教務職員，1988 年～1988 年東京大学工学部計数工学科助手，1988 年～1990 年九州工業大学情報科学センター助手，1990 年～1992 年津田塾大学数学科研究助手，1992 年～1999 年中央大学理工学部情報工学科助教授，1999 年～中央大学理工学部情報工学科教授（現在に至る）。



パネリスト：土井 美和子（東芝）

1979 年東京大学工学系修士課程修了，同年東京芝浦電気株式会社（現（株）東芝）総合研究所（現研究開発センター）入所。以来，「ヒューマンインタフェース」を専門分野とし，日本語ワープロ，機械翻訳，電子出版，CG，VR，ジェスチャインタフェース，道案内サービス，ウェアラブルコンピュータ，モバイル EC，ネットワークロボットの研究開発に従事。現在，総務省情報通信審議会委員，文部科学省科学技術・学術審議会専門委員（学術分科会，研究計画・評価分科会），NHK 放送技術審議会委員，情報処理学会理事，電子情報通信学会理事，慶應義塾大学非常勤講師などを務める。全国発明表彰発明賞，電子情報通信学会，情報処理学会，ヒューマンインタフェース学会，ACM，IEEE 各会員，博士（工学）。



パネリスト：藤本 正代（富士ゼロックス）

情報セキュリティ大学院大学講師，中央大学研究開発機構客員研究員，富士ゼロックス（株）ビジネスイノベーション事業部シニアマネージャー，マサチューセッツ工科大学科学技術政策大学院修士課程修了，東京工業大学社会理工学部経営工学専攻博士課程修了（工学博士），警察庁 ITS 技術の安全性に関する調査研究委員会委員，日本能率協会セキュリティ技術シンポジウム企画委員会委員を歴任，情報セキュリティガバナンス，セキュリティマネジメントなど，経営とセキュリティ・リスクに関する研究に従事。



パネリスト：盛合 志帆（ソニー CE）

1993 年京都大学工学部情報工学科卒，同年 日本電信電話株式会社入社。2003 年（株）ソニー・コンピュータエンタテインメント リサーチサイエンティスト，博士（工学），AES 候補暗号 E2 の設計，国際標準暗号 Camellia の設計・安全性評価・国際標準化活動，PlayStation プラットフォームのセキュリティメカニズムの設計・開発などに従事，暗号理論，暗号技術の設計と解析，システムセキュリティなどに興味を持つ，1996 年暗号と情報セキュリティシンポジウム論文賞，1997 年電子情報通信学会 1996 年度学術奨励賞，各受賞，CRYPTREC 暗号技術調査 WG 委員，電子情報通信学会，情報処理学会，IACR 各会員。

海外への情報発信の方法論 —研究成果を世界へ広めよう— 9 月 7 日（水）10:30-12:00 [第 2 イベント会場（5 号館 3 階 5333 教室）]



金谷 健一（岡山大）

1972 年東京大学工学部計数工学科（数理工学）卒業，1979 年同大学院博士課程修了，工学博士，群馬大学工学部情報工学科教授を経て，現在，岡山大学大学院自然科学研究科教授，IEEE フェロー，情報処理学会論文賞（1987 年），電気通信普及財団賞（1999 年），船井情報科学振興賞（2005 年），電子情報通信学会論文賞（2005 年）受賞，著書 Statistical Optimization for Geometric Computation, Elsevier, 1996 他，洋書 3 冊，和書 6 冊。

[講演概要]

研究はその成果が多くの研究者に認知されて初めて価値を持つ，その意味で，国際論文誌や国際会議などを通じて研究成果を世界に発信することがますます重要性を増す，そして，そのために国際的な舞台で成果を発信する力が要求される，しかし，日本人研究者は従来から国内で日本語で研究発表を行う機会が多数用意されているためか，有力な国際誌や国際会議への投稿がその潜在的な能力に比べてまだまだ少ない，英語の苦手意識による心理的な障壁もある，本講演では，これからの日本人研究者が世界に向けて積極的に成果を発信してゆくための方法論を，講演者の体験を交えて具体的に提示する，具体的には，まず研究というものの考え方を述べ，論文が不採録になった場合の対処法や査読に通りやすい論文の書き方，査読者への研究の意義を訴える方法，投稿する会議や論文誌や選び方，英語の上達への道，研究者の心構え，Web の活用法などについて講演者のアドバイスを与える。

最先端医用イメージング技術

9月7日(水) 13:00-16:30 [第2イベント会場 (5号館3階 5333教室)]

[全体概要]

今日、医用イメージングの技術進歩は日進月歩の状況である。ここでは、「最新の画像再構成問題」、「最新のMRイメージング」、「最新のPETイメージング」について世界的な業績がある3名の講師をお招きして、各講師のチュートリアル講演ならびに合同のパネル討論を開催して最先端イメージング技術について理解を深めるとともに今後の動向について議論する。

● [13:00 - 14:00] 講演1：最先端画像再構成



工藤 博幸 (筑波大)

1990年、東北大学大学院博士課程工学研究科電気及通信工学専攻修了。同年、同大工学部助手。1992年、筑波大学電子情報工学系講師。1995年、同助教授。2005年、筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻助教授。現在に至る。CTを中心とする医用イメージング、画像処理、コンピュータビジョン、逆問題の数値解法、などの研究に従事。1990年電子情報通信学会論文賞、1991年医用画像工学会論文賞、2001年医用画像工学会論文賞、各受賞。

[講演概要]

画像再構成はCTをはじめとする医用イメージングの根本となる重要な技術であるが、日本は欧米に著しく遅れをとっている分野である。本講演では、画像再構成における最近の進歩や動向を我々のグループの研究を含めて解説する。具体的には、(1)二次元画像再構成における最近の進歩、(2)逐次近似画像再構成、(3)コーンビーム画像再構成、の3つの主テーマについて解説する。難しい数式はあまり使用せずに、最近の研究によってこれまで不可能または困難と思われていた何が可能になったかが分かるように説明する予定である。また、この分野の知識が浅い技術者にも興味を持ってもらえるように工夫する予定である。

● [14:00 - 15:00] 講演2：最先端PETイメージング



村山 秀雄 (放射線医学総研)

1971年に埼玉大学理工学部物理学科卒業後、大阪大学大学院理学研究科修士課程において原子核実験物理学を専攻。企業において放射線取扱主任者業務を経験した後の1976年に放射線医学総合研究所物理研究部に入所。核医学イメージングのための計測およびデータ処理に関する研究に従事し、1982年にRIイメージング用シンチレーション検出器系の基礎的研究により工学博士(大阪大学)授与。2001年に同所医学物理部診断システム開発室長となり現在に至る。

[講演概要]

陽電子放出断層撮像法(PET)は、生体内組織の形態学的異常に先立つ代謝異常を、生体まるごとの体外計測により高精度に検出できる新しい検査法である。標的となる分子に放射性同位元素を標識して、その標識分子を生体内に探索子(トレーサ)として投与する。放射性同位元素の壊変により発生する高エネルギー放射線が体を突き抜ける現象を利用して、体内に分布するトレーサの位置を知ることができる。さらに、生体活動を制御する微量物質やタンパク質によって標識分子が生化学的な変化を受ける様子が、トレーサ濃度分布の時間的変化を解析することで認知できる。本講演では、電子の反粒子である陽電子を元に透過性の高い1対の放射線が発生することを利用し、生体に影響を与えることなく生体内極微量物質の分子生物学的活動を可視化するPET装置の計測原理について簡単に説明し、トレーサ技術と放射線計測技術、ならびに情報処理技術を組み合わせたPET特有の方法論についても紹介する。

● [15:00 - 16:00] 講演3：最先端MRイメージング



本間 一弘 (産総研)

昭和28年生まれ。1976年工学院大学工学部電気工学科卒業。1978年同大学大学院修士課程修了。現在は独立行政法人産業技術総合研究所から独立行政法人医薬品医療機器総合機構へ出向中。東京大学医学部、茨城県立医療大学などの非常勤講師。専門は医用画像工学(画像再構成、画像処理、画像表示)、MRI技術、電子通信情報学会、日本医用画像工学会、日本磁気共鳴医学会、日本医学放射線学会などの会員。

[講演概要]

NMR(核磁気共鳴)を原理とするMRI(磁気共鳴イメージング, Magnetic Resonance Imaging)は水素(^1H)、リン(^{31}P)、ナトリウム(^{23}Na)などの元素の生体を含む物質内の密度、化学的な結合状態、時間的および空間的な変化など2次元断面像あるいは3次元画像として描画する。2003年には5600台(国内の医療施設)を超える装置が駆動し、疾患の画像診断および画像誘導下での治療に利用されている。近年の研究開発は、高感度化および高速化に重点が置かれている。高感度化のためには磁場強度の増大、検出系の高感度化、超偏局磁気共鳴技術などの開発が、他方、高速化のためには、並列データ収集、画像再構成法などの開発が進められている。今回は、現状におけるこれらのMRI技術を解説し、今後を展望する。

● [16:00 - 16:30] 総合討論

司 会：仁木 登（徳島大）

パネリスト：工藤 博幸（筑波大）

写真および略歴は「講演 1：最先端画像再構成」を参照。

パネリスト：本間 一弘（産総研）

写真および略歴は「講演 3：最先端 MR イメージング」を参照。

パネリスト：村山 秀雄（放射線医学総研）

写真および略歴は「講演 2：最先端 PET イメージング」を参照。

IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会

9月8日（木）10:00-12:00 [第2イベント会場（5号館3階 5333教室）]

[全体概要]

ベンチャー企業とは、独自の技術やアイデアによって、リスクを恐れずに新しい領域にチャレンジする企業です。ベンチャー企業がもたらす経済面での貢献は計り知れないと言われており、今日までの歴史を見ても、新規産業や雇用の創出のみならず、新しい社会をデザインしてきたのは常にベンチャー企業でした。特に、情報技術（IT）や、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーなどの研究成果を用いた、大学や研究所からの“スピンアウト起業”に期待が集まっています。こうした背景から、FIT2005の参加者にも、その研究成果を活かしたベンチャー企業や新規産業創出が大いに期待されています。

本企画「パネルディスカッション：IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会」では、特に IT 産業におけるベンチャー起業家として成功した方および IT ベンチャーに関する専門家をお招きして、交流の場を設けます。FIT2005 参加の研究者との積極的なディスカッションの場を設けることで、研究者によるベンチャー企業の意義についても議論します。



司 会：武藤 佳恭（慶大）

慶應義塾大学工学部電気工卒（1978）、同修士課程修了（1980）、同博士課程修了（1983）、工学博士（1983）、南フロリダ大学コンピュータ学科助教授（1983-1985）、南カロライナ大学コンピュータ工学科助教授（1985-1988）、ケースウエスタンリザーブ大電気工学科准教授（1988-1996）、tenured 受賞（1992）、慶大環境情報学部助教授（1992-1997）、同大教授（1997-現在）、研究：ニューラルコンピューティング、セキュリティ、NSF-RIA 賞（1989）、IEEE Trans. on NN 功労賞（1992）、IPSJ 論文（1980）、TEPCO 賞（1993）、KAST 賞（1993）、高柳賞（1995）、KDD 賞（1997）、NTT tele-education courseware 賞（1999）、US-AFOSR 受賞（2003）、国際協力機構 JICA 理事賞（2004）、政府顧問 NCC（フィリピン）、VITTI（ベトナム）、CTTISC（ジョルダン）、タイ、スリランカ、マルチメディア大学（マレーシア）、22 冊の本と 200 編以上の科学論文。

● [10:00 - 10:30] 講演：IT 系ベンチャーの現状と動向

武藤 佳恭（慶大）

写真および略歴は「IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会」司会紹介を参照。

[講演概要]

本講演では、「パネルディスカッション：IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会」への導入として、IT 系ベンチャー企業の現状を解説し、その動向を紹介します。

本講演により、パネルディスカッション参加者全員に IT 系ベンチャーを取り巻く様々な状況の認識を深めてもらうことで、後に続くディスカッションへの積極的な参加を期待します。

● [10:30 - 12:00] パネル討論：IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会

司 会：武藤 佳恭（慶大）

写真および略歴は「IT ベンチャーが拓く新しい未来・社会」司会紹介を参照。



パネリスト：家本 賢太郎（クララオンライン）

1981 年 12 月 2 日、名古屋生まれ。12 歳で脳腫瘍を発症し、その除去手術中に起きた医療ミスによって半身不随となり、生涯車椅子での生活を宣告される。入院中にインターネットに関心を持ち、1997 年 5 月 20 日に 15 歳でレンタルサーバーを提供するクララオンラインを設立。1999 年には奇跡的に両脚の運動神経が回復し、車椅子無しでの生活が可能になる。2001 年 9 月慶應義塾大学環境情報学部に入學、同在籍中。



パネリスト：登 大遊（ソフトイサー）

筑波大学情報学類3年次に在籍中。情報処理推進機構による2003年度未踏ソフトウェア創造事業未踏ユース部門の支援を受け、VPN通信ソフトウェア「SoftEther VPN」を開発。2004年4月にソフトイサー株式会社を設立。高校在学中より、FOMA用のメモリ編集ソフトの開発や書籍の執筆を行うなど、精力的に活動している。



パネリスト：森戸 宏（先端情報工学研）

1953年、東京生まれ、52歳。東京都立大学工学部電子工学科卒業後、日本電気株式会社において半導体集積回路の設計、マーケティングに従事。同時に、半導体産業研究所においてアドバイザー委員、電子マネー小委員会副主査等を歴任。先端情報工学研究所では創業時より、技術主幹としてNEC在籍のまま事業立ち上げに参加、後に移籍、現在に至る。

**フェロー & マスターズ特別講演会 「今だから言う、私の失敗体験」
- 失敗からの教訓とこれからの若い人々への提言 -
9月8日（木）15:00-17:25 [第2イベント会場（5号館3階 5333教室）]**

【全体概要】

そのとき、私は色を失った。しまった、これが抜けていた！なぜあんな判断をしたのか、だが後の祭！もしあの時こうしていたら、今はこうなっていたに違いない！

長年、研究の修羅場をくぐり抜けてきたフェロー達は、危機や曲がり角を幾つも体験してきた。技術の潮流を読み間違えたり、流れに乗っているつもりがいつの間にかわき道にそれていたり、競争相手からの思わぬ発表で目標がぐらついたり、世の中が思わしくない方向に行くのを止められなかったり、あのとき、もしこうだったら、今ごろ私は・・・、今ごろ世の中は・・・、というような話によって、技術者・研究者の盲点、判断のポイント、迷い過ぎないで一步前に入るための勇気を、若い人たちに伝えたい。



司 会：江尻 正員（産業技術コンサルタント）

1959年阪大・工・機械卒。同年、日立製作所入社。中央研究所にて制御工学、ロボティクス、パターン認識、画像処理などの研究に従事。工学博士。2003年同社 技師長を最後に退任。この間、国際パターン認識連盟（IAPR）の副会長や日本代表理事、日本ロボット学会の会長などを務めてきた。現在は、横断型基幹科学技術研究団体連合副会長、電子情報通信学会フェロー & マスターズ研究会副委員長などを務めている。IEEE、IAPR、電子情報通信学会、日本ロボット学会の各フェロー。



司 会：大田 友一（筑波大）

1977 京大大学院博士課程了。京都大学情報工学科助手、筑波大学電子・情報工学系講師、カーネギーメロン大学計算機科学科客員研究員、筑波大学電子・情報工学系助教授を経て、1992 同教授。2004 より、同大学大学院システム情報工学研究科教授。工博。コンピュータビジョン、視覚情報メディアの研究に従事。通信学会 ISS、パターン認識・メディア理解研究専門委員会委員長、ISS 英文論文誌編集委員長、副会長などを歴任。IEICE フェロー。

● [15:05- 15:40] 講演1：非凡なる凡研究ーデジタルメディア革命はいかにして誕生したかー



吹抜 敬彦（東京工科大）

1959 年京大（電子）卒、1961 年京大修士修了。

1961 年日立中研入社、技師長を経て、1995 年東京工科大工学部情報通信工学科教授。現在に至る。

IEEE フェロー、電子情報通信学会（フェロー、業績賞、著述賞）、映像情報メディア学会（名誉会員、功績賞、業績賞、論文賞、著述賞）、東京都発明研究功労賞、科技厅（現文科省）研究功労賞、発明協会賞、他。著書：画像・メディア工学（信学会教科書）、画像のデジタル信号処理、他。研究歴：（1968 年～）画像信号処理、工博（京大）。

【講演概要】

TV 信号符号化効率の飛躍により、デジタル放送から情報家電や動画配信などに、広範なデジタルメディア革命が起きた。この発端は1990年6月の米GI社の提案にある。当時「符号化技術は飽和した」との共通認識だったが、同社は、何の技術的飛躍もないのに、一挙に1桁近く向上する仕様を提唱した。多くの日本人は信じなかった。翌春、私はデモを見て「本物かもしれない。本物なら大変なことになる」と直感し、学会で盛んに啓蒙した。しかし、あまり反応はなかった。結果は本物だった。それまでWhat's new? を信条として進めてきた私には研究の基本が崩れた感じだった。研究の先端に立てば立つほど、「現在の研究の成熟度はどの程度か」の認識が重要になる。とかく目標を掲げて整然と研究する日本人には、意識革命が必要だと感じた。いろいろな事情からあまり知られていない「TV 技術、空白の10年」の驚きと感動を述べる。

● [15: 40- 16: 15] 講演 2: 画像処理システムの技術開発と事業開発 —ポイントは人間との勝負—



木戸出 正継 (奈良先端大)

1970 年京大大学院工学研究科修士課程修了。同年東京芝浦電気（現、東芝）総合研究所入社。
同社総合企画部、関西研究所、東芝アメリカ社を経て、2000 年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科教授。
京都大学工学博士。画像処理、ロボット応用、ヒューマンインタフェース、ウェアラブルコンピューティングに
関する研究に従事。電子情報通信学会フェロー、情報処理学会フェロー、IAPR（国際パターン認識協会）フェロー、
電子情報通信学会業績賞、高柳記念奨励賞、などを受賞。

〔講演概要〕

画像処理の高速化技術を研究開発し、事業化を狙い市場も大きいと思われた目視検査の自動化に取り組みました。その間、単なる 2 値画像計測から濃淡画像そしてカラー画像計測へ処理機能アップし、装置の小型化・応用アルゴリズムの具体化を行いました。新市場開拓であり、物珍しさも手伝い、小規模ながら新規事業として、販売・次機種開発の事業回転は続き、一時はセールスマンに鞍替えしたように、世に言うベンチャービジネスのはしりをやりました。また、国家レベルでの画像処理関連プロジェクトにも参加し、より賢くを目指した高速ハード（特に LSI 化）の開発を続け、市場展開も積極的に行いました。しかし、思った以上に市場が広がらない、技術開発の更なる継続か、市場拡大の営業強化か、の問題にぶつかりました。世の景気動向と関連しながら成功や失敗を経験しました。

● [16: 15- 16: 50] 講演 3: 音声研究 —私の反省と提言—



中島 隆之 (技術コンサルタント)

東北大学大学院電気及び通信工学専攻（修士課程 1964 年修了）、工学博士。現在の所属 技術コンサルタント。
1964 年～1991 年 旧通産省工技院 電子技術総合研究所にて、音声認識研究室長、パターン情報部長、知能情報部長を歴任。
1991 年～2001 年 シャープ（株）技術本部にて旧応用システム研究所長、技監を歴任。
2001 年～2004 年末（株）パトリスにて、研究開発室技監、現在に至る。

〔講演概要〕

前半では、筆者が旧電経研で行った音声研究のうち、声道形推定法を基点とする一連の研究、精密な極零分析であるピッチ対同期 PSE（パワ・スペクトル包絡）分析、非定常音声波形のスペクトルモデル、零位相インパルス応答重畳音声波形合成法を取り上げ、テーマの概要と、テーマ変遷の理由・経緯、あるいは何故そのテーマを考えついたのか、また、研究の副産物などに重点をおいて述べる。後半では、まず、情報技術を社会インフラと捉える、とする 2002 年米大統領の一般教書の補足資料の内容を紹介し、音声研究の成果を社会インフラとして人類共通の財産に位置付けることで新しい目標の設定と研究開発の仕組みの構築を期待する。そして、万国語共通の音韻認識システムの可能性を指摘して、「(概) 国際音声記号抽出システム」原器を人類の財産として国際協力によって作る夢について述べる。

● [16: 50- 17: 25] 講演 4: 文字認識に取り付かれた楽しい失敗談 —「いい研究者」と「いいマネージャ」の分かれ目—



萩田 紀博 (ATR)

1978 年、慶應義塾大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了。同年電電公社（現 NTT）武蔵野電気通信研究所入所。文字認識、画像認識などの研究に従事。NTT 基礎研究所などを経て、現在 ATR 知能ロボティクス研究所長、ATR メディア情報科学研究所長兼務、工博、IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会、各会員。

〔講演概要〕

一流の研究者をめざして日々の研究活動を行っている方が多いと思うが、20 年、30 年という将来設計やキャリアパスを聞いてみると 1～2 年先の近未来のことしか考えていない方が意外に多い。研究という業務自体かなり長期間にわたって創造性のある成果を出し続けなくてはいけない職業であるために、若いうちから長期な展望をもつことが大切である。自らの経験に照らし合わせてみると、この長期展望がないまま過ごしてしまったという反省がある。30 年近い（まだ高々 30 年だが）研究経験の中で、自分の一生を決める重要な時期は、実はドクターを取る前後であったことに気づく。この時期にちょっとしたボタンの掛け違いをしたために、研究者からマネージャの方にシフトする形になってしまった。講演では、若手研究者が思い通りに伸び伸びと成長していくことを願って、あえて自分の失敗談を述べる。自分のパスをどのように選ぶかを定める場合の参考にして頂ければ幸いである。

若い才能と未踏ソフトウェア創造事業

9月9日(金) 9:30-12:00 [第2イベント会場 (5号館3階 5333教室)]

[全体概要]

2000年から始まった未踏ソフトウェア創造事業は5年計画が延長され、今年度で6年目に入った。これまで多数の開発者が発掘されてきたが、その中で特にどんな若い人達が発掘されて日本のソフトウェアにインパクトを与えてきたのかを検証する。日本にも昔からこの年代で飛び抜けた人は何人もいたと思われるが、その人たちはその後日本の企業社会の中でどうなったのかも含めて、若い才能の発掘と育成・保護・支援のありかたに踏み込んで考えたい、というのも、これは若者たちが情報技術を本格的に学び、探求することに魅力を感じなくなってきたという昨今の状況に喝を入れるという意味もある。

まず、開発当時20歳前後だった何人かの未踏ソフトウェア創造事業(未踏ユースには限らない)開発者若干名に、その成果や意義について簡単に発表してもらい、そのあとのパネル討論において、この事業のプロジェクトマネージャ等にも単刀直入に関連した話題を提供してもらい、日本のソフトウェアの活力化の今後を見据えた議論をしてもらう。



司 会：竹内 郁雄 (東大)

1969年東京大学理学部数学科卒、1971年同大学院理学系研究科数学専攻修士課程修了。同年日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所。1997年、電気通信大学情報工学科教授。2005年東京大学情報理工学系研究科創造情報学専攻教授。博士(工学)。また、2000年より未踏ソフトウェア創造事業のプロジェクトマネージャ。

● [9:30-10:00] 講演1：軽量型OSとデータ圧縮について



川合 秀実 (OSASK計画)

1998年横浜市立大学文理学部卒業。
2000年横浜市立大学大学院総合理学研究科修士課程修了。
2002年未踏ユースに「新OS、OSASK(おさすく)の開発」で採択される。
2000年からOSASK計画の代表者として、在宅で開発を行う。

[講演概要]

2002年の未踏ユースに採択されたPC向けのオープンソース軽量型OS「OSASK(おさすく)」を紹介する。開発計画の無謀性が危惧されていたが、32ビットマルチタスク、GUIオペレーション、1秒での起動、カーネルにドライバやシェルを加えたサイズが100KB未満、FD1枚と33MHzのCPUと8MBのメモリでの快適動作などを実現した。このOSの特徴を支える技術の一つとして独自のデータ圧縮形式があり、非常に高い圧縮率、高速かつ省メモリの展開という特徴をもつ。

また、なぜOS開発者が独自圧縮形式の開発に手を出すことになったのかといういきさつや未踏ユースでの体験も紹介する。

● [10:00-10:30] 講演2：未踏でのSoftEther VPN開発から現在に至るまで

登 大遊 (ソフトイーサ)

写真および略歴は「パネル討論：ITベンチャーが拓く新しい未来・社会」パネリスト紹介を参照。

[講演概要]

2003年度未踏ソフトウェア創造事業未踏ユース部門で開発したSoftEther VPNについて紹介する。どのようにしてSoftEther VPNのアイデアを思いつき、また未踏ソフトウェア創造事業を知ったのかという経緯を紹介し、未踏ソフトウェア開発期間中の進行状況や公開後に生じたトラブル、そしてSoftEther VPN 2.0へのバージョンアップや今後の展望について、技術的なことと非技術的なことを交えて解説する。

● [10:30-11:00] 講演3：レーザードローイングツール Afterglowの開発



田川 欣哉 (リーディング・エッジ・デザイン)

1999年東京大学工学部機械情報工学科卒業、2001年英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修士課程修了、2001年リーディング・エッジ・デザインに参加。現在は主にハイテク製品のデザインプロジェクトを手がけている。最近の活動として、両手親指キーボード「tagtype」、NTTドコモ「OnQプロジェクト」などがある。iF Prodecut Design Award 2005(ドイツ)受賞。

[講演概要]

Afterglowを使うと、レーザーポインタをひょいと動かすだけで、プレゼンテーションソフトにページ送りを実行させたり、レーザーポインタをマウス代わりにしてPCを操作したり、レーザーポインタの光をペンのように使って画面に直接絵や文字を書き入れたりすることができる。Afterglowは、入力デバイスとして市販のUSBカメラを利用する。入力画面に対する自動ゆがみ補正機能や、環境光のノイズ除去機能を備え、ぱっと置いて、ぱっと使える、セットアップの簡単さも特徴である。

本講演では、開発のモチベーションやビジネス化への展望などについても紹介する。

● [11:00-12:00] パネル討論：未踏ソフトウェア創造事業のインパクト

〔討論概要〕

未踏ソフトウェア創造事業が、若い人達にどんなインパクトを与えたか、それによって日本のソフトウェアが本当に元気になったのか、もっといい事業スキームはないのだろうか、もっと裾野を広げるにはどうすればいいか、未踏ブランドはなんぼのものじゃ、など、具体的な事例をベースにいろいろ楽しく議論したい。

司 会：竹内 郁雄（東大）

写真および略歴は「若い才能と未踏ソフトウェア創造事業」司会紹介を参照。



パネリスト：池田 正喜（シーカネット）

大阪大学工学部原子力工学科出身。三菱マテリアル（株）で原子力安全設計・解析評価、各種システムの設計開発に従事。IPA／未踏事業並びに未踏ユースにプロジェクト管理組織として参画し、多くの開発者と交流。2005年4月（有）シーカネットを設立、開発者支援に注力。

パネリスト：川合 秀実（OSASK計画）

写真および略歴は「講演1：軽量型OSとデータ圧縮について」を参照。

パネリスト：田川 欣哉（リーディング・エッジ・デザイン）

写真および略歴は「講演3：レーザーードローイングツール Afterglow の開発」を参照。



パネリスト：中島 秀之（はこだて未来大）

1983年東京大学大学院情報工学専門課程修了（工学博士）。同年電子技術総合研究所、人工知能を状況依存性の観点から研究。マルチエージェントならびに複雑系の情報処理とその応用。2001年より産業技術総合研究所サイバーアシスト研究センター長。2004年より公立はこだて未来大学学長。産業技術総合研究所情報技術研究部門研究顧問、情報処理学会フェロー。

パネリスト：登 大遊（ソフトイサ）

写真および略歴は「パネル討論：ITベンチャーが拓く新しい未来・社会」パネリスト紹介を参照。

パターン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト

9月9日（金）13:00-15:50 [第2イベント会場（5号館3階 5333教室）]

〔企画概要〕

本イベントでは、パターン認識・メディア理解（PRMU）研究専門委員会が行っているアルゴリズムコンテストの本年度入賞者の発表・表彰と、入賞者による自身のアルゴリズムの紹介、ならびにコンテストに関連した研究分野に関する特別講演を実施する。本コンテストは、PRMU研究専門委員会が、当該研究分野における若手研究者の育成と研究会活動の活性化を目的に、1997年度より秋の大会併催事業として毎年実施しているもので、パターン認識・メディア理解分野における代表的な研究テーマを対象に、これに関する具体的な課題を複数の難易度に分けて設定し、各難易度の課題を解決するためのアルゴリズムを募集している。募集にあたってはWeb上でサンプル画像データを公開してアルゴリズムを実装したプログラムの提出を求め、このプログラムの処理結果や計算時間等を参考に、審査委員会でアルゴリズムの新規性や性能を審査し、優秀なプログラムを選定している。ただし応募対象者が若手研究者や学生であることから、アルゴリズムの完璧さや複雑さよりも、若手研究者や学生ならではの素朴なアイデアを積極的に評価する方針を採っている。



司 会：角所 考（京大）

1988年名古屋大学工学部電気学科卒業。1993年大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程修了。1992～94年日本学術振興会特別研究員。1993～94年スタンフォード大学ロボティクス研究所客員研究員。1994年大阪大学産業科学研究所助手。1997年京都大学総合情報メディアセンター（現 学術情報メディアセンター）助教授。博士（工学）。視覚メディア処理、インタラクション、コミュニケーションに関する研究に従事。

● [13:00-13:05] 開会挨拶



村瀬 洋（名大）

1980年3月 名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了。同年 日本電信電話公社（現在NTT）電気通信研究所に入所。1992年6月から1年間 米国コロンビア大学客員研究員。その後 NTT 基礎研究所特別研究員、同研究所メディア情報研究部長を経て、2002年4月から名古屋大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻教授。工学博士。画像認識、マルチメディア情報処理の研究に従事。

● [14:50-15:50] 招待講演：オブジェクト指向からイベント指向へ ―事例ベースビジョナルゴリズムの展開―



和田 俊和 (和歌山大)

1990年3月東京工業大学大学院総合理工学研究科電子システム専攻 博士課程修了
1990年4月岡山大学工学部助手
1995年4月岡山大学工学部講師
1997年4月京都大学工学部助教授
2002年9月和歌山大学システム工学部教授現在に至る

〔講演概要〕

コンピュータビジョンではモデルを用いた対象の表現法がよく用いられる。例えば対象の形状をワイヤフレームで、色を反射モデルで表現することが良く行われる。これらは、対象の見えが従うルールを明示的に与える内包的表現と見なすことができる。これに対して、対象をセグメントすることによって得られるインスタンス、すなわち我々が観測できるデータそのものを列挙することで対象を表現する外延的表現も考えられる。本講演では、前者をオブジェクト指向、後者をイベント指向と呼び、後者に関してどのような処理がどのようなアルゴリズムによって実現できるのかを述べる。

JABEE および情報処理学会と日本技術士会の連携

9月7日(水) 9:30-12:00 [第3 イベント会場 (5号館3階 5334教室)]

〔全体概要〕

JABEE (日本技術者教育認定機構) によって認定された教育プログラムの修了生に対しては技術士一次試験が免除される。また JABEE による認定審査では、企業からの審査員を含めることが要請されている。そのため、技術士が JABEE 審査に協力することが期待されている。一方、2000年には技術士法が改正され、情報工学分野については、情報処理学会から推薦された委員が技術士試験の委員を推薦してきた。また、この改正に伴って技術士は CPD (Continuing Professional Development) を実施することが義務となった。この面での協力を情報処理学会は日本技術士会から求められている。

以上のような状況を踏まえ、本シンポジウムでは JABEE および情報処理学会と日本技術士会の適切な協力関係について議論することを目的とする。



司 会：大岩 元 (慶大)

1965年、東大理学部物理学科卒。1971年東大大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士。東大理学部助手、豊橋技術科学大学講師、同助教授、同教授を経て1992年慶應義塾大学環境情報学部教授。情報教育学、ソフトウェア工学、認知工学の研究に従事している。
情報処理学会 (フェロー)、CIEC (Council for Improvement of Education through Computers)、日本ソフトウェア科学会、電子情報通信学会、教育システム情報学会、日本教育工学会、日本オペレーションズリサーチ学会、人工知能学会。

● [9:30-9:40] シンポジウムの趣旨説明

大岩 元 (慶大)

写真および略歴は「JABEE および情報処理学会と日本技術士会の連携」司会紹介を参照。

● [9:40-10:00] 講演1：日本技術士会 情報工学部会の現状



安田 晃 (松下電工)

1969年名古屋大学工学部電子工学科卒後松下電工(株)入社／ビル管理システム等各種IT機器・システムの研究開発に従事／1999年～2000年：(社)日本技術士会「IT21の会」副会長／2000年：電気科学技術奨励賞(オーム技術賞)／現在：松下電工(株)新規商品創出技術開発部設備ネットワークシステム開発部所属、ITコーディネータインストラクタ、(社)日本技術士会理事 情報工学部会長、東北大学電気通信研究所客員教授、技術士(情報工学、電気・電子、総合技術監理)

〔講演概要〕

最初に技術士とはどのような資格であるかを概説し、法的に定められ54年の歴史を有す母体組織である(社)日本技術士会の概要と現状に関して説明する。そして、21世紀の科学技術創造立国を担うため、科学技術基本法の趣旨を踏まえながら提言されたビジョン：「技術士ビジョン21」のねらい・ポイントについて解説を行う。「技術士ビジョン21」では、「21世紀の国の姿と技術士像」、「科学技術基本法と技術士の位置づけ」、「技術士の職域における役割」、「技術士に求められる基本的要件」に関して、あるべき姿の提言がなされている。さらに技術士情報工学部門に対応する組織である情報工学部会に関して、最近の活動状況や今後の展望について説明を行う。最後に、技術士になるための方法や技術者としてのキャリアプランについて触れ、まとめとする。

● [10:00-10:20] 講演2：技術士とCPD



黒澤 兵夫 (TAKE 国際技術士事務所)

日本電気(株)において、オペレーティングシステム(OS)の開発、東北大学等の大型計算センター、教育システム、図書館システムの設計開発、航空管制システム(ATM)及びD官庁統制デストリビューション管理システムの統括を行う。ODAによるコンピュータトレーニングセンター設計開発と技術協力。

(社)日本技術士会 CPD(継続研鑽)委員会前委員長、現在、TAKE 国際技術士研究所代表。

〔講演概要〕

技術士のCPD(継続研鑽)は技術士法で責務として位置付けられ、技術士にとり重要である。(社)日本技術士会におけるCPDの背景、目的、課題・区分、形態、重みファクター、登録、証明書、問題等について述べる。

また、技術士CPD(継続研鑽)は、技術士の立場・環境を考慮して自主的な研修・教育をベースに展開を図っている。更にCPDカリキュラム、プログラム、Web登録システム、情報処理学会を始めとして学協会、大学との連携、JABEEとの関連、技術士第一次試験・第二次試験の課題について述べる。

● [10:20-10:40] 講演3：技術士試験とCPDに関する情報処理学会の取り組み



有澤 誠 (慶大)

1944年8月生まれ、1967年3月東京大学工学部卒業。

電総研、山梨大工学部を経て、1990年4月慶應義塾大学環境情報学部、現在に至る。

専門は、ソフトウェア工学、コンテンツ工学、交通運輸情報。

〔講演概要〕

学会では今年度から教育委員会の下に技術士委員会を設けて、学会と技術士との連携に関する活動を行うことになった。特に、短期間に技術が陳腐化してしまう情報工学部門では、技術士を取得した後の継続教育プログラムが重要になる。JABEEの方向も含めたCPDをどう進めていくか、これから検討し、実施に移していきたい。

● [10:40-11:00] 講演4：JABEE 認定審査における技術士会との連携



掛下 哲郎 (佐賀大)

九州大学情報工学科卒業、同博士後期課程修了、工学博士。現在、佐賀大学知能情報システム学科助教授。

2001年度より学科のJABEE WG 座長として教育システムの構築を進め、同学科の教育プログラムは2003年度にJABEEによる認定を受けた。2004年度より情報処理学会ア krediyation 委員会幹事およびJABEE 基準委員、データベースおよびソフトウェア工学を専門とする、情報処理学会、電子情報通信学会等会員。

〔講演概要〕

JABEE(日本技術者教育認定機構)による教育プログラムの認定審査は本格段階を迎え、情報および情報関連分野では2004年度までに8プログラムが認定された。JABEEが定める審査チームの構成基準では、原則として実務経験者を含めることが求められている。また、審査員の資格としては、当該分野に対する適切な専門能力、技術者教育に関する熱意、審査員研修会での訓練、オブザーバ経験などが求められている。JABEE 認定審査の審査員は基本的にボランティアベースで審査を行い、審査によって知りえた事項については守秘義務も課されている。以上のような様々な要件を満足する審査員候補者を確保することは、JABEE 認定制度を円滑に運用するために不可欠である。本講演では、技術士が審査員を務めるための基本要件について説明するとともに、将来増加することが見込まれるJABEE 認定プログラムの審査員を確保するための方策について検討したい。

● [11:00-12:00] 総合討論

〔討論概要〕

2000年には技術士法が改正され、情報工学分野については、情報処理学会から推薦された委員が技術士試験の委員を推薦してきた。また、この改正に伴って技術士はCPD(Continuing Professional Development)を実施することが責務となった。この面での協力を情報処理学会は日本技術士会から求められている。

技術士に限らず、情報技術者は他分野の技術者とちがって、専門教育を受けずにこの分野の仕事をしている場合が多い。こうした技術士に対するCPDは他分野とは異なる意味を持つ。

JABEE(日本技術者教育認定機構)によって認定された教育プログラムの修了生に対しては技術士一次試験が免除される。またJABEEによる認定審査では、企業からの審査員を含めることが要請されている。そのため、技術士がJABEE審査に協力することが期待されている。

以上のような状況を踏まえ、本シンポジウムでは情報処理学会と日本技術士会との適切な協力関係について議論することを目的とする。

司 会：大岩 元（慶大）

写真および略歴は「JABEE および情報処理学会と日本技術士会の連携」司会紹介を参照。

**パネリスト：天野 英晴（慶大）**

1986 年 慶應義塾大学理工学研究科博士課程修了。工学博士。

現在、同大学情報工学科教授。

並列計算機アーキテクチャ、相互結合網、リコンフィギャラブルシステムなどの研究に従事。

パネリスト：有澤 誠（慶大）

写真および略歴は「講演 3：技術士試験と CPD に関する情報処理学会の取り組み」を参照。

パネリスト：掛下 哲郎（佐賀大）

写真および略歴は「講演 4：JABEE 認定審査における技術士会との連携」を参照。

パネリスト：黒澤 兵夫（TAKE 国際技術士事務所）

写真および略歴は「講演 2：技術士と CPD」を参照。

**パネリスト：児玉 公信（エヌ・ケー・エクサ）**

（株）エヌ・ケー・エクサ 第 3 事業部門 SPBOM ソリューションオーナー兼技術部担当部長。東京都立大学人文科学部（心理学）卒業、日本石油（株）、北海道大学受託研究員などを経て現職、技術士（情報工学）、慶應義塾大学講師、情報処理学会技術士委員会幹事、情報処理技術者試験委員。

著書に「実践！ファンクションポイント法」JMAM, 1999, 「UML モデリングの本質」、日経 BP, 2004。他にオブジェクト指向関係の訳書多数。

パネリスト：安田 晃（松下電工）

写真および略歴は「講演 1：日本技術士会 情報工学部会の現状」を参照。

3 次元ビデオ処理に関するシンポジウム

9 月 7 日（水）13:00-16:10 [第 3 イベント会場（5 号館 3 階 5334 教室）]

[全体概要]

近年、実世界のオブジェクトを高精細に 3 次元グラフィックオブジェクトとして取得する技術が進展している。この技術は従来の CG による 3 次元オブジェクト合成やモーション・キャプチャによる 3 次元の動き情報取得に比べて、人間や動物など実世界の物体の姿、形、色などを忠実に記録・再現できるばかりでなく、時間変化を追うことができるために新しい映像表現として注目を浴びている。しかし 3 次元ビデオの取得を始めとし、その利用を促進するためには技術的な課題は多い。そのため、3 次元ビデオの取得・圧縮・検索・表示などの新規技術について議論を行う。

**司 会：相澤 清晴（東大）**

1983 年東京大学工学部電子工学科卒業。1988 年東京大学大学院博士課程修了。工博。現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授。画像、メディア処理に関する研究に従事。最近は、ライフログ、3 次元ビデオ、Web の画像処理などの研究に従事。日本 IBM 科学賞（2002 年）等受賞多数。

IEEE Signal Processing Magazine Editorial Board, IEEE Trans. Multimedia, Trans. CSVT Associate Editor, ACM Multimedia2005 Short Paper Track co-chair, 第一回デジタルコンテンツシンポジウム実行委員長（2005）など多くの学術雑誌、会議へ参画。IEICE, ITE, IEEE, ACM 等会員。

**司 会：山崎 俊彦（東大）**

1999 年 3 月、東京大学工学部電子工学科卒業。2004 年 3 月、東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了。

2004 年 4 月より東京大学大学院新領域創成科学研究科基盤情報学専攻助手。主として 3 次元ビデオの圧縮や検索を中心とした画像・映像処理に関する研究に従事。

● [13: 10- 13: 30] 講演 1: 多視点映像からの 3 次元形状・運動復元のための弾性メッシュモデル



延原 章平 (京大)

2000 年 京都大学電気電子工学科卒業。
2002 年 京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻修士課程修了。
2005 年 同上博士後期課程修了, 博士 (情報学)。
2005 年 京都大学大学院情報学研究科 特任助手, 現在に至る。

〔講演概要〕

能や日本舞踊といった無形文化財を 3 次元的に記録・保存するためには, 対象人物である踊り手の姿勢や動作だけでなく, 袖や裾などの微妙な動きが重要な意味を持つと考えられ, その分析・記録のためには, 複雑な運動をする対象全体に渡る精密な 3 次元形状と運動を同時に計測する必要がある。本論文では, 多視点ビデオから得られるシルエット, テクスチャをはじめ, 対象形状の滑らかさや素材の剛性度, そして局所運動情報など多様な情報を弾性メッシュモデルによって統合し, 対象の 3 次元形状と運動の同時復元を行う手法を提案する。

● [13: 30- 13: 50] 講演 2: 圧縮と検索のための 3 次元ビデオ処理

山崎 俊彦 (東大)

写真および略歴は「3 次元ビデオ処理に関するシンポジウム」司会紹介を参照。

〔講演概要〕

近年, 実世界のオブジェクトを高精細に 3 次元グラフィックオブジェクトとして取得する技術が進展している。この技術は従来の CG による 3 次元オブジェクト合成やモーション・キャプチャによる 3 次元の動き情報取得に比べて人間や動物など実世界の物体の姿, 形, 色などを忠実に記録・再現できるばかりでなく, 時間変化を追うことができるために新しい映像表現として注目を浴びている。しかし, 3 次元ビデオは取得アルゴリズムの性質上各フレームが独立に生成されることが多く, 3 次元モデルの頂点の個数や接続関係はフレーム毎に異なる場合が多いためフレーム間の相関を把握しにくい。そのため, そのような動的 3 次元モデルに対していかに効率よく圧縮や検索を行うかが大きな課題である。そこで圧縮, 検索それぞれの問題について最新の研究成果を報告する。

● [13: 50- 14: 10] 講演 3: 3 次元映像アーカイブのための動的 3 次元ビデオの取得・表示技術



岩館 祐一 (NHK 放送技研)

1981 年同志社大・工・電子卒。同年 NHK 入局。1985 年から NHK 放送技術研究所にて HDTV 伝送方式, 3 次元映像処理等の研究に従事。1998 年から 2000 年まで (株) ATR 知能映像通信研究所第 3 研究室長として感性情報処理の研究に従事。現在, 放送技術研究所テレビ方式副部長, 電気通信大学大学院客員助教授兼任。博士 (工学)。

〔講演概要〕

NHK 放送技術研究所では, 複数のカメラを被写体を取り囲むように配置し, その映像から被写体の動的な 3 次元形状モデルを生成する研究を進めている。動的な 3 次元形状モデルは CG と同じようなデータ構造をもっているため, 既存の映像制作システムとの整合性が高く, 映像制作における 3 次元映像素材として利用価値が高いと考えられる。2004 年度には, 文部科学省の委託研究を受託し, その課題として「伝統舞踊の 3 次元映像アーカイブに関する研究」をスタートした。この委託研究の中では, 能楽などの伝統舞踊の動的 3 次元形状モデルを高品質に生成し, アーカイブ化する技術の開発を目指している。本報告では, 3 次元形状モデリング手法, 3 次元映像アーカイブのプロトタイプについて述べる。

● [14: 10- 14: 30] 講演 4: 自由視点 3 次元映像スタジアムのインターネットライブ配信

大田 友一 (筑波大)

写真および略歴は「フェロー&マスターズ特別講演「今だから言う、私の失敗体験— 失敗からの教訓とこれからの若い人々への提言 —」司会紹介を参照。

〔講演概要〕

複数の視聴者が, それぞれ自由に視点を選びながら, スタジアムや体育館で行われるスポーツイベントのライブ中継を, ネットワーク経由で観ることができる技術を紹介する。

大規模な空間に展開する多数の選手を, ライブ中継が可能な速度で 3D モデル化し, そのデータ量をネットワーク配信が可能な程度に小さくするために, 我々はプレーヤービルボードと呼ぶユニークな手法によって選手を 3D モデル化している。これは, 個々の選手を 3D 空間中に配置した 1 枚の平面に貼り付けたライブ映像で表現するものであるが, 視聴者の視点に応じて, 適切に平面の向きを変化させ, ライブ映像を切り出すカメラを選択することによって, 自然で 3D 性の高い自由視点映像を生成することができる。

ネットワーク遅延に影響されにくいデータ生成と配信方式を開発し, 商用ブロードバンド回線経由で, 複数ユーザーに自由視点映像の配信が可能であることを確認した。

● [14 : 30- 14 : 50] 講演 5 : 多視点画像からの自由視点スポーツ映像生成



稲本 奈穂 (慶大)

2002 年慶應義塾大学理工学部情報工学科卒業。2003 年同大学院理工学研究科前期博士課程修了。現在、同大学院後期博士課程在学中。2003 年より文部科学省 21 世紀 COE プログラム情報・電気・電子分野研究員。2004 年より日本学術振興会特別研究員および米カーネギーメロン大学ロボティクス研究所訪問研究員。主として任意視点映像の合成・提示に関する研究、それらの複合現実感技術への応用に関する研究に従事。

【講演概要】

近年、放送局と視聴者間での双方向通信が実現され始め、個人の要望に応じた映像配信サービスが期待されている。一方でコンピュータビジョンの分野では、複数台のカメラで対象シーンを撮影し、それらの多視点画像から任意視点の画像を合成する研究が盛んに行われている。本発表では、スタジアムで撮影されるような多視点のスポーツ映像を対象とし、イメージベースレンダリングの技術を用いて、任意のカメラワークで撮影シーンを再現する手法を紹介する。大規模な空間で行われるイベントのように、カメラの強校正が難しい場合でも、カメラ間の射影幾何的關係を用いることで、シーン全体の再構成を可能にする。さらに、それを複合現実技術に応用し、HMD (Head Mounted Display) を利用した新しいスポーツ映像の提示方法について事例を交えて紹介する。

● [14 : 50- 15 : 10] 講演 6 : 自由視点テレビ



谷本 正幸 (名大)

1970 年東大・工・電気卒。1976 年同大学院博士課程了。工学博士。同年名古屋大学工学部助手。1991 年同教授。通信方式、画像情報圧縮、画像処理の研究に従事。新技術開発財団市村賞貢献賞、電気通信普及財団賞、テレビジョン学会丹羽高柳賞論文賞、電子情報通信学会業績賞など受賞。映像情報メディア学会副会長、電子情報通信学会評議員、通信方式研究専門委員会委員長、画像符号化シンポジウム運営委員会委員長など歴任。電子情報通信学会フェロー、映像情報メディア学会、IEEE 各会員。

【講演概要】

自由視点テレビ (Free viewpoint TV, FTV) は、距離と時間の制約を超えて、あたかもその場にいるかのように自由に視点を変えて 3 次元シーンを見ることのできる究極のテレビジョンである。私たちは FTV を構築するための技術開発を進め、そのリアルタイム実験に世界で初めて成功した。FTV は動画の国際標準化会議である MPEG において新しい 3 次元映像メディアとして高く評価され、その圧縮符号化の標準化が開始されることとなった。FTV は放送や通信だけでなく、エンターテインメント、自然観察、観光、博物館・美術館、アーカイブ、教育、医療、セキュリティ・保守、交通など幅広い分野への応用が期待される。FTV は画像情報の根元である光線を取得、処理、表示するシステムである。FTV の開発を通して、3 次元映像メディアの新しいフレームワークとして、画素ではなく光線を取り扱う新しい光線画像工学を構築している。

● [15 : 10- 15 : 30] 講演 7 : レンズアレイとカメラアレイを用いた全焦点自由視点画像の合成と圧縮



苗村 健 (東大)

1992 年、東京大学工学部電子工学科卒業。1997 年、同博士課程修了。スタンフォード大学客員助教授 (日本学術振興会海外特別研究員) を経て、2002 年、東京大学大学院情報学環助教授。実写に基づく画像合成、複合現実感、実世界指向情報環境などの研究に従事。博士 (工学)。FIT2003 論文賞、3 次元画像コンファレンス優秀論文賞 (2003, 1999, 1996)、映像情報メディア学会丹羽高柳賞論文賞 (1997) など各賞受賞。

【講演概要】

3 次元空間を様々な視点位置から自由に眺める技術を、自由視点画像合成と呼ぶ。立体ディスプレイへの表示のみならず、デジタルアーカイブやコンテンツ作成のための基盤技術として、今後ますます必要性が増す技術分野と考えられる。しかし、実空間や実物体を対象とする場合には、いかに空間の情報をサンプリングするかが重要な課題となる。我々は、自由視点画像合成における焦点ぼけに着目し、すべての領域で焦点のあった自由視点画像合成を実現するための理論的な考察を進めてきた。さらに、この理論に基づき、数千眼のレンズアレイや百眼以上のカメラアレイを用いた空間情報サンプリングシステムを構築し、撮影から画像合成までをすべて実時間で行うことができるインタラクティブな全焦点自由視点画像合成を実現した。また、膨大な空間情報を効率的かつ機能的に扱う情報圧縮手法についても検討を進めている。本講演では、これらの成果を俯瞰的に紹介する。

● [15 : 30- 15 : 50] 講演 8 : Light Field Rendering の鮮鋭化



久保田 彰 (東工大)

1997 年大分大・工・電気電子卒。1999 年東大大学院修士課程了。2002 年同大大学院博士課程了。現在、東京工業大学大学院総合理工学研究科助手。2002 年日本学術振興会特別研究員。2003 年米国カーネギーメロン大学訪問研究員。2004 年神奈川大学ハイテクリサーチセンターポストドクター研究員。

画像の取得と再構成、イメージベースドレンダリングなどの研究に従事。

〔講演概要〕

Light Field Rendering (LFR) により任意視点画像を合成する場合、被写体の 3 次元構造を推定する必要はないが、光線を蜜に取得しなければならない。多数のカメラによって光線を取得する場合、カメラ間の距離をできるだけ小さくする必要があるが、ほとんどの場合において現実的に困難である。そこで、本講演では、被写体の 3 次元構造の推定が不要であるという利点を保ちながら、できるだけ疎な光線群から、品質を損なわない任意視点画像の合成手法の可能性を探る。本手法では、被写体が多層の平面からなると仮定し、各平面に基づいて LFR によって任意視点画像を生成する。このとき、仮定した平面に近い領域は精度よく合成されるが、それ以外の奥行き領域にはゴーストの劣化が生じる。仮定平面の異なる多数枚の任意視点画像を多数枚の劣化画像と見なし、画像復元手法を応用して、全領域で鮮鋭な任意視点画像の再構成を試みる。

**暗黒時代の大学に夜明けは来るか ～黒船来航！官民連携の大学評価結果公表
9 月 8 日 (木) 9:00-12:00 [第 3 イベント会場 (5 号館 3 階 5334 教室)]**

〔全体概要〕

1992 年に 210 万人を数えた 18 歳人口は年を追うごとに減少し、2010 年には 120 万人まで落ち込むと予測される。この動きは大学を直撃し、2007 年には大学志願者数が入学定員を下回る、いわゆる「全入時代」に突入するのは必至だ。つまり、大学が入学者を選抜するのでなく、大学が選ばれる側に廻るのである。

90 年代初めの大学設置基準大綱化を皮切りとして、「個性輝く大学」のあり方が議論され、大学を研究・教育の内容で選ぼうとする動きが高まったと言われる。学部の改組が進み、情報系の学部が急増したのもこの頃だ。しかし、この間受験生は、実際に学部の教育や研究の内容を見て大学を選んできたのだろうか。関心が高まったのは学部の内容ではなく、単なる学部のイメージだったのではない。現に、90 年代後半は右肩上がりだった情報系学部の人気は、IT バブルの崩壊がささやかれるとともにあっけなく後退した。学生に人気のあるのはコンテンツ制作やロボットなど、産業の実態とは結びつかないところばかりである。しかし、大学側は受験生を集めるためにこういった講座を揃えようとするため、実際に産業界で必要なネットワークや組込み系、ソフトウェアエンジニアリングなどの人材は不足するばかりだ。教育の内容で見て、岩手県立大学や静岡大学など、情報分野で「特色ある大学教育プログラム」を取った大学ですら、受験生の減少が続いている。

IT は 21 世紀の産業の基盤であり、ここを担う人材の質は産業競争力全体に影響すると言っても過言でない。にもかかわらず、大学での教育は、昨年度の報告でも述べたとおり産業界とは乖離した状態にあり、先端をリードするエリート人材も、現場の即戦力となる技術者人材も生み出せていない。このような事態は、欧米のみならず、IT による産業技術立国を目指して、産業界と大学とが丸となって人材育成を目指すアジア諸国と比較しても大きく遅れを取っており、今後国際競争力のますますの低下は避けられないとも言える。今こそ、産業界と大学がともに真摯にこの現状と向き合い、人材育成問題に取り組むべきである。

河合塾と三菱総合研究所は、2004 年度に経産省の委託事業で「学力プロファイルのミスマッチ実態調査」を行い、産業界の求める知識・技術と大学教育の内容とのミスマッチの存在を明らかにした。今回はこの手法を IT 分野にも応用して、昨年度報告した IT 分野の大学活動評価の具体的なランキング結果を報告する。さらに、この手法を大学活動の自己診断カルテとして活用する方法も紹介する。また、事業の一環として調査した、海外における産業界と大学とのコラボレーションによる人材育成への取り組みについても報告する。厳しい時代の中で大学がいかに再生を図るかに資する提言を、産業界・大学の両方の立場から行っていきたいと考える。



司 会：阪田 史郎 (千葉大)

1974 年早稲田大学理工学部電子通信修士卒。同年 NEC 入社、以来同社中央研究所にて、コンピュータネットワーク、マルチメディア通信、インターネット、モバイルコンピューティング、ユビキタスシステム等の通信とコンピュータの統合領域の研究に従事。工学博士。同社パーソナル C&C 研究所所長、インターネットシステム研究所所長を経て 2004 年より千葉大学大学院教授。1997～1999 年奈良先端科学技術大学院大学客員教授。情報処理学会フェロー。現在、電子情報通信学会理事、情報処理学会監事。著書「マルチメディアとネットワークによるグループウェア実現技術」、「マルチメディアシステム」、「モバイルコンピューティング」、「インターネットと QoS 制御」、「無線 LAN」、「ワイヤレス・ユビキタス」、「ユビキタスセンサネットワーク」、「情報家電プロトコル」他 30 余。

● [9:00-9:30] 講演：日本の産業再生のための人材の条件と大学ー東アジアの台頭への対抗は可能か



中田 研一郎 (ソニー)

一橋大学法学部卒業。1973年ソニー株式会社入社。1980年ソニー・アメリカに赴任。1988年法務部次長。1989年通商部統括部長。1992年ソニー・ヨーロッパに赴任。1999年ソニー(株)知的財産部統括部長。2001年ソニー(株)人事センターエレクトロニクス人事戦略部統括部長。2003年ソニー(株)人事センターリソースマネジメント部および東アジア人事戦略部統括部長。2004年ソニー・ヒューマンキャピタル(株)執行役員就任(兼務)。

〔講演概要〕

ソニーの採用責任者の観点から

- 企業ではどんな能力が求められているのか

- 社会に出て働くために学生時代に何をしておくべきなのか

というような点について、日本のみならず中国や韓国の新卒採用の経験も含めて国際的な観点から講義をします。特に学生時代から自己実現の助走を始めることができるように、エンジニアの企業におけるキャリアプランを実例を含めて説明をする予定です。一方で企業が求める人材の教育について日本の大学は適切にできているのかどうか日本のみならず中国、韓国における新卒採用の経験を踏まえて問題提起をしたいと思います。

● [9:30-9:50] ポジションステートメント1：大学教育における産業ニーズと教育カリキュラムの乖離をどう縮めるか



宮本 岩男 (経済産業省)

1995年東京大学理学系研究科生物学科動物学教室修了

2002年米国ジョージタウン大学経営学修士修了

1995年通商産業省入省

2002年経済産業省製造産業局生物化学産業課課長補佐

2004年経済産業省産業技術環境局大学連携推進課課長補佐

〔講演概要〕

我が国産業競争力向上の観点から、理工系の大学教育に対する期待は高まりを示している。しかしながら、産業界からは、大学教育が産業界の技術人材養成のニーズにできていないとの指摘がなされている。一方、大学側としては、大学が実際に教育改革を行っていくには産業界のニーズが抽象的であり、何ら具体的な教育の方向性を示すものではないと指摘されている。また、産業界は自社に必要な人材を育成するため、社内研修やOJTなどによる人材養成を重視してきたが、近年、不況や国際競争の激化により、即戦力となる人材を求めており、従来のような人材養成は方向転換を迫られつつある。

そこで、経済産業省としては、産学間のギャップを明らかにすることにより、具体的な大学教育カリキュラムの改革に繋げうような手法の開発に取り組んでおり、昨年12月、本年6月と手法開発の進捗状況に関してプレス発表を行ってきた。特に、本年6月のプレス発表においては、ITソフトウェア分野のみならずバイオ・光学・自動車・半導体の4分野にも適用範囲を拡大し、それぞれ4分野において、いかなる産学間のギャップが存在するかを明らかにすることに成功したところである。

今後、産業界と大学がこの手法を用い、産業界が必要とする人材像を明らかにするとともに、大学側のカリキュラム、学科構成を当該人材像にマッチしたものに直すことにより、大学における教育内容が産業界のニーズを反映したものとなっていくことを期待したい。

● [9:50-10:10] ポジションステートメント2：カリキュラムデザインの時代の到来ー評価結果の解説と使い方ー



山本 真司 (河合塾)

静岡県生れ。1990年学校法人河合塾入塾。高校教員向け雑誌「ガイドライン」編集長に加え、今冬、評価と啓蒙を兼ねた、400人の学者が登場する『わかる！学問 環境・バイオの最前線-大学・研究者ランキング』、1250の学科によるランキング『わかる！学問 理科学の最先端』と共に角川書店刊を手掛けた。他には、別冊宝島『学問の鉄人-大学教授ランキング<文科系編>』『14才と17才のBOOOKガイド』<メディアファクトリー>等。

〔講演概要〕

現在、世間には様々な大学評価があふれている。それらの多くは格付けやランキングなど、マスコミが大学をネタにして話題になるものではあるが、当の大学は、その結果に一喜一憂しても、大学自身を何ら変えるものではない。一方、法的に定められた評価は、大学自身が立てた目標を達成しているかどうかを測るものであって、大学を管理するための方策とも言える。そのような中で、河合塾と三菱総研が、2003年から行った大学評価では、初年度に試行的な格付けを公開した後、評価の意味そのものに対する議論を深め、大学自身が活性化し、方向性を決めていく手助けとなる評価を模索してきた。具体的には、産業界の目指す方向を自らの中に取り入れつつ、大学そのものの、ひいては社会全体も活性化することを目指した結果、大学の競争力世界一(2000年IMD調査)を達成したフィンランドのような大学像を想定し、従来の大学の教育に加えて、産業界の発展に貢献するようなカリキュラムの設計を支援するような大学評価である。そして、今回私たちは、評価の利用者である大学と産業界が重み付けを変えることで、教育に関する議論を促すことができる評価手法を公開した(日経新聞6月25日朝刊参照、URLは下記)http://www.univinfo.jp/rating/ 今回の発表では、一般の社会人も大学評価に参加できる新たな大学観・評価観に基づく評価の、思想から結果までを解説しつつ、より有効的な利用法を紹介したいと考える。

● [10:10-10:30] ポジションステートメント3: IT 産業界で真に役立つ実践的で先進的な IT 技術教育を目指して
- オープンな標準技術に基づく IT 技術者育成の試み



丸山 不二夫 (稚内北星学園大)

1987 年から稚内に移住。「最北端は最先端」をモットーに、当時新設された稚内北星学園短大で、UNIX、C、Network を三本の柱とする新しい情報教育を開始。インターネット、メディア統合、Java の教育を推進する。1998 年、短大学長。2000 年、四大移行とともに大学学長に。2004 年、東京サテライト校を設置。社会人教育を開始する。

〔講演概要〕

IT 技術の急速な革新は、これまでの大学教育では顕在化することのなかったいくつかの新しい問題を浮き上がらせています。従来の教育システムは、基本的には、学問や技術の教育内容の相対的な不変性・安定性を前提とし、青少年期の一時期を「就学期」としてもっぱら学習に専念することで、世代間の知識・技術の継承が可能であるという想定で構築されています。残念ながら、こうした教育システムは、少なくとも IT 技術の教育においては、十分な役割を果たすことは出来ません。講演では、社会人 IT 技術者を対象にした稚内北星大学の東京サテライト校の経験をベースに、新しい時代の新しい大学像を考えてみたいと思います。

● [10:30-10:50] ポジションステートメント4: 日本再生のための、社会を変える大学像-入学者選抜から教育・研究、そして就職まで



船曳 建夫 (東大)

1948 年、東京生まれ。文化人類学者。東京大学卒。ケンブリッジ大学にて人類学の博士号取得。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授。フィールドワークを、太平洋、日本、東アジアで行なう。専門の関心は、人間の自然性と文化性の成り立ち、儀礼と演劇の表現と仕組み、近代化における文化と社会の変化。編著書に、『知の技法』(94 年・東京大学出版会)、『新たな人間の発見』(97 年・岩波書店)、『日本人論』再考』(03 年・NHK 出版)、『大学のエスノグラフィティ』(05 年・有斐閣) などがある。

〔講演概要〕

このイベントの中心的問題は、活発に発展を遂げる産業界の人材育成の要請に、大学がよく応えていないところにある、と整理することが出来ます。しかし、この問題は「産業界」と「大学」のあいだの本質的なミスマッチから来る不可避的なものです。「産業界」とは近代の産業文明の、ここ 200 年の産物です。一方、大学は、農業文明以来の 1000 年以上の歴史を持つ集合体です。産業界が大学に人材育成や変革を要請することは、短い心拍リズムを持つネズミが、長い心拍リズムの象に、同じテンポで生きることを要求していることに他なりません。不可能ではないが難問です。

この難問にはいくつかの誤解と無理解が絡んでいます。第一に、大学とは、18 歳の少年少女を 22 歳で社会に送り出す制度で、それは子供を大人にするだけで精一杯の期間です。第二に、大学とひとくりに呼んでも、知的な能力と意欲において「大学生」にはふさわしくない学生を多く擁する大学が、日本の過半を占めています。第三に、大学はこれまで、「現在」よりも「未来」に属する制度として価値がありました。現在に関わる「トレーニング」は、大学人には価値が低いのです。第四に・・・と、こうした誤解と無理解を明らかにし、その上で、具体的にどのような「大学」制度が、「産業界」という天気の変わりやすい地域で有効たり得るかを考えます。

● [11:00-12:00] パネル討論: 少子化時代の大学再生の条件

〔討論概要〕

1990 年代以降の少子化の動きは大学を直撃し、2007 年には大学志願者数が入学定員を下回る「全入時代」に突入する。90 年代後半に増加傾向にあった情報系学部の人気は、IT バブル崩壊とともにあえなく後退し、学生の人気はコンテンツ制作やロボットなど、産業の実態とは結びつかない分野に集中している。大学は受験生を集めるためにこのような講座を揃えようとするため、実際に産業界に必要なネットワークや組込み系、ソフトウェアエンジニアリングなどの人材は益々不足する状況となっている。

IT は 21 世紀の産業の基盤であり、IT 人材の質が産業競争力全体を大きく左右することはいうまでもないが、現在の大学教育は産業界とは乖離し、最先端をリードするエリート人材も、現場の即戦力となる技術者人材も生み出せていない。このような事態は、欧米のみならずアジア諸国と比較しても大きく遅れをとり、今後国際競争力の益々の低下を招く。

本パネルでは、経済産業省が、大学と産業界とのミスマッチを明らかにするために提案した IT 分野の大学活動評価について、河合塾と三菱総合研究が実施したランキング結果を報告する。さらにそのもととなる先進的な企業や大学の取り組みを紹介しつつ、日本の大学が再生のために進むべき道を提示する。

司 会: 阪田 史郎 (千葉大)

写真および略歴は「暗黒時代の大学に夜明けは来るか ～黒船来航! 官民連携の大学評価結果公表」司会紹介を参照。

パネリスト: 中田 研一郎 (ソニー)

写真および略歴は「講演: 日本の産業再生のための人材の条件と大学-東アジアの台頭への対抗は可能か」を参照。

パネリスト: 船曳 建夫 (東大)

写真および略歴は「ポジションステートメント4: 日本再生のための、社会を変える大学像-入学者選抜から教育・研究、そして就職まで」を参照。

パネリスト：丸山 不二夫（稚内北星学園大）

写真および略歴は「ポジションステートメント3：IT 産業界で真に役立つ実践的で先進的な IT 技術教育を目指して - オープンな標準技術に基づく IT 技術者育成の試み」を参照。

パネリスト：宮本 岩男（経済産業省）

写真および略歴は「ポジションステートメント1：大学教育における産業ニーズと教育カリキュラムの乖離をどう縮めるか」を参照。

パネリスト：山本 真司（河合塾）

写真および略歴は「ポジションステートメント2：カリキュラムデザインの時代の到来 - 評価結果の解説と使い方 -」を参照。

情報システムのブレイクスルー可能性を探れ！ - ベンダとユーザが win-win で結ばれるための有効なアプローチとは？ - 9月8日（木）14:30-17:30 [第3 イベント会場（5号館3階 5334教室）]

[全体概要]

情報システムにおいては、UML 等の「モデリング技術」が広がる一方で、パッケージソフトウェアをはじめとした「システムの"型紙化"」も着実に浸透している。いずれも「ユーザが利用」できる「システム」から「利用」したい「システム」への変化を追求するアプローチといえる。しかし現状では、ユーザが情報システムに十分満足している状況とは言い難い部分あり、またベンダにおいてもやはり収益性を確保できず苦しみ状況が見られる。一方、ビジネスの変化はそのスピードを増し、過去の経験を基礎とした「モデリング技術」「システムの"型紙化"」といった単独アプローチだけでは、変化のスピードに対応可能な情報システムを組みにくい状況も生じている。いったいこの先、ベンダとユーザが win-win で結ばれるような情報システムのブレイクスルーはどういう形でありうるのか？欧米各国の動向も視野に入れつつ、研究者 / ベンダ / ユーザの意見のクロスによって、探っていきたい。



司 会：岩田 祐一（情報通信総研）

1971 年生まれ、東京大学経済学部卒業、筑波大学経営・政策科学研究科修了。1995 年日本電信電話（株）入社、山梨支店、NTT コミュニケーションズ（株）財務部などを経て現在、（株）情報通信総合研究所経営研究グループ研究員。情報通信ビジネス全般の経営・財務・営業戦略調査分析を中心とした活動を行う。「米国 IT ビジネス企業の収益性サーベイ」（松本正雄と共著）で、第 18 回テレコム社会科学学生賞を受賞。

● [14：40- 15：00] 講演 1：情報システムのブレイクスルー可能性（1）



堀内 一（東京国際大）

1968 年～1996 年：（株）日立製作所勤務。1996 年～：東京国際大学商学部情報システム学科。2001 年～：中国国立武漢大学客員教授。主な研究・活動分野：データ中心システム設計手法、オブジェクトモデリング、メタデータ標準化、メタモデル標準化。主たる社会活動：ISO/IEC JTC1 SC32/WG2J (Metadata) 主査（1998～）。ISO/IEC JTC1 SC32 & OMG International Liaison（2000～）。情報処理学会・情報技術標準調査会「メタモデル相互運用枠組み」専門委員会主査。（財）日本規格協会「業務モデル共有技術標準化調査研究委員会」委員長（1998～）。（財）日本規格協会、IT 標準化戦略会議委員（2003～）。NPO:UML モデリング推進協議会副会長（2003～）。DOA+ コンソーシアム副代表（2003～）。ISO/IEC JTC1SC32 & ebXML アジア委員会合同プロジェクト「レジストリ連携」議長（2003～）。情報システム学会理事（2005～）。主要著書：オブジェクト共有技術、（共著、オーム社、2003 年）。データ中心システム設計（オーム社、1990）。オブジェクト指向入門（共著、オーム社、1991）。データベースシステムの設計と開発（オーム社、1983）。オブジェクト指向システム設計（共著、オーム社、1993）。情報資源管理ハンドブック（共著、小学館、1992）。パターンアナリシス（監修、アジソンウェスレイジャパン、1998）。情報システムのコントロール設計（共訳、日経 B P、1988）など。

[講演概要]

立場：IT 関係標準化（ISO SC32 委員）モデリング技術普及（UMTP）

主張・論点：モデリングとは、ビジネス連携とモデル共有、ビジネスベストプラクティスのモデル化。ユーザ企業情報システム部門の複雑、アウトソーシングとオフショアリングの要件、ソフトウェアビジネスの透明化、ビジネスプロセスの可視化。

● [15 : 05- 15 : 25] 講演 2 : 情報システムのブレイクスルー可能性 (2)



大根田 秀雄 (富士通)

1975 年、東京理科大・理・応用数学科卒、同年富士通 (株) 入社。以来、流通業界における情報システム企画、構築ならびに、同分野におけるコンサルティングビジネスに従事。現在、コンサルティング事業本部プリンシパルコンサルタント (流通統括)。

共著「流通ネットワーク革命」他、中国商報記事連載、電子情報通信学会会報誌 VOL. 86, No. 5 執筆など、現繊維ファッション SCM 推進協議会システム小委員会委員。

〔講演概要〕

IT が、経営の要のひとつと認知されたことは、昨今の経営者の方々の口から「IT 活用」という言葉が普通に出て来られることから伺えよう。しかしながら、一方では、「IT 投資には漠然とした不満」を持たれているとい声も聞こえてくる。そこで、本講演では、その要因について語るとともに、ベンダーとしてどのような取り組みを行おうとしているかについて、その一端を紹介する。具体的には、お客様サイドのトップ、現場、情報システム部門の利害関係の変化や、RFP 作成そのものの質の課題などを提示するとともに、ベンダーサイドとしての SI ビジネスモデルの変革への取り組みや、そこでのギャップなどについて言及する。それにより、お客様サイドとベンダーサイドでの課題を浮き彫りにしたいと考えている。そして、その課題に対する取り組みの成否が、今後の WIN-WIN の関係構築に大きな影響を与えるであろうことを議論の題材として提供したい。

● [15 : 30- 15 : 50] 講演 3 : 情報システムのブレイクスルー可能性 (3)



伊東 暁人 (静岡大)

1984 年 静岡大学人文学部経済学科卒業、1991 年 筑波大学大学院経営・政策科学研究科経営システム科学専攻修了。1984-92 年 三井情報開発 (株) 勤務、おもに大規模な DB による検索システムや会計システムの開発に従事。1992- 現在 静岡大学人文学部経済学科講師、助教授を経て教授。この間、1996-97 年カナダ・アルバータ大学客員研究員。経営情報学会会員 (2003-04 年度理事)。

静岡県デジタルメディアの行政活用と産業振興に関する懇談会委員。

〔講演概要〕

さまざまな調査を見ると、SI 企業や SW ベンダーの努力にも関わらずユーザーの情報システムに対する満足度は必ずしも高くない。従来から議論されているように、ユーザー側の要求仕様はなかなか定まらず、たとえユーザーの提示した仕様どおりシステムを開発しても高い満足度は得られていないのである。一方で、地方中小企業の調査を見ると、経営戦略として生き残りをかけた差別化を指向しながらも、情報化では効率化さえもなかなか達成できていない実態が窺える。ユーザー側の「もどかしさ」と開発側の不満、それらを十分に解決することができていないソフトウェア工学のさまざまな技法...今回は、要求仕様を静的に確定しなければビジネスとしてシステム開発ができないのに対して、現実のビジネス環境が動的に変化していることから発生する問題やユーザーの「学習」という視点を導入した開発方法のありかたなどを議論したい。

● [15 : 55- 16 : 15] 講演 4 : 情報システムのブレイクスルー可能性 (4) ～ユーザーの立場：損保ジャパンの場合～



黒木 美和 (損保ジャパン)

1981 年東京工業大学卒業。同年日本電気株式会社に入社。公共システムの SE として 9 年間従事。1990 年旧安田火災海上株式会社に入社。主にシステム企画業務に従事。現在は、株式会社損害保険ジャパン IT 企画部システム調査役。情報処理技術者システム監査、システムアナリスト保有。

以下のシステムのプロジェクトリーダーを務め、常に新技術の採用に取り組んできた。

- ・コールセンターシステム構築
- ・コンシューマ向けインターネットサービス基盤構築
- ・64 ビット LINUX を採用した本社 EUC システム構築

〔講演概要〕

ユーザー企業の立場で、情報システムの位置づけ、期待する役割、構築手法について言及する。

保険業界でも自由化・規制緩和及び海外や他業種からの参入等、ビジネス環境が大きく変革しており、厳しい経営環境である。このような中で情報システムに求められる役割は、経営戦略の具現化ツールそのものである。当然コスト削減も同時に要求される厳しいものである。

当社は、これまで以下の取り組みを行ってきた。

- ・EUC の仕組みの導入と推進
- ・基幹系への Windows の採用
- ・ビジネスロジックの正規化・部品化
- ・ITIL の導入

ますます多様化するビジネスニーズに対応するためには、さらなるスピード化、効率化が必要である。今後の課題としては、上流工程の可視化、標準化である。モデリング技術がどこまで有効化を見極める必要がある。

● [16: 20- 17: 20] パネル討論：情報システムのブレイクスルー可能性を探れ！

〔討論概要〕

いったいこの先、ベンダとユーザがwin-winで結ばれるような情報システムのブレイクスルーはどういう形でありうるのか？
以下を論点の一例としつつ、研究者／ベンダ／ユーザ等、様々な立場からの意見のクロスによって、探っていきたい。

- ・情報システムに対するユーザの満足度に関する見方
- ・情報システムベンダーの収益性に対する見方
- ・ビジネスの変化スピード／状況に対する見方、ならびにそれに対応するシステム構築アプローチの良し悪し／問題点(モデリング、型紙化 etc. その他各種プログラミング技法なども視野に)
- ・ベンダとユーザの win-win 関係が可能な、情報システム構築アプローチは何か？

司 会：岩田 祐一（情報通信総研）

写真および略歴は「情報システムのブレイクスルー可能性を探れ！ ～ベンダとユーザが win-win で結ばれるための有効なアプローチとは？～」司会紹介を参照。

パネリスト：伊東 暁人（静岡大）

写真および略歴は「講演 3：情報システムのブレイクスルー可能性（3）」を参照。

パネリスト：大根田 秀雄（富士通）

写真および略歴は「講演 2：情報システムのブレイクスルー可能性（2）」を参照。

パネリスト：黒木 美和（損保ジャパン）

写真および略歴は「講演 4：情報システムのブレイクスルー可能性（4）～ユーザーの立場：損保ジャパンの場合～」を参照。

パネリスト：堀内 一（東京国際大）

写真および略歴は「講演 1：情報システムのブレイクスルー可能性（1）」を参照。

クラスタコンピュータはどうなっていくの？

9月9日（金）9:00-12:00 [第3 イベント会場（5号館3階 5334教室）]

〔全体概要〕

現在、複数台の高性能PCをラックに組み込み、そのラック内、ラック間を高速ネットワークで接続したクラスタシステムが、高性能計算やデータベースサーバとして活用されています。その性能を左右するものとして、ネットワークインタフェースが重要な要素となります。これらのクラスタ間の接続や同フロア、建物内の高速ネットワーク環境は、SAN (System Area Network) と呼ばれています。このパネル討論では、いくつかの主要なネットワークインタフェースベンダー、クラスタユーザ、クラスタコンピューティング研究者や開発者等にお集まりいただき、廉価版からスーパーコンピュータクラスまで、クラスタコンピュータの今後の方向性について、ネットワークインタフェースを中心に議論する予定です。



司 会：中條 拓伯（農工大）

1961年生まれ。1985年神戸大学工学部電気工学科卒業。1987年神戸大学大学院工学研究科修了。1989年神戸大学工学部助手を経て、現在、東京農工大学大学院共生科学技術研究部部助教授。1998年より1年間イリノイ大学アーバナシャンペーン校 Center for Supercomputing Research and Development (CSRD) にて、Visiting Research Assistant Professor.

● [9: 00- 9: 10] 講演 1：クラスタコンピュータ！その魅力

中條 拓伯（農工大）

写真および略歴は「クラスタコンピュータはどうなっていくの？」司会紹介を参照。

● [9: 10- 9: 25] 講演 2：高性能 PC クラスタ構築用ハードウェアの近未来像



田邊 昇（東芝）

1963年生まれ。1985年横浜国立大学工学部電子情報工学科卒業。1987年横浜国立大学大学院工学研究科修士課程修了。同年(株)東芝入社。1998年新情報処理開発機構つくば研究センターに出向。2001年東芝研究開発センター、コンピュータ・ネットワークラボラトリーに帰任し、現在に至る。その間、超並列計算機、PC クラスタ用ネットワークインタフェース、プリフェッチ機能付メモリモジュールの研究開発に従事。博士（工学）。

● [9 : 25- 9 : 40] 講演 3 : 10Gbit Ethernet の戦略



住元 真司 (富士通研)

1986 年同志社大学工学部電子工学科卒業。同年富士通入社。富士通研究所にて並列 OS、並列分散 OS の研究開発に従事。1997 年より新情報処理開発機構へ出向。SCore クラスタシステムソフトウェア上の高速通信機構の研究開発に従事。

2002 年より富士通研究所にて高速通信機構の研究開発に従事、理科学研究所クラスタなど大規模 PC クラスタの基盤技術開発を担当、情報処理学会 2000 年度論文賞受賞、工学博士 (慶應義塾大学大学院理工学研究科)。

● [9 : 40- 9 : 55] 講演 4 : Myrinet の戦略

柴崎 勝憲 (住商エレクトロニクス)

1993 年 3 月大阪電気通信大学工学部卒業。1993 年 4 月住商エレクトロニクス株式会社入社。入社後 超並列計算機 nCUBE2 の技術関連業務を担当。1995 年頃より Myrinet や PC クラスタの技術関連業務を担当。現在は主に PC クラスタを中心とする CAE 計算サーバの技術関連業務を担当。

● [9 : 55- 10 : 10] 講演 5 : InfiniBand の戦略



Michael Kagan (Mellanox Technologies)

Michael Kagan has over 16 years of experience in leading architecture, design and validation of VLSI products at Intel. In his last position at Intel, as Chief Architect in the Basic Microprocessor Division, he was responsible for the definition of an entire PC platform (microprocessor, chipset, and graphics accelerator) for next-generation products targeted at the low cost market segment. He was responsible for both the architectural definition of next generation Intel products and directing the design team to assure effective implementation. He built and led a highly qualified architecture team of 25 top experts in microprocessors' and system architecture.

Prior to this he led architecture and development of various Intel processors. He managed the design of the Pentium/MMX processor, setting the benchmark for developing clean products and record-fast ramps to production. He was chief architect of i860XP processor and was a key player in major architecture task forces at Intel (i386, i486, Pentium and PentiumPro platforms). He led the definition of i860XP and Pentium system bus. He was a team leader in the 64-bit architecture instruction set definition team, and the definition team of Intel's next generation Massively Parallel Processing computer.

In 1991 he earned the highest distinction award by Intel - the Intel Achievement Award - for the i860XP microprocessor design. He holds 6 patents on processor architecture, micro-architecture and system designs with 4 patents pending. Mr. Kagan holds B.Sc.EE from the Technion in Israel.

● [10 : 10- 10 : 25] 講演 6 : クラスタコンピュータヘビーユーザとして



吉瀬 謙二 (電通大)

1995 年名古屋大学工学部電子工学科卒業。2000 年東京大学大学院情報工学専攻博士課程修了。工学博士。同年電気通信大学大学院情報システム学研究科助手。計算機アーキテクチャ、並列処理に関する研究に従事。

● [10 : 25- 10 : 40] 講演 7 : 教育の現場でのクラスタコンピュータ



廣安 知之 (同志社大)

同志社大学工学部知識工学科助教授。1997 年早稲田大学理工学研究科後期博士課程終了 2003 年より現職。

1998 年から小規模な PC クラスタの構築を開始し、2003 年には AMD 社の Opteron を利用した 256 ノード、512CPU からなる PC クラスタ、SuperNova を構築。Super Computing Site Top 500 の 2003 年 11 月のリストで日本最速の PC クラスタとなる。進化的計算、最適設計、並列処理、設計工学などの研究に従事。

● [10:50 - 12:00] パネル討論：クラスタコンピュータ・・・どう使えばいいの？

司 会：中條 拓伯（農工大）

写真および略歴は「クラスタコンピュータはどうなつてくの？」司会紹介を参照。

パネリスト：吉瀬 謙二（電通大）

写真および略歴は「講演6：クラスタコンピュータへビューザとして」を参照。

パネリスト：柴崎 勝憲（住商エレクトロニクス）

略歴は「講演4：Myrinet の戦略」を参照。

パネリスト：住元 真司（富士通研）

写真および略歴は「講演3：10Gbit Ethernet の戦略」を参照。

パネリスト：田邊 昇（東芝）

写真および略歴は「講演2：高性能PC クラスタ構築用ハードウェアの近未来像」を参照。

パネリスト：廣安 知之（同志社大）

写真および略歴は「講演7：教育の現場でのクラスタコンピュータ」を参照。

パネリスト：Michael Kagen（Mellanox Technologies）

写真および略歴は「講演5：InfiniBand の戦略」を参照。

分子計算のしくみ

9月9日（金）13:00-16:00 [第3イベント会場（5号館3階 5334教室）]

[全体概要]

「分子計算」は、DNA、RNA、タンパク質等の生体分子の形態変化・自己会合・拡散・変異等の化学反応を活用して、並行並列・分散・自己組織化・進化等の情報処理機構を実現することである。1994年にAdlemanがDNA分子を用いたハミルトンパス問題の解法を示してから、分子計算の研究は盛んに行われている。本チュートリアルでは、分子計算の概念や、実現している情報処理機構を解説する。また、生体分子やその化学反応を設計する上での情報科学的な問題についても解説する。さらに、今後の分子計算の方向性として、計算論的ナノテクノロジーおよび構成的生物学の紹介を行う。



司 会：山下 雅史（九大）

1980年名古屋大学工学研究科博士課程後期単位取得退学，1981年工学博士。1980年豊橋技術科学大学助手，1985年広島大学工学部助教授，1992年同教授，1998年以降九州大学システム情報科学研究院教授。

この間，たびたびSimon Fraser大学やWisconsin大学の客員研究員を勤める。主要な研究テーマは，分散システムの基礎理論。電子情報通信学会，情報処理学会，日本応用数理学会，IEEE，ACMの会員。

● [13:00 - 14:15] 講演1：分子コンピューティングと分子プログラミング



萩谷 昌己（東大）

1982年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。京都大学数理解析研究所を経て，現在，東京大学大学院情報理工学系研究科教授（コンピュータ科学専攻）。検証などプログラミングやソフトウェアの基礎に関する研究を行うかたわら，新しい計算パラダイム，特に分子コンピューティングの研究を行っている。

[講演概要]

DNA コンピュータやDNA ナノテクノロジーを中心に，最近の分子コンピューティングの研究動向について概観する。分子コンピューティングの研究は「計算論的ナノテクノロジー」と言うべき方向へ展開している。「計算論的」という言葉には二つの意味がある。一つは，分子反応に対して「計算」という視点を与え情報処理機能を持った分子システムを構築することである。もう一つは，分子システムの構築において各種の情報処理技術を活用することである。特に，分子システムのシステマティックな設計論を「分子プログラミング」と呼ぶ。本講演においては，上述した分子コンピューティングの研究動向を概観するとともに，その計算論的な技術を中心に解説を行う。特に，DNA の配列セットやDNA を用いた構造分子の設計方法を紹介する。また，計算論的な技術の基盤となるべき各種の計算モデルについても触れる。

● [14:30 - 15:15] 講演2: DNA ナノテクノロジー — DNA タイルによる自己組織的ナノ構造制御



山本 雅人 (北大)

1968年札幌市生まれ。1991年3月北海道大学工学部情報工学科卒業。1996年3月北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員(PD)。北海道大学大学院工学研究科助手を経て、2000年4月北海道大学大学院工学研究科助教授。2000年から2003年まで科学技術振興事業団さがけ21協調と制御領域研究員兼任。2004年11月より2005年3月までデューク大学客員研究員。2003年10月より有限会社ソリューションテクノロジー取締役兼任。2004年4月より現職の北海道大学大学院情報科学研究科助教授。

〔講演概要〕

複数の一本鎖DNAを交叉しながら相補結合させることで、平面的なタイル構造(DNAタイル)を作ることができる。各DNAタイルは複数の粘着末端(一本鎖DNA)を持っており、他のタイルの相補的な粘着末端と特異的に結合することで、より大きな構造を形成することが可能である。粘着末端部を適切に変えて(プログラムして)DNAタイルを自己組織的に反応させることで、さまざまな構造やタイルパターンの生成を制御する試み(DNAナノテクノロジー)が注目されている。本講演では、これまで提案されているいくつかのDNAタイルモデルを取り上げ、特に、2種類のDNAタイルを用いたフラクタルパターンや2進カウンタの形成に関する実験的な試みなどについて、その実現方法、課題や今後の展望について紹介する。

● [15:15 - 16:00] 講演3: 自律的に動作するDNAコンピュータ=生体高分子を組み合わせた『人工生命』



木賀 大介 (東工大)

1971年生(34歳)。1999年3月東京大学大学院理学系研究科博士課程生物化学専攻単位取得の上退学。1999年12月博士(理学)取得(東京大学)。1999年4月科学技術振興事業団横山情報分子プロジェクト研究員。2001年10月理化学研究所ゲノム科学総合研究センターリサーチアソシエイト。2003年9月東京大学先端科学技術研究センター科学技術振興特任研究員。2004年9月東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系陶山研究室助手。2005年4月東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻助教授。

〔講演概要〕

DNA計算の研究は、生体高分子が持つ様々な特性を利用する可能性を秘めていたが、当初は、データを超並列的に検索できる点に注目が集められていた。演者らは、この観点にとどまらず、生命という自律的に動作するシステムを構成するDNA・RNA・タンパク質を用いている以上、自律的に動作する演算システムを人工構成できるはずである、という観点から、研究を行ってきた。さらに最近では、入力を生命が生産した分子とし、出力も生命が利用可能な分子とする、自律型演算システムの構築に成功している。このような「天然の生命と親和性を持つ」自律型生体高分子コンピュータの構築は、生命の持つ様々な特性のうち、環境からの情報を処理して反応を行う、という点に特化した「人工生命」を創り出しているともいえる。この構築は、情報科学の研究としての側面を持つと同時に、医学的応用も可能であり、さらには、科学としての生物学研究の新たな分野、「構成的生物学(合成生物学)」の手段ともなっている。

安全・安心のための情報技術 - 医療, 原子力, 宇宙航空を題材として -
9月8日(木) 9:00-12:00 [第4イベント会場(5号館3階 5335教室)]

〔全体概要〕

航空機や原子力の世界では、事故の詳細なデータベースを作り、重大事故の解析や予測を行って、安全性を高める試みが活発化してきた。また、デジタル化が進んだ医学分野では、予防医学や医療事故の問題から個人レベルでの管理を視野に置いたデータベースが作られ始め、Evidence-based Medicineという考え方も広がりつつある。しかし、貴重な経験がデータベース化によって直ちに産業やサービスの現場に活用できるとは限らず、まだ先見的に未来の予測に役立つ例は極めて少ないと言える。情報科学技術は安全安心社会実現のためのキーテクノロジーであるが、単に解法や技術を提供するだけでなく、安全・安心の問題の根源を深く理解し、真に社会の安全と安心に資する情報技術を構築することが求められる。

本パネル討論では、安全と安心がとりわけ重要なキーワードとなる、医療分野、原子力分野、宇宙航空分野において安全・安心の問題に従事している専門家を招くとともに、広い分野に渡り失敗事例を集め、そこから一般的な教訓を引き出そうという失敗知識データベースの構築、データベースを用いた知の構築とメンテナンス、暗黙知のコミュニケーションなどの先駆的な研究に取り組んでいる情報科学技術者を招き、安全と安心の現場においてどのような問題があるかを具体的に討論し、将来の共同プロジェクトなどへの発展の道を探る。



司 会: 岩田 修一 (東大)

1970年東京大学工学部原子力工学科卒。総合試験所冶金方面研究室、西独FIZ-Karlsruhe客員研究員、原子力工学科、人工物工学研究センター、システム量子工学専攻等を経て、現在、新領域創成科学研究科環境学専攻教授。合金設計、材料設計、設計科学、人工物工学、情報学等の研究に従事。ICSU科学技術データ委員会(CODATA)の会長に就任し、「社会における適正な意志決定」のための国際的活動を展開中である。

● [9:00 - 9:30] 講演1：航空機業界におけるヒヤリハット



河内 啓二（東大）

東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授。

1970年東京大学工学部航空学科卒業。1975年同大学工学系研究科博士課程修了。工学博士。1975年-1981年科学技術庁航空宇宙技術研究所研究員。1981年-1991年東京大学工学部助教授。1991年-東京大学工学部教授。専門領域：飛行力学、生物の飛行・泳法、ヘリコプタ工学。

〔講演概要〕

民間航空輸送は国際的な基準の世界である。使用する機体も各国共通であるし、操縦士の免許、整備の方法もほとんど同じである。従って、安全のための情報制度も成熟した部分は、各国でよく似ている。このような情報組織として歴史的に古く、かつ最も有効に機能しているのは、事故調査である。事故が起こってしまった後の対策となるが、再発の防止、技術的問題の解明、システムの整備等に大きな貢献をしてきた。また、事故原因の究明課程で危険箇所を認識し、事故原因に直接関係がなくても、予防的に有効な対策がとられたことが多い。

航空機事故の悲惨さから、事故発生前に事故を予測し対策を講じたいという願いは当然生ずる。事故寸前の重大インシデントと呼ばれるケースも、事故に準じて事故調査委員会で取り扱われるようになってきた。さらに近年では、ヒヤリハットと呼ばれる軽度なミスもデータベース化し、事故防止に役立てようとしている。しかし、事象が軽度になればなるほど、その取捨選択、データの取得方法、公開方法等が難しくなり、各国バラバラの特徴を持った組織が試行錯誤を伴って運営されている。本講演では以上のような安全に関する情報組織の有効性と問題点を考察する。

● [9:30 - 10:00] 講演2：原子力における安全と安心そのための情報技術



佐藤 一男（原子力安全研究協会）

1933年福島県生れ。

1957年東京大学工学部電気工学科卒業。日本原子力研究所入所。

1989～1992年日本原子力研究所理事。1993年原子力安全委員会委員。

1998～2000年同上委員長。2002年原子力安全研究協会理事長。2003年旭日重光賞受賞。

〔講演概要〕

1990年代後半頃からのわが国の原子力施設の事故やトラブルのほとんどには共通する要因があり、それは組織内の安全意識の風化と倫理の頹廃、すなわち安全文化の欠除である。

一方、安全の問題は基本的には技術的問題であるが、国民が求めているのは技術的解決よりは安心の提供である。安心とはつまりは信頼感ということで、このためには従前以上に優れた安全の実績はもとより、更に情報の提供、意志決定過程の透明化、そして国民の参加の促進が重要である。このためには、多様な形態でのコミュニケーションが試みられてきており、例えば原子力委員会、原子力安全委員会、原子力安全・保安院などの決定事項その他の情報は、遅滞なくインターネットなどを通じて広く公表されている。また、電力会社などの事業者も広報紙の頒布など努力を重ねている。しかしこれらの活動のあり方、内容などを含め、更なる見直しと改善が必要であることも認識されている。

● [10:00 - 10:30] 講演3：生命科学からの発想による情報科学の医療応用



辰巳 治之（札幌医大）

1956年生まれ。1982年：山形大学医学部卒。1984年：大阪大学助手医学部解剖学。1989年：札幌医科大学助教授解剖学。1995年：札幌医科大学教授解剖学。医師免許証1982年取得、医学博士（1987年：大阪大学）。専門分野：解剖学、情報科学。

NPO 北海道地域ネットワーク協議会（NORTH）代表。NPO 日本インターネット医療協議会理事長。NPO 日本医療情報ネットワーク協会 副理事長。NPO 札幌シニアネット・小樽しりべしシニアネット顧問。PML 研究会会長賞：北海道医師会賞受賞、北海道知事賞、表彰：北海道総合通信局長。

〔講演概要〕

形態学の立場から生命科学の不思議を解明し、その知恵を現代社会、特に医療の分野に応用しようとしている。また、ミクロレベルからマクロレベル（molecular から、人体、社会）まで視野にいれ、複雑なものを解剖し単純化することにより理解を深め、さらに fragmental な情報を統合し真理の追究を行っている。人類の発達史をみると、言葉を使うようになり所謂「動物」と区別されるようになった。そして、Cogito, ergo sum. 細胞が細胞を意識し研究するようになったのである。さらに、文字、紙、活版印刷、交通・通信技術が発達し現在に至っている。これを生命科学の立場から見ると、人類の発達、脳（神経系）の発達の歴史であり、情報科学の歴史でもある。このような発想から先進的情報技術をフル活用した究極の医療を実現しようと考えている。即ち、情報薬をつくりタイムリーに処方する「戦略的防衛医療構想」で、これを分かりやすく表現すると「ゼロクリックによる、どこでも逆ナースコール」である。

● [10:30 - 12:00] パネル討論：ノイズとシグナルの違い

[討論概要]

さまざまな現場の情報のデータベースが急速に進んでいるが、折角の貴重なデータも直ちに産業やサービスの現場に活用された例は少なく、また先見的に未来の予測に役立つ例は極めて少ない。情報科学技術は安全安心社会実現のためのキーテクノロジーであるが、単に解法や技術を提供するだけでなく、安全・安心の問題の根源を深く理解し、真に社会の安全と安心に資する情報技術を構築することが求められる。

本パネル討論では、安全と安心がとりわけ重要なキーワードとなる、医療分野、原子力分野、宇宙航空分野における安全・安心の問題の本質を明らかにしている専門家の講演を受けて、データベースを用いた知の構築とメンテナンス、暗黙知のコミュニケーションなどの先駆的な研究に取り組んでいる情報科学技術者を招き、安全と安心の現場においてどのような問題があるかを具体的に討論し、将来の共同プロジェクトなどへの発展の道を探る。

司 会：岩田 修一（東大）

写真および略歴は「安全・安心のための情報技術 ―医療、原子力、宇宙航空を題材として―」司会紹介を参照。



パネリスト：伊関 洋（東京女子医大）

1979年東京大学医学部卒業。1996年東京女子医科大学脳神経センター脳神経外科講師。2001年東京女子医科大学先端生命医科学研究所（大学院医学研究科先端生命医科学系専攻先端工学外科学分野）助教授、脳神経外科助教授（兼任）、医学博士、脳神経外科専門医、脳神経外科学会評議員、コンピュータ外科学会理事、日本バーチャルリアリティ学会、日本エム・イー学会。

コンピュータ外科・精密誘導手術・医療安全工学研究を主体に活動。



パネリスト：大澤 幸生（筑波大）

1995年東京大学大学院・工学系研究科において博士（工学）取得。大阪大学助手を経て1999年より筑波大学ビジネス科学研究科助教授。この間、科学技術振興事業団研究員、東京大学情報理工学研究科特任助教授、ATR客員研究員など歴任。人工知能の研究・教育を経て、2000年ごろより、人がチャンスを発見するのを支援する手法を研究。ビジネスや医療のプロに仕事上でのチャンス発見をもたらし、成果は実益を生み出している。新しい研究を進めつつ、チャンス発見コンソーシアムなどを通じ、国内外で講演・技術普及活動中。



パネリスト：西田 豊明（京大）

1977年京都大学工学部卒業。1979同大学院修士課程修了。1999年東京大学大学院工学系研究科教授を経て、2004年4月京都大学大学院情報学研究科教授。学術創成研究費研究「人間同士の自然なコミュニケーションを支援する知能メディア技術」代表者、社会技術研究開発センター「会話型知識プロセス」グループリーダーとして、会話情報学、社会知のデザインの研究に従事。Social Intelligence Design 国際ワークショップ創設者。



パネリスト：古田 一雄（東大）

1986年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）、同年電力中央研究所入所、1987年東京大学工学部講師、1989年同助教授、1999年東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、2004年同工学系研究科教授、現在に至る。専門は認知システム工学。現在、航空管制のHF、緊急時組織行動シミュレーション、合意形成支援環境などの研究に従事。計測自動制御学会、ヒューマンインタフェース学会、日本原子力学会などの会員。



パネリスト：堀 浩一（東大）

1979年東京大学工学部電子工学科卒業。1984年同大学院博士課程修了。工学博士。1984年国立大学共同利用機関国文学研究資料館助手。1988年東京大学先端科学技術研究センター助教授。1992年同工学系研究科助教授。

1997年東京大学教授、現在に至る。現在、先端学際工学専攻に所属。航空宇宙工学専攻を兼担。人工知能を中心とした情報処理システムの基礎から応用にわたる広範囲の研究・教育に従事。最近の個人的な興味の中心は創造活動支援システム。

オールジャパン体制での情報セキュリティ研究開発 ー技術的アプローチと社会的アプローチの融合に向けてー 9月8日(木) 14:30-17:30 [第4イベント会場 (5号館3階 5335教室)]

[全体概要]

インターネットの社会・経済への浸透に伴い、サイバー攻撃が社会の大きな脅威となってきた。我が国でも、これらの脅威に対する情報セキュリティ対策については、政府の重点施策の一つとして位置づけられ、その取り組みが強化されているところである。しかしながら、サイバー攻撃の多様性、複雑性、急変性などの特性を考慮すると、そのための情報セキュリティ対策への取り組みは、継続的、分野横断的かつ長期的な研究開発の追求であるべきである。そこで、本企画では、情報セキュリティ技術に関連する複数の重要分野を横断的に集結させ、オールジャパン体制にて取り組むべき情報セキュリティ研究開発について議論を行う。具体的には、情報通信網における早期警戒・対策技術、情報セキュリティのためのリスク分析技術、ぜい弱性情報共有・不正再現実験、およびプライバシー関連技術について、社会システムの専門家を交えて現状と展望を議論し、総合的な視野からみた情報セキュリティ研究開発のあり方についてパネル討論を実施する。



司 会：徳田 英幸（慶大）

1975年慶應義塾大学工学部卒。同大学院工学研究科修士。ウォータールー大学計算機科学科博士（Ph.D. in Computer Science）。1983年米国カーネギーメロン大学計算機科学科に勤務、研究准教授を経て、1990年より、慶應義塾大学環境情報学部勤務。慶應義塾常任理事（1997-2001年）を経て、現職。

主に、オペレーティングシステム、分散システム、ユビキタスコンピューティングシステムに関する研究に従事。現在、情報処理学会ユビキタスコンピューティングシステム研究会顧問、ネットワークロボットフォーラム会長、ユビキタスネットワークフォーラム技術部会長&電子タグ高度利活用部会長、総務省ユビキタスネット社会の実現に向けた基本政策WG副委員長、研究教育業績に関して Motorola Foundation Award, IBM Faculty Award, 経済産業大臣賞、総務大臣賞などを受賞。

● [14:30 - 15:10] 講演：我が国における情報セキュリティへの取り組み



山口 英（内閣官房情報セキュリティセンター）

1990年大阪大学大学院基礎工学研究科情報工学専攻博士後期課程を中退し、大阪大学情報処理教育センター・助手として着任。奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター・助教授、同大学情報科学研究科・助教授を経て、2000年4月より同大学情報科学研究科・教授。2004年4月より初代内閣官房情報セキュリティ補佐官を兼務。WIDE Project ボードメンバー、Asian Internet Interconnection Initiatives (AI3) 運営議長。サイバー関西プロジェクト幹事長、JPCERT コーディネーションセンター理事、JPNIC 理事。

[講演概要]

わが国の社会経済活動、国民生活において、インターネットに代表される情報通信基盤の積極的活用と、遍在化したコンピュータの日常的利用が始まっている。まさに高度情報通信社会が実現されたと言える。しかし、同時にネットワーク利用犯罪や情報漏洩、重要なサービス停止というような事故が頻発するようになってきた。このために情報セキュリティ対策の強化が必要となっている。本講演では、政府における情報セキュリティへの取り組みとして、2005年からスタートした新体制とそのポイントについて、さらには研究開発コミュニティへの期待を述べる。

● [15:10 - 16:10] パネル討論1：法制度からみた情報セキュリティ

[討論概要]

情報セキュリティ研究開発への取り組みに伴い、技術的アプローチと社会的なアプローチを融合させる統合的な視野にたった取り組みが必要となる。本パネルでは、法制度に関する有識者にご参画いただき、情報セキュリティを法制度の観点から眺め、情報セキュリティにおける法の役割、法との関連付けを明確にし、社会的なアプローチとの融合点を探ることとする。具体的な話題としては、情報セキュリティマネジメント/リスク管理と法制度との関係、通信の秘密や個人情報保護と情報セキュリティの関係などの視点を切り口に、専門家の観点からご議論をいただくこととする。



司 会：中尾 康二（KDDI）

1979年、早稲田大学教育学部数学科卒。同年、KDD（株）入社。以来、通信プロトコル、情報セキュリティ技術などの研究開発に従事。現KDDI（株）に在籍。1987年度情報処理学会研究賞受賞。ISO/SC27 国内委員会主査、Telecom-ISAC Japan 副委員長、日本 ISMS ユーザグループ理事長、セキュリティ対策推進協議会 代表幹事、早稲田大学非常勤講師などを担務。



パネリスト：稲垣 隆一（稲垣隆一法律事務所）

弁護士（第二東京弁護士会）・ISMS 主任審査員・システム監査学会個人情報保護専門監査人、
弁護士会委員等：日本弁護士連合会、コンピュータ委員会副委員長・情報問題対策委員会委員・消費者問題対策
委員会（電子商取引・ネットワーク部会）ほか。

学会等：法とコンピュータ学会・情報ネットワーク法学会・日本刑法学会・システム監査学会ほか。

公務：法制審議会刑事法部会（ハイテク犯罪関連）幹事、警察庁「総合セキュリティ対策会議」、同警察大学校
サイバー犯罪教養専科講師、経済産業省「情報セキュリティ監査研究会」・「情報セキュリティ教育研究会」、JIPDEC「システム
監査基準検討委員会」「ISMS 運営委員会」、総務省「地方公共団体におけるシステム監査のあり方に関する調査研究会」、内閣官房「IT
戦略本部情報セキュリティ基本問題委員会第1, 第2分科会」各委員ほかを歴任。

著書・論文：サイバースペースと法規制（日本経済新聞社・1997 年）、持株制度の運用と実務（新日本法規出版・1998 年）、情
報ネットワークの法律実務（第一法規出版・1999 年）、法律実務のためのコンピュータ徹底活用ブック（ツール・1999 年）、
ビジネスマンのためのインターネット法律辞典（日経 BP 社・2001 年）、個人情報保護法 Q&A（中央経済社・2001 年）、
情報セキュリティ監査と管理の法的問題（日本内部監査協会）、個人情報保護法と企業対応（清文社・2003 年 新版・2004 年）、
いやでもわかる法律（日経ビジネス人文庫）ほか。

業務：企業の業務上組織上のリスク対策・法規適合性監査・ISMS 構築・プライバシーマーク取得支援・システム監査・セキュリティ
監査・個人情報保護法適合性監査・顧問業務・一般民商事。

パネリスト：岡田 仁志（国立情報学研）

1988 年東京大学法学部第一類卒業、1989 年東京大学法学部第二類卒業。1998 年大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程修了。
1999 年 3 月同研究科博士後期課程中退。1999 年 4 月同研究科個人金融サービス寄附講座助手就任。2000 年 10 月同寄附講座助手退職。
2000 年 11 月博士（国際公共政策、大阪大学）。

2000 年 11 月国立情報学研究所人間・社会情報研究系情報制度論研究部門助教授着任。現在に至る。2005 年 4 月 - 総合研究大学院
大学情報学専攻助教授併任。



パネリスト：佐々木 良一（電機大）

1971 年 3 月東京大学卒業。同年 4 月日立製作所入所。システム開発研究所にてシステム高信頼化技術、セキュリティ
技術、ネットワーク管理システム等の研究開発に従事。2001 年 4 月より東京電機大学工学部教授。工学博士（東京大学）。
2002 年情報処理学会論文賞受賞など。著書に、「インターネットセキュリティ」オーム社 1996 年等。

情報処理学会フェロー。日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事、IFIP TC11 日本代表。

● [16：20 - 17：30] パネル討論 2：情報セキュリティ研究開発の社会的インパクト

[討論概要]

社会基盤としての情報システムの普及にともない、従来の情報セキュリティへの情報理論からのアプローチとは異なる取り組み
がひろく求められるようになってきている。本パネルセッションでは、社会的インパクトを考慮した情報セキュリティ研究開発
の現状と将来像について、セキュリティサービス企業、製品ベンダ、大学・研究機関の立場から議論をおこなう。



司 会：門林 雄基（奈良先端大）

1996 年大阪大学大型計算機センター助手。2000 年 7 月より現職。博士（工学）。

2004 年 7 月より情報通信研究機構セキュリティ高度化グループ短期専攻研究員兼任。

WIDE プロジェクトボードメンバー。



パネリスト：伊藤 良孝（三井物産セキュアディレクション）

1988 年国内ネットワーク SI 企業入社。伝送系エンジニアを経て、セキュリティ事業の立上げを行う。その後米国系
プロバイダーのデータセンターの運用管理業務に従事。2001 年三井物産のセキュリティビジネス立上げプロジェクトに
参画し、セキュリティサービスの立上げを行う。同プロジェクトは 2004 年 7 月に三井物産セキュアディレクション
として独立。現在に至る（Ph.D.）



パネリスト：岩井 博樹（ラック）

2000 年株式会社ラック入社。セキュアサーバの構築、侵入検知システムの導入設計、運用業務やセキュリティ
事件への緊急対応等の業務に携わる。その後、沖縄サミット等を始めた監視業務（JSOC：Japan Security
Operation Center）を経て、現在はコンピュータセキュリティ研究所に勤務。



パネリスト：高木 浩光（産総研）

1994年、名古屋工業大学大学院博士後期課程修了。博士（工学）。同大助手を経て、1998年、通商産業省工業技術院電子技術総合研究所に転任。2001年、独立行政法人産業技術総合研究所グリッド研究センターセキュアプログラミングチーム長。2005年より現職。専門は、並列分散コンピューティング、プログラミング言語処理系、コンピュータセキュリティ。近年は、Webアプリケーションのセキュリティ脆弱性を排除するための仕組みづくりに取り組む。



パネリスト：土井 洋（情報セキュリティ大）

1988年岡山大学理学部数学科卒。1988年-1996年日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社勤務。1994年北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科修了。2000年9月岡山大学大学院自然科学研究科修了。博士（理学）。中央大学研究開発機構助教授を経て、2004年より情報セキュリティ大学院大学教授。情報セキュリティ（電子署名、電子投票、プライバシー保護等）の研究、教育に従事。情報処理学会コンピュータセキュリティ研究運営委員会運営委員、同論文誌編集委員。電子情報通信学会情報セキュリティ研究専門委員会幹事。



パネリスト：福澤 淳二（情報処理推進機構）

1980年慶應義塾大学工学部計測工学科卒業。1982年同大学院工学研究科修士課程修了。同年（株）日立製作所入社。システム開発研究所においてネットワークシステム、分散環境等に関する研究開発に従事。2004年1月より独立行政法人情報処理推進機構に転出。同セキュリティセンターにおいて、脆弱性関連情報の届出・調整・公表を行なう情報セキュリティ早期警戒パートナーシップの立上げ・運用、情報システムの脆弱性対策に従事。



パネリスト：山村 元昭（セキュアブレイン）

（株）山田洋行にてアンチウイルスソフトの製品責任者を経て、1997年に（株）シマンテックに入社。シマンテックセキュリティレスポンスの日本と米国における責任者を歴任し、ウイルス解析のみならず、様々な脅威の解析・その対策手法の開発におけるマネージメントに従事する。2005年10月（株）セキュアブレインの設立に参加、CTOとして同社の製品開発・技術開発の責任者を努める。

マルチメディア・バーチャルリアリティ ビデオセッション ーあの研究室のあの成果、全部見せますー 9月9日（金）9:00-12:00 [第4イベント会場（5号館3階 5335教室）]

[全体概要]

マルチメディアおよびバーチャルリアリティの領域では、視覚的に訴えることが非常に重要かつ効果的であり、学会等のプレゼンテーションのみならず国際会議の投稿時にもビデオ素材が多用される。本イベント企画では、当該技術領域のビデオ素材を集め、本セッションに参加すればこの領域の動向がわかるようにする。イメージとしては、SIGGRAPHにおけるElectronic Theaterのようなものである。各ビデオは2分～3分程度の短いものとし、発表者は口頭で説明を行わず、ビデオのみで研究内容を理解できるよう工夫を促すものとする。技術的な内容は既発表のものを含んでもよく、研究室紹介のようなものでもよい。ただし、少なくとも本セッション用に編集されたものであることを条件とする。セッション参加者と発表者の間で短い質疑応答の機会を設けることも検討する。

スパコン日本の時代は取り戻せるか

9月9日（金）13:00-16:00 [第4イベント会場（5号館3階 5335教室）]

[討論概要]

Top500に占める日本製コンピュータの割合は、90年代中頃までは目覚ましかったが、アメリカがASCIに力を入れてからはじり貧で、02年には地球シミュレーが首位を奪還したものの、これに続くマシンがなくその後凋落の一途を辿っている。Top500で用いられるLINPACK性能は単なる目安ではあるが、実際的なアプリから見ても日本製のコンピュータの活躍は少ない。HPCではデバイスやアーキテクチャが計算を規定するので、日本製に拘らず何でも輸入して計算科学技術を発展させればよいということにはならない。世界一位をとるかどうかはどうでもいいが、十分な数の日本製のコンピュータが上位を占めることが重要である。アメリカのHPCはベンチャから始まったが、かつて日本製で上位を占めたコンピュータは公的なプロジェクトで開発されたものであり、その技術はベンダにより商用化されて日本や世界の研究開発インフラで重要な役割を果たした。しかし近年アメリカがこのモデルを採用し日本を完璧に追い抜いた。今後日本はどのような戦略を取ればよいのか。



司 会：小柳 義夫（東大）

1943 年生。1966 年、東京大学理学部物理学科卒業。1971 年、同大学院理学系研究科物理学専門課程修了、理学博士。同年同大学助手。高エネルギー物理学研究所理論部門助手、筑波大学電子情報工学系講師、助教授、教授を経て、1991 年東京大学理学部情報科学科教授。2001 年情報理工学系研究科教授。並列処理、数値解析、計算物理学に関する研究に従事。とくに、偏微分方程式の高速並列解法、最小二乗法の数値計算、乱数やモンテカルロ法に興味をもつ。



パネリスト：秋山 泰（産総研）

1990 年慶大院理工学研究科博士課程修了。同年工業技術院電子技術総合研究所研究官。1992 年京大化学研究所助教授。1996 年新情報処理開発機構研究室長。2000 年工業技術院電子技術総合研究所主任研究官。2001 年産業技術総合研究所生命情報科学センター研究センター長となり現在に至る。東京医歯大客員教授、慶大客員教授、早大 IT バイオ研究所客員研究員、並列生物情報処理イニシアティブ副理事長、日本バイオインフォマティクス学会評議員、日本人工知能学会理事。専門分野：生命情報科学、並列処理応用。



パネリスト：奥田 基（富士通）

1976 年 3 月名古屋大学大学院工学研究科原子核工学専攻修士課程卒。1977 年 4 月富士通株式会社入社。以降、科学技術計算プログラムの開発（原子力、流体解析、計算化学、衝突解析等）、CG / 人工知能 / 自動翻訳 / 超並列計算機 / グリッド / HPC マシン等の研究開発及びビジネス推進に従事。現在は科学ソリューション事業本部）計算科学ソリューションセンターに所属。（株）富士通研究所ベタスケールコンピューティング推進室長を兼任。



パネリスト：菊池 純男（日立）

1978 年（株）日立製作所入社。中央研究所、システム開発研究所にてコンパイラ、プロセッサアーキテクチャ、オペレーティングシステムなどの研究開発、取り組みに従事。2001 年からソフトウェア事業部にてスーパーコンピュータ、グリッドコンピューティングの企画、製品開発に従事。2005 年 4 月から研究開発本部 HPC 開発推進室長を兼務し、現在に至る。2003-2004 年度情報処理学会理事。



パネリスト：住 明正（東大）

1967 年 3 月岐阜県立岐阜高校卒業。1967 年 4 月東京大学教育学部理科 I 類入学。1971 年 6 月東京大学理学部物理学科卒業。1973 年 3 月東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修士課程修了。1973 年 4 月気象庁東京管区気象台調査課。1975 年 4 月気象庁予報部電子計算室で数値予報業務に従事。1979 年 2 月ハワイ大学物理部気象学教室助手。1981 年 5 月気象庁予報部電子計算室。1985 年 4 月東京大学理学部地球物理学科助教授。1991 年 7 月東京大学気候システム研究センター教授。1994 年 7 月 -2004 年 3 月東京大学気候システム研究センター長。2004 年 4 月大学の法人化に伴い、東大全学の新しい動きとしての AGS (Alliance for Global Sustainability) の推進を図る AGS 推進室長を務める。主たる研究分野：熱帯気象や気候モデルの開発、地球温暖化問題など。日本気象学会「山本賞」1983 年受賞。日本気象学会「藤原賞」1994 年受賞。著書：地球温暖化の真実（ウェッジ選書：1999）。岩波講座地球惑星科学（岩波書店：1996）第 2 巻地球システム科学（共著）、第 9 巻気候変動論（編著）。



パネリスト：姫野 龍太郎（理化学研）

1955 年生まれ、京都大学工学部卒業後、同大学院修士課程修了。その後日産自動車株式会社に勤務。主に車の空力特性の数値解析の研究を担当。フェアレディー Z などの空力解析も行った。現在、(独)理化学研究所情報基盤センター長。野球の変化球の解析と、人体の血流シミュレーションが現在の主要な研究テーマ。2005 年、理化学研究所に導入した RIKEN Super Combined Cluster が日刊工業新聞第 34 回日本産業技術大賞・文部科学大臣賞を受賞。著書に「魔球をつくる」(岩波科学ライブラリー) など。



パネリスト：平木 敬（東大）

東京大学理学部物理学科、東京大学理学系研究科物理学専門課程博士課程退学、理学博士。工業技術院電子技術総合研究所、米国 IBM 社 T. J. Watson 研究センターをへて現在東京大学大学院情報理工学系研究科勤務。数式処理計算機 FLATS、データフロースーパーコンピュータ SIGMA-1、大規模共有メモリ計算機 JUMP-1 など多くのコンピュータシステムの研究開発に従事。現在は超高速ネットワークを用いる遠隔データ共有システム Data Reservoir システムの研究、超高速計算システム GRAPE-DR の研究を行っている。



パネリスト：渡辺 貞（NEC）

1968 年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。同年 NEC 入社。メインフレームコンピュータの開発に従事。1980 年初め頃から、スーパーコンピュータの開発、製品計画、マーケティングを経て、コンピュータプラットフォーム BU 支配人。電子情報通信学会、情報処理学会各会員。IEEE SM. 日本計算工学会副会長。

サイバーワールド（デモ展示あり）

9月9日（金）10:00-16:00 [第5イベント会場（5号館1階 5133教室）]

[全体概要]

サイバーワールド時限研究専門委員会では、CG、VRなどの映像生成やヒューマンインターフェース分野から、暗号化、セキュリティなどの情報処理分野、さらにWebサービス技術、ネット銀行、などのネット応用各分野に至る最新の成果をCyber Worldsの観点から縦方向に俯瞰することにより、不足技術の抽出、新研究領域の発見など、各分野の相互連環の方法を明らかにし、サイバーワールドの発展と学際的な展望を得ることを目的としています。そこで、今回の企画においては、サイバーワールドを俯瞰することが可能な、サイバーワールドフィールドマップを作成します。これは、サイバーワールドに関係する様々な研究要素を1枚の大きな用紙（フィールド）上に付箋紙等を利用して、発表者や見学者にキーワードや各関連研究分野についてを貼付して頂き、各研究の位置付け、そしてサイバーワールドという研究分野自体の位置付けについても可視化できるような取り組みです。また、同時に関連するポスターセッションや、展示を交え、それぞれの発表がサイバーワールドの概念の中のどこに位置するのかをブレインストーミング的な形で検討していくことを想定しております。



司 会：羽鳥 好律（東工大）

1971年東大・工・電気工学科卒。同年国際電信電話（株）入社。映像信号の高効率符号化、映像通信サービスの研究・開発に従事。2003年東京工業大学大学院総合理工学研究科教授。電子情報通信学会フェロー、CW研究会副委員長、HCGアドバイザー委員。画像電子学会副会長、映像情報メディア学会、情報処理学会、IEEE会員。工学博士。

● [10:00 - 10:30] 招待講演1：サイバーワールドが拓く新しい分野



杉山 知之（デジハリ学校）

1954年東京都生まれ。1987年より、MITメディア・ラボ客員研究員として3年間活動。1990年、国際メディア研究財団・主任研究員、1993年、日本大学短期大学部専任講師を経て、1994年10月、デジタルハリウッド設立。以来、クリエイターの育成、インターネットビジネスの発展に力を注いでいる。2004年、構造改革特区を活用した日本初の株式会社立大学院「デジタルハリウッド大学院」を開学。2005年、IT×英語&留学×クリエイティブの「デジタルハリウッド大学」を、秋葉原を拠点に開学する。

【委員】デジタルラジオ推進協会・番組審議会委員その他、CG-ARTS協会、デジタルコンテンツ協会などの委員を歴任。また、毎年、多くのデジタルコンテンツのコンテストの審査員を務めている。

【著書】「デジタル書斎の知的活用術」（岩波アクティブ新書）、「ポストITは日本が勝つ！」（アスキー出版）、「デジタル・ストリーム・未来のリ・デザインング」（NTT出版）。

● [10:30 - 11:00] 招待講演2：価値創造に向けたコンテンツとモノの融合



市川 晴久（NTT）

1976年東京大学工学研究科修士課程修了。同年、日本電信電話公社に入社。通信ソフトウェアの基礎研究に従事。BTRLとの共同研究プロジェクトを立ち上げ、通信ソフトウェア作成支援システムを実用化。94年より約3年、マルチメディア情報流通ビジネスの事業化に従事。ソフトウェア研究所に戻り、光伝送研究者と共同してギガビットネットワークを実用化。2002年情報流通プラットフォーム研究所長。2003年未来ねっと研究所長。2005年より現職。工学博士。電子情報通信学会、情報処理学会、IEEE会員。

● [13:00 - 14:30] パネル討論：サイバーワールドフィールドマップを作る - 今後の発展領域と研究分野 -

[討論概要]

今後の情報システムで実現される世界をサイバーワールドと呼ぶことにすると、その世界では、今後どのような新しい応用や利用形態が考えられるのか？そして、そのようなサイバーワールドを実の在るものにするためには、今、何が不足しているのか？我々、研究者、技術者が解決すべき課題は何か？コンピュータグラフィックス、ヴァーチャルリアリティ、ヒューマンインターフェース、暗号、セキュリティなどの要素技術から、Webサービス、ホームネットワークなどの応用に至る幅広い分野における検討は、個々の技術的側面からみれば、近年著しい発展を遂げている。一方で、サイバーワールドのニーズ的側面からの相互連環は、必ずしも明確に目標が設定され、考察されているとはいえない。本セッションでは、この点について実際にサイバーワールドに係っている立場から問題提議していただき、サイバーワールド実現のための必要技術・研究の曼荼羅図を作成する。



司 会：井原 雅行（NTT）

1994年東工大・修士了。同年、NTTヒューマンインタフェース研究所入所。人間の好みのモデル化、仮想空間共有コミュニケーション、価値観共有の研究等に従事。2002-2003加国New Media Innovation Centerおよびブリティッシュコロンビア大学にて客員研究員。現在NTTサイバーソリューション研究所主任研究員。ACM、電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、画像電子学会各会員。



パネリスト：中嶋 正之（東工大）

1975 年東京工業大学大学院博士課程修了。同年同大勤務。1983 年同大情報工学研究施設助教授、1992 年同大電気電子工学専攻教授。1994 年同大大学院情報理工学研究科教授。現在に至る。コンピュータグラフィックス、コンピュータアニメーション、画像処理の研究に従事。電子情報通信学会情報・システムソサイエティ前会長、現在同学会総務理事、フェロー、国際会議 CW2004 Chair, CW2005 Workshop Chair。



パネリスト：國井 利泰（金沢工大）

東京大学理学系研究科化学専攻博士課程修了。東京大学名誉教授、ジュネーブ大学客員教授、会津大学学長兼教授、カリフォルニア大学バークレー校客員教授、法政大学教授、金沢工業大学教授（現在に至る）。IEEE フェロー、IEEE Taylor L. Booth 賞受賞、情報処理学会フェロー。



パネリスト：田中 英彦（情報セキュリティ大）

1970 年東京大学工学系研究科電気工学専門博士課程修了。工学博士。東京大学工学部、工学系研究科にて、計算機アーキテクチャ、並列処理、分散処理、メディア処理などの教育・研究に従事。東京大学大学院情報理工学系研究科長を経て、2004 年 4 月情報セキュリティ大学院大学研究科長・教授に就任。IEEE Fellow、日本学術会議会員。

●デモ展示 [11:00 - 12:00, 14:30 - 16:00]

展示 1：遠隔教育システム Web-Com（PC 版＋携帯電話版）

平木和輝（茨城大）、新堀道信（ラーニングアイ）、米倉達広、鎌田宗尚（茨城大）

展示 2：対話型アニメ簡易作成環境 islay

岡本秀輔（成蹊大）、山本瑞秋、下村達也、中川昌幸（茨城大）、鎌田 賢（茨城大／ラーニングアイ）

展示 3：ニュース番組の収録音声を利用した音声合成～TVML と連動したデータ放送自動読み上げ～

世木寛之、都木 徹、浜口斉周、道家 守（NHK 技研）

展示 4：価値観相違可視化シミュレータ

井原雅行、小林 稔（NTT）

展示 5：VR に基づいた視覚および触覚提示技術の応用

橋本直己、赤羽 歩、佐藤 誠（東工大）

展示 6：ネットワークを活用したロボットサービスの実証実験

成田雅彦、鈴木純二（ロボット・サービス・イニシアチブ）

一般講演プログラム

(著者の○印は講演者、ただし講演者が
32才以下(開催年)の場合は◎印)
※ このプログラムはインターネットで申し込まれた
データを元に作成しています。(所属は略称)
※ 講演番号の分野の前に「L」が付いているものは
情報科学技術レターズ掲載論文です。

A 分野：モデル・アルゴリズム・プログラミング (第1分冊)

[アルゴリズム (1)]

9月7日 (水)	9:00 ~ 12:00	1J会場 (6号館3階 6317教室)	座長 中野眞一 (群馬大)
A-001	Balanced C20-Bowtie Decomposition Algorithm of Complete Graphs	◎潮 和彦・藤本英昭 (近畿大)	
A-002	Balanced C20-Trefoil Decomposition Algorithm of Complete Graphs	◎藤本英昭・潮 和彦 (近畿大)	
A-003	DNA 計算における乗算および除算アルゴリズム	◎深川宏樹・藤原暁宏 (九工大)	
A-004	重み付けを用いた分散型アクセスポイント選択アルゴリズム	◎伊豆田慎 (九工大)・三ツ汐圭 (アイ・システム)・藤原暁宏 (九工大)	
A-005	DNA 計算による MAX-SAT の解法	◎徳丸雄一郎・藤原暁宏 (九工大)	
A-006	局所探索を用いた集中型アクセスポイント選択アルゴリズム	◎中村允彦・藤原暁宏 (九工大)	
A-007	(講演取消)		
A-008	欠損値推定による協調フィルタリング手法	◎高島秀佳・山岸英貴・平澤茂一 (早大)	

[コンピュータシミュレーション]

9月7日 (水)	13:00 ~ 15:00	2J会場 (6号館3階 6317教室)	座長 草刈圭一郎 (名大)
A-009	総頂点間経路長を最小にする完全 K 分木型組織構造のリエゾン配置モデル	◎澤田 清 (流通科学大)	
A-010	DNA 分子を利用したリレーショナルデータベースの開発	◎北 豊・柏村 聡 (北大)・山本雅人 (北大 /CREST, JST)・亀田充史 (CREST, JST)・大内 東 (北大 /CREST, JST)	
LA-001	関数プログラムの再帰構造解析と強計算性に基づく十分完全性の証明法	◎櫻井敬大・草刈圭一郎・西田直樹・酒井正彦・坂部俊樹 (名大)	
A-011	An Improved Recursive Decomposition Ordering for Term Rewriting Systems Revisited	◎岩見宗弘 (鳥根大)	
A-012	SAT は NP 完全か?: Part2	◎山口人生 (International Intelligent Information)	

[プログラミング (1)]

9月7日 (水)	15:30 ~ 17:30	3J会場 (6号館3階 6317教室)	座長 富樫 敦 (宮城大)
A-013	(講演取消)		
LA-002	パターンに基づくプログラム変換における列変数の導入	◎千葉勇輝・青戸等人・外山芳人 (東北大)	
A-014	LMNtal コンパイラにおける並び替えとグループ化を用いた命令列の最適化	◎櫻井 健 (早大)	
LA-003	LMNtal 処理系におけるグラフ構造の操作機能の設計と実装	◎工藤晋太郎 (早大)	
A-015	動的な接続関係を持つ Java プログラムの一記述法と II 計算式への変換	◎山口将志・加藤 暢・樋口昌宏 (近畿大)	
A-016	変数宣言機能を付与した Ruby 処理系の作成	◎大垣 聡・野木兼六・五百蔵重典 (神奈川工科大)	

[アルゴリズム (2)]

9月8日 (木)	9:00 ~ 12:00	4J会場 (6号館3階 6317教室)	座長 渋谷哲朗 (東大)
A-017	WDM 光ネットワークにおける波長変換器配置問題	◎田中貴章・山田敏規 (埼玉大)	
A-018	多品種フローゲームのコアの要素を求める多項式時間アルゴリズム	◎唐澤一寛・山田敏規 (埼玉大)	
A-019	2 × n 双行列ゲームのナッシュ均衡点を求める高速アルゴリズム	◎石井宏幸・山田敏規 (埼玉大)	
A-020	遺伝的プログラミングによる巡回セールスマン問題の解法について	◎原 裕一・山内 仁・金川明弘・高橋浩光 (岡山県大)	
A-021	凹最小化問題に対する Falk-Soland の分枝限定法に関する一考察	◎斉藤恵一 (北大)・施 建明 (室蘭工大)・田中 章・河口万由香・宮腰政明 (北大)	
A-022	数式処理システム Mathematica 上における再帰除去システム	◎市川祐輔 (早大)・二村良彦 (Futamura Institute, Inc.)・上田和紀 (早大)	
A-023	GRID 環境を用いたボロノイ図の作成アルゴリズムに関する検討	◎水江真登・小林孝史・上島紳一 (関西大)	
A-024	遺伝的アルゴリズムによる看護師勤務表の最適化	◎森本章雄・三宅宏典 (鳥取大)・高ノ瀬文明 (静岡大)・大北正昭・大木 誠 (鳥取大)	

[プログラミング (2)]

9月8日 (木)	15:00 ~ 17:30	5J会場 (6号館3階 6317教室)	座長 岩崎英哉 (電通大)
A-025	A Solution of Printing Encryption in PS	◎陳 憲 (富士ゼロックス)	
A-026	プログラム理解のための変数凝集度・結合度の視覚的表現	◎西本一平・戸田真志 (はこだて未来大)	
A-027	(講演取消)		
A-028	Squeak におけるメソッド配分プロファイラの実装を目的とした VM 生成システムの拡張	◎長田 忍・檜崎修二 (長崎大)	
A-029	J2EE と .NET のサンプルプログラミングに見るアーキテクチャの比較と開発生産性に関する考察	◎中尾信明 (富士通九州システムエンジニアリング)	
A-030	PC クラスタ上での JPEG エンコーダ・デコーダの並列化	◎池上広済・山崎勝弘・小柳 滋 (立命館大)	
LA-004	プロセス情報を用いた計算機負荷長期予測モデル	◎立見博史・菅谷至寛・阿曾弘基 (東北大)	

【アルゴリズム (3)】

- 9月9日 (金) 9:00～12:00 6J会場 (6号館3階 6317教室) 座長 築地立家 (電機大)
- A-031 柔軟性に富む高速先入れ先出し受け付け機構の提案○山本 登 (日大)
- A-032 焦げたパンケーキグラフにおけるコンテナ問題○澤田直樹・鈴木康斗・金子敬一 (農工大)
- A-033 (講演取消)
- A-034 Application of Genetic Recombination to Genetic Local Search in TSP
..... ○Gang Peng (Oita National College of Technology)・
Ichiro Iimura (熊本県大)・Shigeru Nakayama (鹿児島大)
- A-035 (講演取消)
- LA-005 辺縮約問題の近似困難性 ○大月英明 (南山大)・平田富夫 (名大)
- LA-006 大規模 P2P システムにおける計算資源探索のモデル化と性能評価○大川拓郎・滝沢寛之・小林広明 (東北大)
- LA-007 Arc-annotation 付きテキストに対するパターン照合アルゴリズム○喜田拓也 (北大)

【数理モデル化】

- 9月9日 (金) 13:00～16:00 7J会場 (6号館3階 6317教室) 座長 古瀬慶博 (三菱スペースソフトウェア)
- LA-008 間引き, 補間を含むフィルタ処理におけるシフト依存性の評価法
..... ○松尾直志 (京都工繊大)・吉田靖夫・中森伸行 (京都工繊大)
- A-036 高完全性マルチキャストの提案○金田直樹・塩見格一 (電子航法研)
- A-037 効率的な二次元 RAID のための完全二部グラフの ordering の構成法○菊池大吾・足立智子 (東邦大)
- A-038 シミュレートッドアニーリングプログラミングによるロボット行動の自動獲得 - 遺伝的プログラミングとの性能比較 -
.....○藤田佳久・三木光範・橋本雅文・廣安知之 (同志社大)
- A-039 広域非同期分散対話型遺伝的アルゴリズムにおける複数母集団の影響
.....○山元佑輝・三木光範 (同志社大)・和氣早苗 (同志社女子大)・廣安知之 (同志社大)
- A-040 ダイア乱れ時の乗務員指令伝達支援の検討 ○安保徳史 (JR 東海)

B 分野：ソフトウェア (第1分冊)

【実装・テスト技術】

- 9月7日 (水) 9:00～12:00 1A会場 (5号館1階 5135教室) 座長 野中 誠 (東洋大)
- B-001 Java をターゲットにした自国語プログラミングの実験 - 多言語の運用 -
..... ○軒 征 (日立情報システムズ)・野口健一郎 (神奈川大)
- B-002 Java ソースコードに対するアクセシビリティチェック
.....○森 崇・岩田 一 (早大)・白銀純子 (東京女子大)・深澤良彰 (早大)
- B-003 分散ペアプログラミングにおけるコミュニケーションログとコード変更箇所の対応付けによる理解支援
.....○西川穂高・酒井三四郎 (静岡大)
- B-004 Linux 用 USB デバイスドライバ生成支援に関する一提案○吉田泰彦 (東海大)
- B-005 組込みシステム用デバイスドライバ開発支援環境に関する一提案○城戸英之・大原茂之 (東海大)
- B-006 アクティビティグラフからのテストケース生成技術○片山朝子・上原忠弘・大橋恭子・山本里枝子 (富士通研)
- B-007 複数の開発拠点に跨る Build Verification Test における Automation Framework ○菊地弘晶・細野浩一 (日本 IBM)

【ソフトウェア開発】

- 9月7日 (水) 13:00～15:00 2A会場 (5号館1階 5135教室) 座長 奥野 拓 (はこだて未来大)
- B-008 ソフトウェア開発体制の戦略的構築に関する一提案○桂田忠知 (東海大)
- B-009 システム開発プロセスの設計に関する一考察○小山陽平 (はこだて未来大)
- B-010 分散環境における共同ソフトウェア開発のモデリング支援環境○黒木 純・大瓶佳秀・植山淳雄 (東京学芸大)
- B-011 Worker Thread デザインパターンの分散化○武笠寛幸・吉田紀彦 (埼玉大)
- B-012 モデル駆動型アーキテクチャによる UML エディタの開発
..... ○工藤智広・佐野建樹・柴田晃宏・福本純一・徳岡宏樹・杉山玄一・和田美江子 (NEC)

【Web・分散システム】

- 9月7日 (水) 15:30～17:30 3A会場 (5号館1階 5135教室) 座長 飯島 正 (慶大)
- B-013 音階を用いたグラフ形状の表現システム○浅野真介 (早大)・
橘 賢二 (サン・マイクロシステムズ)・白銀純子 (東京女子大)・深澤良彰 (早大)
- B-014 設備構成が変化する監視用 Web 画面の実現—ネットワーク管理システムへの適用—
.....○柳原慎太郎・大崎雅代・寺岡照彦 (三菱)
- B-015 XML を利用した WEB サーバの構築○高 振 (日本工大)
- B-016 Web サービス連携のための XML マージ処理方式の実験と評価○西田晋平・中所武司 (明大)
- B-017 エージェントによる自律的なコミュニティの生成についての一試み○木村功作・峯 恒憲・雨宮真人 (九大)

【システム構成法】

- 9月8日 (木) 9:00～12:00 4A会場 (5号館1階 5135教室) 座長 盛合 敏 (NTT)
- B-018 組込み計算機を拡張するためのリモートデバイスの実現○明神智之・佐藤 喬・多田好克 (電通大)
- B-019 プロセス資源の事前生成機構の提案○田端利宏・谷口秀夫 (岡山大)
- B-020 NetBSD 仮想メモリ予約機構の実装と評価 ○狩野秀一 (NEC)
- B-021 セキュア OS LIDS の機能の検証と運用の自動化実験 ○佐々木 要 (HBA)・野口健一郎 (神奈川大)
- B-022 GCC によるキュー・コンパイラの開発手法の提案
..... ○石崎賀昭 (電通大)・Pavel Boytchev・吉永 努・曾和将容 (電通大)

[ストレージシステム]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5A会場(5号館1階 5135教室) 座長 市川俊一 (NTT)
- B-023 ライブCDへ向けたext2ファイルシステムの書き込みアルゴリズムの検討と評価……………○北川健司・丹 英之・千葉大作(アルファシステムズ)・須崎有康・飯島賢吾・八木豊志樹(産総研)
- B-024 木構造ファイルシステムの問題……………○瀧本栄二・門脇直人・小花貞夫(ATR)
- B-025 SAN ブート環境におけるシステム高信頼化技術の開発……………○畑崎恵介(日立)
- B-026 iSCSI リモートストレージアクセス時における暗号処理最適化手法の複数プロセスを使用した性能評価と考察……………○神坂紀久子(お茶の水女子大)・山口実靖(東大)・小口正人(お茶の水女子大)
- B-027 高遅延環境下における複数台のiSCSI Initiator 使用時のTCP 輻輳ウィンドウの考察……………○豊田真智子(お茶の水女子大)・山口実靖(東大)・小口正人(お茶の水女子大)

[ハイパフォーマンスコンピューティングとグリッド]

- 9月9日(金) 9:00～12:00 6A会場(5号館1階 5135教室) 座長 黒田久泰 (東大)
- B-028 レイテンシを短縮した32ビットURR浮動小数点数演算器の設計と実装……………○大山光男(倉敷芸科大)
- B-029 スカラ型並列計算機に向けた気象シミュレーションコードの作成法……………○高山恒一(日立)
- B-030 キャッシュヒント自動付加を用いたソフトウェア高速化……………○稲垣良一・上田和紀(早大)
- B-031 (講演取消)
- B-032 スーパーテクニカルサーバSR11000の高速分散ファイルシステムHSFS……………○清水正明・鶴飼敏之・三瓶英智・飯田恒雄・藤田不二男(日立)
- B-033 Globus上における統一的なリソース管理機能の考察……………○金光永煥・浦野義頼(早大)
- B-034 グリッド環境における異種スケジューラ連携の提案……………○高橋直人・内田啓一郎(神奈川大)

C分野：アーキテクチャ・ハードウェア(第1分冊)

[リコンフィギュラブルシステム]

- 9月7日(水) 9:00～12:00 1S会場(3号館3階 3300教室) 座長 名古屋彰 (NTT)
- C-001 教育用マイクロプロセッサの設計とFPGAボード上での検証……………○船附誠弘・中谷崇之・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- LC-001 マイクロプロセッサの設計と検証に基づいたハード/ソフト・コラーニングシステムの拡張……………○難波翔一郎・中村浩一郎・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- C-002 リコンフィギュラブル・ハードウェアによるテンプレート・マッチングの設計……………○吉田英樹・川本隆志・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- C-003 ダイナミック・リコンフィギュラブル・プロセッサの応用と評価……………○宮本悠生・小柳 滋(立命館大)
- C-004 再構成機能をもつHW/SW協調設計方式……………○松本祐輔・小泉寿男(電機大)・清尾克彦(三菱)・遠藤 祐(ソニックウェア)
- C-005 特定用途向け再構成回路生成ツールによるMP3復号回路の実装……………○小椋清孝・森下賢幸・大曾根隆志(岡山県大)
- LC-002 最小支配集合問題を解くインスタンス依存ハードウェア解法……………○有路忠臣・○菊池健司・若林真一(広島市大)

[組込システムとプロセッサ]

- 9月7日(水) 13:00～15:00 2S会場(3号館3階 3300教室) 座長 山崎勝弘(立命館大)
- C-006 リアルタイム制御とデータ駆動アーキテクチャの相性評価……………○川村亨久・通堂 真・○服部健輔・酒居敬一(高知工科大)
- C-007 A New Type of Interface Directly Connected to Pipeline for an Embedded CPU……………○東原朋成・中條拓伯(農工大)
- C-008 実用処理における汎用プロセッサの拡張命令の性能評価……………○三瀬邦義・乃一泰久・○小糸啓介・酒居敬一(高知工科大)
- C-009 FPGAを用いたプロセッサ検証システムの設計と実装……………○中谷嵩之(立命館大)
- C-010 分散型デコーダを用いた命令デコーダの構成……………○浅川 毅・○土屋秀和・八幡雅也(東海大)
- C-011 命令フェッチコストを考慮したコード生成法による電子回路シミュレーションの高速化……………○根本和宜・宮崎収兄(千葉工大)

[並列処理とプロセッサ]

- 9月7日(水) 15:30～17:30 3S会場(3号館3階 3300教室) 座長 山崎 剛(ソニーCE)
- C-012 排他的マルチスレッド実行モデルにおける多段なループ処理へのスレッド間パイプライン並列実行方式の適用とその評価……………○泉 雅昭・雨宮聡史・松崎隆哲・雨宮真人(九大)
- C-013 スレッドレベル投機の実行に関する考察……………○斎藤史子・山名早人(早大)
- C-014 階層統合型粗粒度タスク並列処理におけるマクロタスク生成手法……………○吉田明正(東邦大)
- C-015 BidirectionalなSIMDをもつキュープロセッサ……………○大日向大地・曾和将容(電通大)
- C-016 Architecture Of Parallel Queue Processor Computing Among Queue Words And Registers(QRP)……………○Chandana Dinesh Dahanayakage(電通大)
- C-017 クラスタ化アーキテクチャにおける非重複分散レジスタファイルの評価……………○佐藤幸紀・鈴木健一・中村維男(東北大)

[LSI テスティング]

- 9月8日(木) 9:00～12:00 4S会場(3号館3階 3300教室) 座長 細川利典(日大)
- LC-003 無閉路部分スキャン設計を指向したテスト容易化高位合成におけるスケジューリングの高速化……………○岡 伸也・市原英行・井上智生(広島市大)
- C-018 衝突回避による固定制御可検査性に基づくテスト容易化設計法の改良について……………○川原侑大・市原英行・井上智生(広島市大)
- C-019 不均一bit幅RTLデータパスに対する組込み自己テスト法……………○青山瑠美・山口賢一(奈良高専)
- C-020 回路構造を利用したテスト容易化設計支援システム……………○吉田宣司・岩田大志・青山瑠美・山口賢一(奈良高専)
- C-021 畳込み圧縮器におけるXマスク確率の評価に関する一考察……………○新井雅之・福本 聡・岩崎一彦(首都大)
- LC-004 Feasibility of Interconnect Open Detection by Ramp Voltage Application……………○三浦幸也(首都大)

[コンピュータシステム]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5S会場(3号館3階 3300教室) 座長 吉永 努(電通大)
- C-022 H8 マイクロコンピュータを用いた小型バッテリーアナライザの試作
.....◎鈴木太朗・野木兼六・五百蔵重典(神奈川工科大)
- C-023 マルチボディモデルによる多関節ロボットアームのシミュレーション設計法○佐藤宏明・高津戸 稔(岩手大)・池田千恵(富士通エフ・アイ・ビー)・柏葉安兵衛・田山典男(岩手大)
- C-024 ウィンドウの透視化と輝度低下機能を持つマルチウィンドウシステムの評価◎宮崎 仁(岡山県大)・茅野 功(川崎医療短大)・佐藤洋一郎・横川智教・早瀬道芳(岡山県大)
- C-025 (講演取消)
- C-026 リソース融通のためのサーバ移送機構の試作◎木場雄一・善明晃由・木村哲郎・吉田英樹(東芝)
- C-027 ATA ディスク適用ストレージ向け高信頼化技術の開発(1):ATA ディスク高信頼化対策
.....◎新井政弘・中川 豊・松並直人(日立)・八木沢育哉
- C-028 ATA ディスク適用ストレージ向け高信頼化技術の開発(2):データインテグリティ向上技術
.....◎中川 豊・新井政弘・松並直人・八木沢育哉(日立)

[ディペンダブルシステム]

- 9月9日(金) 9:00～12:00 6S会場(3号館3階 3300教室) 座長 古屋 清(中大)
- LC-005 誤りバイト数を制限したスポッティバイト誤り制御符号鈴木一克・◎清水 護・桎山俊彦・藤原英二(東工大)
- C-029 分散ファイル記憶システムのための低密度符号の構成法◎大出弘之・藤原英二(東工大)
- C-030 ロールバックの制約を考慮した最適非連携チェックポイント間隔に関する検討
.....◎大原 衛・新井雅之・福本 聡・岩崎一彦(首都大)
- C-031 DB 接続 API 拡張による異種 DB 間データ同期複製方式◎藤山健一郎・中村暢達・平池龍一(NEC)
- C-032 耐故障関数型言語処理系の実現◎瀧間洋介・太田泰章・金子敬一(農工大)
- C-033 非並列プログラミングのためのシンブルグリッド環境の構築◎今市昂志・花川典子(阪南大)

[システム LSI 設計メソドロジー]

- 9月9日(金) 13:00～16:00 7S会場(3号館3階 3300教室) 座長 北原 健(東芝)
- LC-006 抽象的システムレベル設計へのリファクタリング技術の適用
.....◎山崎亮介・小林憲貴・吉田紀彦(埼玉大)・檜崎修二(長崎大)
- LC-007 システムレベル設計に基づくシーケンス制御システムの段階的詳細化設計
.....◎小林憲貴・山崎亮介・吉田紀彦(埼玉大)・檜崎修二(長崎大)
- C-034 ハード/ソフト最適分割を考慮した AES 暗号システムと JPEG エンコーダの設計と検証
.....◎梅原直人・古川達久・的場督永・山崎勝弘・小柳 滋(立命館大)
- C-035 A study of a hardware control language◎Ivan Anguelov Mantchovski(東海大)
- C-036 (講演取消)
- C-037 ハード・ソフト連動配置手法◎嶋本俊彦・吉川雅弥・寺井秀一(立命館大)
- LC-008 マイクロプロセッサにおける細粒度発熱解析の一手法
.....◎伊藤睦夫・長谷川直之・江川隆輔・鈴木健一・中村維男(東北大)

D 分野：データベース（第2分冊）

[マイニング]

9月7日（水）	9:00～12:00	1E 会場（5号館2階 5233教室）	座長 村田剛志（東工大）
D-001	Web上の情報を用いた企業間関係の抽出	◎金 英子（東大）・松尾 豊（産総研）・石塚 満（東大）	
D-002	値の範囲を検出可能な数値情報抽出	◎伊加田恵志・濱口佳孝（沖電気）	
D-003	関係の相関ルール導出のための事例の性質の抽出	◎元山純一・中野智文・犬塚信博（名工大）	
LD-001	印象と興味に基づくユーザ選好のモデル化とニュースポータルサイトへの応用	◎河合由起子・熊本忠彦（NICT）・田中克己（京大）	
D-004	ニューラルネットワークを用いた局所気象予測と大学生協における購買パターンの相関	◎海浦隆一・徳永幸生（芝浦工大）・坂本 敦（ハレックス）	
D-005	テキスト印象マイニングに基づく質問応答システムの提案	◎熊本忠彦（NICT）・田中克己（NICT/京大）	
D-006	Accumulative Mining of Frequent Patterns	◎Quang Tran Minh・Shigeru Oyanagi・Katsuhiro Yamazaki（立命館大）	
D-007	Tree Based Parallel Algorithms with Reduced Inter-Processor Communication for Association Rule Mining	◎Viet Anh Nguyen・Shigeru Oyanagi・Katsuhiro Yamazaki（立命館大）	

[XML]

9月7日（水）	13:00～15:00	2E 会場（5号館2階 5233教室）	座長 浦本直彦（日本IBM）
D-008	素材管理データベースのXML部分更新によるパフォーマンス向上	◎橋本光治・瀬田賢治・渡部敏雄・北川 亘（日本IBM）	
D-009	NewsMLのシステム間共通インターフェースへの適用	◎渡部敏雄（日本IBM）	
D-010	マルチリファレンスを適用したNewsMLの高速アクセス手法の提案	◎北川 亘（日本IBM）	
D-011	XML文書コンパクト化(CSV圧縮)の変換仕様作成用エディタの開発	◎吉田 茂・中島 哲・小田切淳一（富士通研）・伊藤秀一（電通大）	
D-012	XDES-多様な構造と流動的变化に対応できるデータエンタリーシステムの構築	◎杉本典子・金丸玲子・関 隆宏・石野 明・竹田正幸・廣川佐千男（九大）	
D-013	構造化コンテンツにズーム操作を関連付ける記述言語の提案	◎荒木禎史（リコー）・宮森 恒・水口 充（NICT）・加藤あい・ゾラン ステイチ・小川泰嗣（リコー）・田中克己（NICT）	

[ユビキタス]

9月7日（水）	15:30～17:30	3E 会場（5号館2階 5233教室）	座長 松本一則（KDDI研）
D-014	実データと仮想データの差分を用いた危険度の導出	◎山本大輔・島川博光（立命館大）	
D-015	RFIDアクセス履歴を用いた行動パターンのモデル化	◎藤原聡子・島川博光（立命館大）	
D-016	意味的位置情報の選択のための行動サイクル・モデル	◎佐藤慎也・島川博光（立命館大）	
D-017	移動軌跡データを対象とした効率的な類似検索手法	◎石塚 淳・鈴木 優・川越恭二（立命館大）	
D-018	ライフログの協調的活用を支援するためのフレームワーク	◎牛尼剛聡（九大）・渡邊豊英（名大）	

[空間、画像情報と信号処理]

9月8日（木）	9:00～12:00	4E 会場（5号館2階 5233教室）	座長 橋本隆子（リコー）
D-019	WWW画像検索システムにおける検索質問拡張に基づくフィードバック検索	◎竹安真紀夫・獅々堀正幹・柘植 覚・北 研二（徳島大）	
D-020	WWW画像検索システムにおける有害画像フィルタリング手法	◎小泉大地・獅々堀正幹（徳島大） 中川嘉之（インフォコム）・柘植 覚・北 研二（徳島大）	
D-021	任意画面サイズに対する映像・関連情報提示バランスの最適化	◎粕谷英司・山田昭雄（NEC）	
D-022	冗長ウェブレット変換を利用した血管検出	◎大森康宏（北大）・鈴木茂人・桑村 進（北見工大）・ 宮腰政明・川口万由香・田中 章（北大）	
D-023	（講演取消）		
D-024	仮想オフィス環境におけるマルチクライアント機能の実装と更新反映伝播時間の評価	◎那須洋之・賀来健一・富井尚志（横浜国大）	
D-025	（講演取消）		
D-026	動的カテゴリ生成機能を備えたオンラインマーケットの開発	◎伊藤裕介・平山巧馬・小柳 滋（立命館大）	

[分類とフィルタリング]

9月8日（木）	15:00～17:30	5E 会場（5号館2階 5233教室）	座長 大森 匡（電通大）
D-027	Web検索結果のクラスタリングと特徴語の抽出	◎安川美智子（群馬大）・山田 篤（京都高度技研）	
D-028	文書に特徴的な単語を考慮した検索結果のクラスタリング	◎長尾壮史・山岸英貴・平澤茂一（早大）	
D-029	相互情報量に基づく特徴選択を用いた文書分類	◎津田裕一・山岸英貴・石田 崇・平澤茂一（早大）	
D-030	小説テキスト自動分類のためのジャンル推定と人物抽出	◎馬場こづえ・藤井 敦・石川徹也（筑波大）	
D-031	評判情報利用によるネットオークションの商品選定支援システムの提案	◎西村圭亮・湯浅将英・大山 実（電機大）	
D-032	閲覧サイトの登録を支援するRSSリーダー	◎滝沢敏裕・山名健悟・湯浅将英・大山 実（電機大）	
D-033	（講演取消）		

[オブジェクトとネットワーク]

9月9日（金）	9:00～12:00	6E 会場（5号館2階 5233教室）	座長 加藤弘之（国立情報学研）
D-034	オブジェクトの永続化とRDB設計からの解放	◎東海林健志・久住貴史・西 宏昭・宮川 治・大山 実（電機大）	
D-035	永続化フレームワークにおけるデータベースの隠蔽とレスポンスの高速化	◎西 宏昭・東海林健志・宮川 治・大山 実（電機大）	

- D-036 トレースシステムを用いた IP-SAN におけるファイル操作性能に関する解析
.....◎山口実靖（東大）・小口正人（お茶の水女子大）・喜連川 優（東大）
- D-037 アドホックネットワークにおける位置情報を考慮した効率的経路探索手法
.....◎阿部田高光・鈴木 優・川越恭二（立命館大）
- D-038 伝染型アルゴリズムにおける動的伝達制御方式◎島 泰三・鈴木 優・川越恭二（立命館大）
- D-039 P2P 型空間情報システムの実現手法に関する考察◎廣川雅基・江口隆之・大西真晶・上島紳一（関西大）
- D-040 P2P 型ドローネットワークの分散的生成アルゴリズムのシミュレーション
.....◎源元佑太・加藤宏章・大西真晶・上島紳一（関西大）
- D-041 エージェントコミュニティを利用した P2P 型情報検索の精度評価◎古後陽大・峯 恒恵・雨宮真人（九大）

【情報検索】

- 9月9日（金） 13:00～16:00 7E 会場（5号館2階 5233 教室） 座長 橋本泰一（東工大）
- LD-002 ひとつの高適合文書を高精度に検索するタスクのための評価指標◎酒井哲也（東芝）
- D-042 技術文書管理システムの検索用キーワード用辞書の検討について◎田中陽子・祖父江真一（宇宙航空研究開発機構）
- D-043 初期検索結果から抽出した単語を用いた擬似フィードバック手法◎平松丈嗣・松下大輔・平澤茂一（早大）
- D-044 クラスタに基づいた適合性フィードバック手法◎湯木野高幸・松下大輔・平澤茂一（早大）
- D-045 不適合情報を利用した情報検索手法◎松村 敦・宇陀則彦（筑波大）
- D-046 ダブル配列における動的更新アルゴリズムの高速化◎中村康正・望月久稔（大阪教育大）
- D-047 構造化文書の要素横断検索の性能分析◎村井昭子（東芝）

E 分野：自然言語（第2分冊）

【意味解析・知識獲得】

- 9月8日（木） 9:00～12:00 4P 会場（6号館4階 6418 教室） 座長 森 辰則（横浜国大）
- E-001 クローズドキャプションを対象とした因果関係知識抽出の検討◎山田一郎・小早川 健・三浦菊佳・住吉英樹・八木伸行（NHK 技研）・崔 紀鮮（Korea Advanced Institute of Science and Technology）
- E-002 演劇理解に関する常識知識ベースの構築方式◎荻原 寛・渡部広一・河岡 司（同志社大）
- E-003 時系列データと文章データベースからの知識抽出に関する研究◎西村康成（大阪工大）
- E-004 ネットワークの活性値に基づく深層格解析手法
.....◎渋谷英潔（北海学園大）・荒木健治（北大）・桃内佳雄・柄内香次（北海学園大）
- E-005 概念ベースを用いた複合語の自動的属性取得法◎後藤敏貴・奥村紀之・渡部広一・河岡 司（同志社大）
- E-006 個人化のための興味の偏りと雑多文書を利用したキーワード抽出手法
.....◎松山 学・大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松（名工大）
- E-007 幼児行動コーパスの構築に関する検討◎大竹康太・大谷尚史・川口紗季・坂根 裕・桐山伸也・竹林洋一（静岡大）

【自然言語応用】

- 9月8日（木） 15:00～17:30 5P 会場（6号館4階 6418 教室） 座長 加藤直人（ATR）
- E-008 曖昧な表現を含む言語指示の解釈によるエージェントの行動制御への一考察◎高橋もも・小林一郎（お茶の水女子大）
- E-009 会話促進を目指したオンラインコミュニケーションシステム◎Misa Grace Kwok・七澤麻美・今宮淳美（山梨大）
- E-010 Web サーチエンジンを用いた回文生成◎小野智司・神宮司真理・中山 茂（鹿児島大）
- E-011 記事群の冗長度を削減するための RSS ニュースリーダー◎中渡瀬秀一・戸田浩之・片岡良治（NTT）
- E-012 携帯端末向け日本語入力手法における類似度を考慮した単語変換について
.....◎鎌田竜也・松原雅文・Goutam Chakraborty・馬淵浩司（岩手県大）
- E-013 クローズドキャプションを利用した被写体特定手法の検討◎三浦菊佳・山田一郎・住吉英樹・八木伸行（NHK 技研）
- E-014 「誤りやすい英単語を認識させる手法」における似ている規則の距離手法的考察◎金子美和（日本 IBM）
- E-015 制御系の汎用モデルデータ作成のためのモデリング言語 CSML の開発◎竹井佑介・古賀雅伸（九工大）

【情報検索、質問応答】

- 9月9日（金） 9:00～12:00 6P 会場（6号館4階 6418 教室） 座長 内元清貴（NICT）
- E-016 Kullback Leibler 情報量を用いた情報選別◎柳本豪一・大松 繁（大阪府大）
- E-017 （講演取消）
- E-018 比喩表現を使用して検索を行うシステムの開発◎松原悠子・小林一郎（お茶の水女子大）
- E-019 日常の文書管理操作を用いた企業オントロジーの自動構築◎高梨勝敏・佐藤俊也（日立東日本ソリューションズ）
- E-020 非公開部分の多い論文データベースへのシソーラスの適用◎森川由季子（無所属）・◎宮下健輔（京都女子大）
- E-021 World Wide Web を用いたヘルプデスク指向の質問応答システム◎三原英理（筑波大）
- E-022 質問の関連性を考慮したクエリ生成手法の提案◎木村泰知（小樽商科大）・荒木健治（北大）
- E-023 インターネット上のヘッドラインニュースを情報源とした質問応答システムの構築
.....◎河野安友未・小林一郎（お茶の水女子大）

【機械翻訳、多言語処理】

- 9月9日（金） 13:00～16:00 7P 会場（6号館4階 6418 教室） 座長 出羽達也（東芝）
- LE-001 日中機械翻訳における連体修飾名詞句及び形式名詞「の」の翻訳について
.....◎朝暉 ト・浅井良信・宇野修一・池田尚志（岐阜大）
- LE-002 テンス・アスペクト・モダリティの翻訳における機械翻訳システムの誤りの調査◎村田真樹・内元清貴（NICT）・馬 青（龍谷大/NICT）・金丸敏幸（京大/NICT）・井佐原 均（NICT）
- E-024 （講演取消）
- LE-003 サポートベクターマシンを用いた対訳辞書登録候補の自動選別◎九津見 毅（シャープ）・吉見毅彦（龍谷大/NICT）・小谷克則（NICT）・佐田いち子（シャープ）・井佐原 均（NICT）

- E-025 マルチプルアライメントによる用例翻訳 〇加藤直人 (ATR)
 E-026 JP ドメインにおける茶筌を用いた中国語ページの抽出 〇魏 小比・内藤一兵衛・上田和紀 (早大)
 E-027 WWW を利用した広域検索型辞書システム
 〇三鍋洋司・吉田卓哉・加藤貴司・児玉英一郎・Bhed Bahadur Bista・高田豊雄 (岩手県大)

F 分野：人工知能・ゲーム (第2分冊)

[最適化／学習]

- 9月7日 (水) 9:00～12:00 1R 会場 (6号館4階 6426教室) 座長 小林正樹 (山梨大)
 F-001 教師なし学習による意図的動作と偶発的動作の判別 〇山田恭士・春井宏介・岡 夏樹 (京都工繊大)
 F-002 動的環境に適應する自律学習システムの一考察 〇中村峰幸・吉川雅弥・寺井秀一 (立命館大)
 F-003 車両運動モデル用ニューラルネットワークの構造と学習 〇瀬田 至・手塚俊介・鳥居 毅 (富士重工)
 F-004 複素価値関数を用いた Q-Learning の基礎的検討 〇澁谷長史・濱上知樹 (横浜国大)
 LF-001 運転整理パターン記述言語 R による列車運転整理案作成アルゴリズム 〇平井 力・富井規雄 (鉄道総研)・
 田代善昭 (JR 九州)・近藤繁樹・藤森 淳 (鉄道総研)
 F-005 (講演取消)
 F-006 Case-Based Interior Coordination
 〇 Satoshi Ono・Tatsuki Izumi・Christopher J. Ashley・Shigeru Nakayama (鹿児島大)

[人工知能と Web]

- 9月7日 (水) 13:00～15:00 2R 会場 (6号館4階 6426教室) 座長 大須賀昭彦 (東芝)
 F-007 (講演取消)
 F-008 JavaScript におけるマルチスレッド機能の実現とその応用 〇伊藤正都・大園忠親・新谷虎松 (名工大)
 F-009 会話の流れのトレースによる Web 掲示板閲覧支援システム 〇森重賢二・大園忠親・新谷虎松 (名工大)
 F-010 多階層のリンクを考慮した Web コミュニティの抽出 〇大塚浩司・大町真一郎・阿曾弘具 (東北大)
 F-011 (講演取消)
 F-012 Web 検索結果の縮小画像を用いた一覧表示システムの試作 〇山口翁央・小林崇幸・大園忠親・新谷虎松 (名工大)

[ネットワークロボット]

- 9月7日 (水) 15:30～17:30 3G 会場 (5号館2階 5235教室) 座長 南條義人 (NTT)
 F-013 AIBO による室内確認システムの検討 〇関谷 宏・五百蔵重典・野木兼六 (神奈川工科大)
 F-014 混雑通路中のロボットのスムーズな通行のアルゴリズムの検討 〇野口真也 (神奈川工科大)・
 春木竜一 (東洋コンピュータシステム)・山内俊明・関 靖夫 (神奈川工科大)
 F-015 通信品質を考慮したロボットアドホックネットワークの制御方式 〇王 彪・大坐畠 智・川島幸之助 (農工大)
 F-016 ロボット群の探索行動のための局所的通信による協調動作の研究 〇酒井美由紀・千葉慎二 (仙台電波高専)
 F-017 P2P 型制御システムの試作 〇幸谷智紀・大相弘順 (静岡理工科大)

[テキストマイニング／自然言語処理]

- 9月7日 (水) 15:30～17:30 3R 会場 (6号館4階 6426教室) 座長 鍋嶋英知 (山梨大)
 F-018 クラスタ抽出による Web の検索結果の分類 〇持田広志・大町真一郎・阿曾弘具 (東北大)
 F-019 (講演取消)
 F-020 テキストコーパスからの上下関係抽出 〇中渡瀬秀一 (総研大)・相澤彰子 (国立情報学研)
 F-021 観点を考慮した概念間の類似性判別法 〇野口洋平・森 麻実・石川 勉 (拓大)
 LF-002 大規模データ系列中に頻出する部分系列のオンライン抽出アルゴリズム 〇石原龍一・岩沼宏治・鍋嶋英知 (山梨大)
 LF-003 分散・ヘテロなデータからのトピック全体構造の学習 〇松村憲和・森永 聡・山西健司 (NEC)

[推論／Semantic Web／オントロジ]

- 9月8日 (木) 9:00～12:00 4R 会場 (6号館4階 6426教室) 座長 岩沼宏治 (山梨大)
 F-022 (講演取消)
 F-023 言葉ベースで表現された述語知識の推論処理法 〇北野正樹・石川 勉 (拓大)
 F-024 オントロジ上の推論機構と推論エンジンの設計開発 〇湯本純也 (宮城大)・大益知佳 (仙台応用情報学研究振興財団)・
 藤村幸平 (日立ソフトウェアエンジニアリング)・富樫 敦 (宮城大)
 F-025 Web ページのテーブルに着目したオントロジ構築及び、比較情報抽出方式の提案
 〇境 美樹・佐藤宏之・村山隆彦 (NTT)
 F-026 康福祉に関する領域オントロジの構築 〇青木浩之・大益知佳・板橋吾一・富樫 敦 (宮城大)
 F-027 トピックマップを用いた LSI 設計知識の共有システムの開発 〇中林啓司 (放送大)
 F-028 The Implementation of a Proof Search System for Isabelle
 〇何 成 (日大)・鈴木秀男 (東京工芸大)・小林英恒 (日大)

[知能と複雑系]

- 9月8日 (木) 15:00～17:30 5Q 会場 (6号館4階 6425教室) 座長 山田誠二 (国立情報学研)
 F-029 証券取引における情報優位性と利益取得のシミュレーションモデル構築 〇赤嶺有平・根路銘もえ子 (沖縄国際大)
 LF-004 組み合わせオークションにおける効用比較に基づいた架空名義入札者発見法の提案
 〇松尾徳朗・伊藤孝行・新谷虎松 (名工大)
 LF-005 遅延時間情報に基づく適応的経路制御の収束性能評価 〇柏崎礼生・高井昌彰 (北大)
 LF-006 床圧力センサを用いた人物位置追跡のための追跡対象数推定 〇佐藤 哲 (ATR)・和田俊和・中村恭之 (和歌山大)
 LF-007 交渉過程を導入したマルチエージェントシステムにおける報酬分配学習 〇鶴岡 久 (福岡工大)

- F-030 セルオートマトンにおけるウルフラムクラスの自動判別◎金子 純・田中美栄子・清水忠昭（鳥取大）
 F-031 環境オブザーバと方策オブザーバを用いた変動環境にロバストな学習モデル
◎小野将寛・佐々木 守・岩田 穆（広島大）

〔エージェント〕

- 9月8日（木） 15:00～17:30 5R会場（6号館4階 6426教室） 座長 藤田 茂（千葉工大）
 F-032 自律移動ロボットにおける譲り合い行動の解析○小田桐良一（園田学園女子大）
 LF-008 AMUSE: An Agent-based Middleware for QoS-aware Ubiquitous Services○Takuo Suganuma・
 Yoshikazu Tokairin・Hideyuki Takahashi・Norio Shiratori（東北大）
 F-033 社会活動支援のためのマルチエージェント型発展システムの構成法◎打矢隆弘・前村貴秀（東北大）・
 菅原研次（千葉工大）・木下哲男（東北大）
 F-034 学術情報を対象とした発展検索支援システム千葉 祐・◎ヤ ソウ・李 保寧・阿部 亨・木下哲男（東北大）
 LF-009 能動的情報資源を用いた自律的なネットワーク監視システム
◎今野 将・吉村智志・岩谷幸雄・阿部 亨・木下哲男（東北大）

G 分野：音声・音楽（第2分冊）

〔音楽情報科学 (1)〕

- 9月7日（水） 13:00～15:00 2P会場（6号館4階 6418教室） 座長 平井重行（京産大）
 G-001 最大エントロピーモデルに基づく統計的な音楽情報の解析◎米田隆一・西本卓也・嵯峨山茂樹（東大）
 G-002 確率推論に基づく自動採譜システムの構築◎山崎篤史・北原聡志（早大）
 G-003 距離尺度に Earth Mover's Distance を用いたハミングによる類似音楽検索手法
◎大西泰代・獅々堀正幹・柘植 寛・北 研二（徳島大）
 G-004 演奏者情報が音楽聴取時の感性に及ぼす影響◎井関晃広・小澤賢司・小澤賢司（山梨大）
 G-005 楽曲特徴量による嗜好音楽の解析◎荒川克憲・小田川 智・松下文雄・児玉泰輝・塩田岳彦（パリオニア）
 LG-001 コミュニケーションメディアとしてのプレイリストを目指して
◎梶 克彦（名大）・平田圭二（NTT）・長尾 確（名大）

〔音楽情報科学 (2)〕

- 9月7日（水） 15:30～17:30 3P会場（6号館4階 6418教室） 座長 平田圭二（NTT）
 G-006 和音進行の連続性を用いた音楽信号の連続再生手法○我山真一（パリオニア）
 G-007 遺伝的アルゴリズムを用いた歌曲の作曲支援方法の一提案◎森山真行（東海大）
 G-008 回復度に基づく特徴旋律抽出手法の提案◎川村 修・大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松（名工大）
 G-009 スケッチベースの音響合成システム平井重行・◎繁田剛史・西 正祥（京産大）
 LG-002 MDCT 係数操作によるオーディオ電子透かしの音質劣化抑制◎高木幸一・酒澤茂之・滝嶋康弘（KDDI 研）
 G-010 心理音響モデルを用いたオーディオ電子透かし法の改良◎植村 優・田中 章・川口万由香・宮腰政明（北大）

〔音声・音響処理〕

- 9月8日（木） 9:00～12:00 4V会場（3号館3階 3310教室） 座長 山田武志（筑波大）
 G-011 接話マイク型同時発話音声認識インタフェースの開発とチャイルドケアロボットへの応用◎岩沢 透（NEC）
 G-012 複数話者対話システムのための分散型対話管理◎大下義弘・関口芳廣・西崎博光（山梨大）
 G-013 ニューラルネットワークを用いた生活音からの状況認識に関する研究◎平谷伸宏（大阪工大）
 G-014 音声カーナビゲーションの認識率改善の検討と実用化研究増井久之（香川大）・○外村孝史（早大）
 G-015 雑音既知の条件における音声の調波構造に基づいた雑音除去◎大田健紘・柳田益造（同志社大）
 G-016 ステレオステージ制御パラメータの決定法に関する考察◎武 晋太郎・田中 章・河口万由香・宮腰政明（北大）
 G-017 音声通信用スケーラブルステレオ音声符号化方法の検討○後藤道代・吉田幸司（松下電器）・
 Chun Woei Teo・Sua Hong Neo（Panasonic Singapore Laboratories）
 LG-003 携帯電話用プロセッサで動作する大語彙連続音声認識の並列処理
◎石川晋也・山端 潔・磯谷亮輔・奥村明俊（NEC）

H 分野：生体情報科学（第2分冊）

〔ME とバイオサイバネティクス (1)〕

- 9月7日（水） 9:00～12:00 1G会場（5号館2階 5235教室） 座長 根本 幾（電機大）
 LH-001 顔面熱画像解析に基づいたドライバのメンタルワークロードの評価
野澤昭雄・◎三澤裕樹（青学大）・田中久弥（工学院大）・井出英人（青学大）
 LH-002 鼻部熱画像解析とステアリングスイッチ式報告によるドライバーの覚醒水準評定○田中久弥（工学院大）・
 坂本 涼・三澤裕樹・野澤昭雄（青学大）・内田雅文（電通大）・井出英人（青学大）
 H-001 Web サイトの配色に基づく視認性に関する検討—自己組織化マップによる個人データの分析—
◎平松明希子・納富一宏（神奈川工科大）・斎藤恵一（電機大）
 H-002 視認性を考慮した自己組織化マップによる Web カラーセット予測と自動色補正方式の検討
○納富一宏・平松明希子（神奈川工科大）・斎藤恵一（電機大）
 H-003 ヘッドセット型微小加速度記録計による運動負荷応答の計測◎松下宗一郎（東洋大）

[ME とバイオサイバネティクス (2)]

- 9月7日(水) 13:00～15:00 2G 会場 (5号館2階 5235教室) 座長 椎名 毅 (筑波大)
- H-004 心拍間隔時系列のアトラクタ上の近傍点間距離を用いた糖尿病診断指標の検討 ◎井上知也・汐崎 陽・丸岡玄門 (大阪府大)・小杉圭右 (大阪警察病院)・増山 理 (兵庫医大)
- H-005 絶対不応期のある積分発火ユニットによるミッシングファンダメンタル情報の抽出 ◎小川剛央・松岡孝栄 (宇都宮大)
- H-006 光拡散方程式の不均一グリッド FDTD 解析を用いた3次元光散乱体時間領域光学パラメータ推定 ◎谷藤忠敏・市坪公太 (北見工大)
- H-007 分光画像計測を用いたオゾンストレスに対する葉応答の可視化 ◎岩崎宏明・宮澤佳苗・中内茂樹 (豊橋技科大)

[ニューロコンピューティング (1)]

- 9月7日(水) 13:00～15:00 2U 会場 (3号館3階 3309教室) 座長 村田 昇 (早大)
- H-008 視覚情報の予測に基づいて運動情報の推定を行う神経回路モデル ◎伊藤 寛・福村直博・宇野洋二 (豊橋技科大)
- LH-003 物体認識における視点依存性と脳機能の左右差に関する研究—事象関連電位による検証— ◎打尾健太・中内茂樹 (豊橋技科大)
- H-009 海馬 CA3 モデルによる概念構成要素の抽出 ◎佐村俊和 (慶大)・服部元信 (山梨大)・石崎 俊 (慶大)
- H-010 カラーユニバーサルデザインのための色変換手法 ◎小野内達也 (豊橋技科大)・中野仁貴 (東洋インキ)・中内茂樹 (豊橋技科大)
- H-011 カオスニューラルネットワークによる最適解の探索 ◎田中稔次朗 (広島県大)・日浦悦正 (福山能開短大)・渋谷光博 (広島県大)
- H-012 遺伝的アルゴリズムによる最適軌道生成 ◎角田寿巳・和田安弘 (長岡技科大)

[ニューロコンピューティング (2)]

- 9月7日(水) 15:30～17:30 3U 会場 (3号館3階 3309教室) 座長 福村直博 (豊橋技科大)
- H-013 系列の区切りを考慮した単純再帰ネットワークモデル ◎竹谷仁志・下村正夫・三宅章吾・阿曾弘具 (東北大)
- H-014 後続要素の予測を利用する系列予測モデル ◎上原謙吾・原田賢一 (慶大)
- LH-004 少数サンプルを基にした独立な確率表の混合表現 ◎藤本 悠・村田 昇 (早大)
- H-015 マージン最大化学習を用いた連想記憶の耐雑音性改善 ◎秋本仁志・服部元信 (山梨大)
- LH-005 雑音を含むデータに対する TDNN のロバスト学習 西山 清・◎山田知明 (岩手大)

[医用画像 (1)]

- 9月8日(木) 9:00～12:00 4U 会場 (3号館3階 3309教室) 座長 清水昭伸 (農工大)
- H-016 AQ 画像を用いた超音波心エコー画像の心内膜輪郭抽出法 ◎吉村成博・汐崎 陽 (大阪府大)・平野 豊・上原久和 (近畿大)・増山 理 (兵庫医大)
- H-017 Color Kinesis 画像における虚血性心疾患の識別 ◎嘉田昌浩・汐崎 陽 (大阪府大)・平野 豊・上原久和 (近畿大)・増山 理 (兵庫医大)
- H-018 マルチスライス CT 画像における検査部位分類アルゴリズム ◎野原麻美・財田伸介・久保 満・河田佳樹・仁木 登・西谷 弘 (徳島大)・大松広伸・森山紀之 (国立がんセンター)
- H-019 Multi-Slice CT Image for Lung Cancer Screening: Comparative Evaluation of the Diagnostic Performance of Slice Thickness (2mm and 10mm) ◎ Marodina Sinsuat・Mitsuru Kubo・Yoshiki Kawata・Noboru Niki (徳島大)・Hironobu Ohmatsu (国立がんセンター)・Michizou Sasagawa (Tochigi Public Health Service Association)・Noriyuki Moriyama (国立がんセンター)
- H-020 A Location-Detection Algorithm of Multi-organs in Three Dimensional Medical Images ◎姚 淙・清水昭伸・小畑秀文 (農工大)
- H-021 3次元医用画像の融合における位置合わせ評価の検討 ◎松尾成浩・白井治彦・高橋 勇・黒岩丈介・小高知宏・小倉久和・岡沢秀彦・米倉義晴 (福井大)
- H-022 半減期の異なるトレーサを利用した PET 画像と顕微組織画像の融合手法の検討 ◎井上 徹・小倉久和・黒岩丈介・高橋 勇・白井治彦・小高知宏・藤林康久 (福井大)
- H-023 動径基底関数を用いた拡散テンソル MRI データの非剛体変換におけるテンソル回転補正精度に関する検討 ◎増谷佳孝・渡谷岳行・青木茂樹・阿部 修・大友 邦 (東大)

[医用画像 (2)]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5U 会場 (3号館3階 3309教室) 座長 高橋正信 (芝浦工大)
- H-024 肝病理組織標本の3次元核密度推定・精度の改善 ◎吉見 崇・高橋正信 (芝浦工大)・中野雅行 (国立病院機構千葉医療センター)
- H-025 マルチスライス CT による臓組織描出のための画像処理手法の検討 ◎千葉勇輝・市毛弘一 (横浜国大)・村松俊樹 (公立昭和病院)・半谷美夏 (筑波大)・佐山光男 (茨城西南医療センター病院)
- H-026 リカレントネットワークフィルタによる局所移動補正 DSA 画像の画質改善 ◎韓 旭・白井治彦・高橋 勇・黒岩丈介・小高知宏・小倉久和・伊藤春海 (福井大)・山本和高・横浜則也 (若狭湾エネルギー研究センター)
- H-027 X線 CT 画像再構成における微少光子数状態での非線形性に伴うアーチファクトの補正 ◎岩元新一郎・汐崎 陽 (大阪府大)
- H-028 腹部 X線 CT 像における胃壁ひだの強調表示 ◎増井大祐・坂本雄児 (北大)
- H-029 INTERACTIVE VISUALIZATION OF LARGE ISO-SURFACES ◎Sven Forstmann・Jun Ohya (早大)

[バイオ情報学]

9月9日(金) 9:00～12:00 6U会場(3号館3階 3309教室) 座長 山村雅幸(東工大)

- H-030 DNAを記憶素子として用いた分子メモリの開発と大容量化に関する検討
◎柏村 聡・山本雅人(北大)・亀田充史(科学技術振興機構)・大内 東(北大)
- H-031 自由エネルギーを用いたDNAナノ構造形成のための塩基配列設計◎飯村直記(北大)・
 山本雅人(CREST, JST/北大)・田中文昭(北大)・
 亀田充史(CREST, JST)・大内 東(CREST, JST/北大)
- H-032 自由エネルギーに基づいた塩基配列設計に関する研究◎田中文昭(北大)・亀田充史(CREST, JST)・
 山本雅人・大内 東(北大/CREST, JST)
- H-033 遺伝的アルゴリズムを用いたDNAチップによる配置決定
◎上杉英司・外山 史・東海林健二・宮道壽一(宇都宮大)
- H-034 マルチドメインを持つ遠縁な相同タンパク質の検出手法◎瀬下真吾・松井藤五郎・大和田勇人(東理大)
- H-035 ビタミンD受容体レスポンスエレメントの効率的探索法◎松前ひろみ(東海大)・
 福岡 豊・稲岡秀検(東京医歯大)・菊池浩明(東海大)・山本恵子・増田 正(東京医歯大)

I 分野：画像認識・メディア理解（第3分冊）

〔文字・文書(1)〕

9月7日(水)	9:00～12:00	1C会場(5号館1階 5137教室)	座長 池田尚司(日立)
I-001	寸法不変な特徴量を用いた帳票レイアウト解析……………◎鈴木智久(東芝ソリューション)		
I-002	看板認識システムの構築……………◎桃田健史・渡部広一司・河岡 司(同志社大)		
I-003	応用規格に基づいたXML文書への変換を可能とする紙文書を対象とした階層的な文書変換システム……………◎石谷康人・布目光生・住田一男(東芝)		
LI-001	デジタルカメラによる文書画像検索—1万ページから0.1秒で検索する—……………◎中居友弘・黄瀬浩一・岩村雅一(大阪府大)		
I-004	移動テロップの自動認識手法……………◎五十川賢造・三田雄志・井田 孝・堀 修(東芝)		
I-005	ガウスフィルタを用いた誤差拡散文字画像の復元の比較実験……………◎石渡洋考・荒井智啓・石澤 健・大井直人・仁後直哉・久保田裕紀・嶋 好博(明星大)		
I-006	帳票画像におけるカラー背景からの文字パターン抽出の実験的検討……………◎久保田裕紀・渡辺啓太・吉田陽介・嶋 好博・大矢博史(明星大)		

〔顔画像処理〕

9月7日(水)	9:00～12:00	1D会場(5号館1階 5138教室)	座長 福井和広(筑波大)
I-007	見え方に基づいた顔認識手法のための画像前処理……………◎安藤博士・佐々木 守・岩田 穆(広島大)		
I-008	分離型2次元格子HMMを用いた顔画像認識のための状態クラスタリング……………◎倉田大介・南角吉彦・徳田恵一・北村 正(名工大)		
I-009	分離型2次元格子HMMに基づく顔画像認識……………◎布目哲也・南角吉彦・徳田恵一・北村 正(名工大)		
I-010	歩行者顔照合システム「FacePassenger」の開発……………◎滝沢 圭・長谷部光威・助川 寛・佐藤俊雄・榎本暢芳・入江文平・岡崎彰夫(東芝)		
I-011	テンプレート切り替え型顔検出に関する検討……………◎松尾賢治・橋本真幸・小池 淳(KDDI研)		
I-012	判別分析と摂動画像法を用いた顔照合アルゴリズム……………◎今岡 仁・佐藤 敦(NEC)		
I-013	(講演取消)		
I-014	個人的嗜好獲得のための選択的人物同定によるテレビ視聴区間推定……………◎谷本浩昭・新田直子・馬場口 登(阪大)		

〔文字・文書(2)〕

9月7日(水)	13:00～15:00	2C会場(5号館1階 5137教室)	座長 黄瀬浩一(大阪府大)
I-015	エルマン型ネットワークを用いたオフライン手書き文字認識……………◎篠沢佳久(慶大)		
I-016	自由文読取のための文字切出し方式の開発……………◎古川直広(日立)・徳野淳子(農工大)・池田尚司(日立)		
I-017	部首の抽出による類似文字の詳細識別……………◎鈴木道孝・伊藤彰義(日大)		
I-018	ストロークを単位とした確率自由文脈文法による手書き数式の認識……………◎山本 遼・山本 準・西本卓也・嵯峨山茂樹(東大)		
I-019	筆者認識の手書き文字切出し法に関する検討……………◎大川 学(警視庁科学捜査研)		
I-020	降雨量の変化を伴う車番認識精度の基礎研究……………◎長谷川真司・北原紀之・片山英昭・船木英岳(舞鶴高専)		

〔画像処理基礎〕

9月7日(水)	13:00～15:00	2D会場(5号館1階 5138教室)	座長 間瀬健二(名大)
I-021	画素並列処理を用いた指紋谷線強調アルゴリズム……………◎池田奈美子・中西 衛・藤井孝治・重松智志・羽田野孝裕(NTT)・久良木 億(NTTエレクトロニクス)・岡崎幸夫(NTT)		
I-022	位相限定相関法と特徴点マッチングの組み合わせに基づく指紋照合アルゴリズム……………◎森田 歩・伊藤康一・青木孝文(東北大)・中島 寛・小林孝次(山武)・樋口龍雄(東北工大)		
I-023	SEM画像におけるエッジ位置検出手法……………◎永森 彰・伊藤 稔(工学院大)・菅野明郎・穴澤紀道(ホロン)		
I-024	2値エッジ画像に基づくオブジェクト輪郭推定法—接ベクトル導出の改善に関する検討—……………◎辻 裕之・徳増真司(神奈川工科大)・齋藤 豪・高橋裕樹・中嶋正之(東工大)		
LI-002	球面レベルセット法と全方位複数輪郭抽出……………◎原 健二・岩下友美・倉爪 亮・長谷川 勉・浦浜喜一(九大)		
I-025	分散協調型の動的輪郭モデルSnakesの評価……………◎松本倫子・吉田紀彦(埼玉大)・檜崎修二(長崎大)		

〔映像メディア解析〕

9月7日(水)	15:30～17:30	3C会場(5号館1階 5137教室)	座長 馬場口登(阪大)
I-026	多次元特徴空間解析に基づく映像のカット検出手法……………◎岩元浩太・山田昭雄(NEC)		
I-027	興味領域情報を利用した映像インデクシングのためのカット画像自動分類……………◎木村雅之・山内真樹(松下電器)		
I-028	情報統合機能を実装したメタデータエディタ……………◎佐野雅規・住吉英樹・八木伸行(NHK技研)		
I-029	メタデータ生成のための歓声と応援の分類手法……………◎佐野雅規・住吉英樹・八木伸行(NHK技研)		
I-030	(講演取消)		
I-031	サッカー試合ビデオにおけるキーフレーム検出のためのサッカーボール認識……………◎山田拓郎(神奈川工科大)・姫路英孝(レオ)・山内俊明・関 靖夫(神奈川工科大)		
I-032	(講演取消)		
LI-003	サッカー映像のフォーメーション解析に基づく実時間イベント検出……………◎三須俊彦・高橋正樹・蓼沼 眞・八木伸行(NHK)		

【画像処理応用】

9月7日(水) 15:30～17:30 3D会場(5号館1階 5138教室) 座長 原 健二(九大)

- I-033 ページアンネットによるユーザ行動モデルの体験記録からの学習
.....◎山城貴久・平野 靖・梶田将司・間瀬健二(名大)
- LI-004 レーザセンサを用いた歩行者通過人数の自動計測手法◎帷子京市郎・中村克行・趙 卉菁・柴崎亮介(東大)
- I-034 動的周辺特徴抽出による眼底画像内の病変部検出方式◎平松義崇・永吉洋登・影広達彦・酒匂 裕(日立)・
日間賀充寿・水野康生(日立オムロンターミナルソリューションズ)・
佐藤伸平・福岡はるみ・加藤 聡(東大)
- I-035 平行移動と回転によるパノラマ画像モザイクング
.....◎越智慎介・久保田裕紀・石渡洋考・高良敬之・小林 喬・嶋 好博(明星大)
- I-036 ニュース発言集作成のためのモノログシーンの検出◎關岡直城・高橋友和・井手一郎・村瀬 洋(名大)
- I-037 画像における色ヒストグラムと感性の関係◎本田理絵・鈴木康広・大堀隆文(北海道工大)

【3次元解析】

9月8日(木) 9:00～12:00 4C会場(5号館1階 5137教室) 座長 角 保志(産総研)

- I-038 三角パッチ表現向き形状情報量による3次元物体の視点選択
.....◎大場聡司・猪飼武夫(大阪府大)・山下拓哉(パナソニックMSE)・福永邦雄(大阪府大)
- I-039 An Evaluation Approach for Temporal Segmentation of 3D Videos◎徐 建鋒・山崎俊彦・相澤清晴(東大)
- I-040 ポリゴン頂点の主成分分析による3Dビデオの動き特徴量抽出とシーン分割◎山崎俊彦・徐 建鋒・相澤清晴(東大)
- I-041 三次元情報の空間シフト多重化による物体の姿勢変化に耐性のある三次元物体認識◎吉川宣一(埼玉大)
- I-042 物体表面の局所形状情報を用いた位置合わせ◎森谷聡史・岡谷郁子(農工大)・杉本晃宏(国立情報学研)
- I-043 色情報を用いた距離画像の位置合わせ◎藤田尚吾・岡谷郁子(農工大)・杉本晃宏(国立情報学研)
- LI-005 共通に観測される平面を利用した距離画像の自動位置合わせ◎荒木田 翔・岡谷郁子(農工大)

【人物動作・計測】

9月8日(木) 9:00～12:00 4D会場(5号館1階 5138教室) 座長 岩井儀雄(阪大)

- I-044 カラー系列画像中からの動き情報を付加した顔領域検出手法◎徳富兼太郎・大塚友彦(東京工業高専)・青木宏之
- I-045 HandyAR: 手をインターフェースとした拡張現実感システム HandyAR の開発
.....◎加藤 喬・近藤裕介・甲藤二郎(早大)
- LI-006 表情譜: タイミング構造に基づく表情の記述・生成・認識◎川嶋宏彰・西山正紘・松山隆司(京大)
- I-046 自動顔認証のためのGLVQに基づく顔向き推定◎細井利憲・佐藤 敦(NEC)
- LI-007 身体の軌跡情報の解析に基づいた動作と動作対象の統合的認識
.....◎齊藤雅稚・小島篤博(大阪府大)・北橋忠宏(関西学院大)・福永邦雄(大阪府大)
- I-047 行動に基づく関節自由度の制約を利用した人体姿勢推定◎池田浩雄・石山 昱・坂本静生(NEC)
- I-048 実体型匿名IDに関する検討◎味八木 崇・山崎俊彦・相澤清晴(東大)

【3D解析(2)】

9月8日(木) 15:00～17:30 5C会場(5号館1階 5137教室) 座長 岡谷郁子(農工大)

- I-049 消失点の検出による建築写真の生成◎菅原章洋・東海林健二・外山 史(宇都宮大)
- I-050 カラーフィルタリングを利用した透過型校正器具によるカメラ校正◎片山保宏(宇宙航空研究開発機構)
- I-051 DPマッチングによるステレオ計測に対する信頼性指標の一提案◎宇都木修一・鈴木 寿(中大)
- I-052 三角測量法による受動式鏡面位置・形状計測法◎永峰和也・鈴木 融・伊藤 稔(工学院大)
- I-053 1台のパンチルトズームカメラによる複眼視からの3次元復元◎立河慎也・光本浩士(大阪電通大)
- I-054 類似度の重み付け平均を用いる領域ベース両眼立体視システム◎佐々木寛弥・亀田成司・岩田 穆(広島大)

【画像・パターン認識】

9月8日(木) 15:00～17:30 5D会場(5号館1階 5138教室) 座長 川嶋宏彰(京大)

- I-055 局所平均差分の階層的四分木符号を特徴量とするカラー画像の類似検索—自然画像に対する検索性能評価—
.....◎栗田涼平・金井 理・岸浪建史(北大)
- I-056 前方側方カメラを用いた車載映像の取得とその処理◎石川尊之・山崎俊彦・相澤清晴(東大)
- I-057 車載カメラ映像による風景特徴解析技術◎藤田隆二郎(バイオニア)
- I-058 レンダリング情報と役割に基づくWeb画像分類◎中平浩二・渡井康行・山崎俊彦・相澤清晴(東大)
- LI-008 正則規格化グラフスペクトル法による任意形状クラスタのロバスト抽出◎井上光平・浦浜喜一(九大)
- LI-009 生成・識別ハイブリッドモデルに基づく半教師あり学習◎藤野昭典・上田修功・斉藤和巳(NTT)

【領域抽出】

9月9日(金) 9:00～12:00 6C会場(5号館1階 5137教室) 座長 孟 洋(国立情報学研)

- I-059 Image-based Assistance to Fire Extinguishing System with Mote
.....◎Yasmin Rubaiyat・Ohya Jun(早大)・Aoki Yoshimitsu(芝浦工大)
- I-060 色空間の距離情報に基づく自動ドア付近画像の局所的種別分類
.....◎三宅宏典・森本章雄(鳥取大)・岸本真一(ソフィア)・大北正昭・大木 誠(鳥取大)
- I-061 Motion Detection Based On Active Stereo Camera Array◎謝 英弟・大谷 淳(早大)
- I-062 (講演取消)
- I-063 屋外環境における背景成分の逐次推定◎吉村浩典・岩井儀雄・谷内田正彦(阪大)
- I-064 HSヒストグラムを利用した領域抽出法◎山口鉄平(中大)・水谷 啓(NTTコムウェア)・鈴木 寿(中大)
- LI-010 双極放射リーチ相関に基づくロバストな背景差分◎佐藤雄隆・坂上勝彦(産総研)

[トラッキング]

9月9日 (金)	9:00 ~ 12:00	6D 会場 (5号館 1階 5138教室)	座長 角所 考 (京大)
I-065	単眼視カメラによる移動物体の高さ推定とトップビュー軌跡の描画◎辻村俊博・北澤仁志 (農工大)		
I-066	固定カメラ映像中の移動物体識別の一手法 ◎ Aung Ye Mon・北澤仁志 (農工大)		
I-067	マルチカメラシステムによる人物追跡◎岩松洋介・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)		
I-068	画像レジストレーションを用いた楕円体の形状の推定◎関口 亮・杉野貴彦・玉木 徹・山本正信 (新潟大)		
I-069	人物色モデルを利用した指定人物追跡 ◎先山卓朗・三浦 純 (阪大)・白井良明 (立命館大)		
I-070	時空間特徴を利用した移動物体追跡に関する一考察◎武田吉史・田中 章・河口万由香・宮腰政明 (北大)		
LI-011	アクティブカメラ群による対象追跡ならびに全観測領域の協調監視◎青木勝司・吉田 篤・荒木昭一 (松下電器)		

J 分野：グラフィクス・画像 (第3分冊)

[画像処理・視覚モデル]

9月7日 (水)	9:00 ~ 12:00	1M 会場 (6号館 4階 6410教室)	座長 鉄谷信二 (電機大)
J-001	コンクリート建造物の補修のためのクラック 3次元可視化◎阪田和郎 (大阪工大)・原 徹 (藤満工務店)・西尾孝治・小堀研一 (大阪工大)		
J-002	GPU を利用した一般化 Hough 変換アルゴリズムの実装 ◎吉田光寿 (早大)・宮永直樹 (マルチターム)		
J-003	イメージセンサ上での動物体の速度検出処理方式吉田 崇・◎杉田俊超・浜本隆之 (東理大)		
J-004	45 度方向輝度投影相関を用いた動き推定◎猪野裕司・青木恭太 (宇都宮大)		
J-005	ハイブリッド撮像方式の検討—カラーフィルタ方式 + ダイレクト撮像方式—◎小松 隆・齊藤隆弘 (神奈川大)		
J-006	測地座標を用いた均等色空間の構築◎松本大輔・趙 晋輝 (中大)		
J-007	視覚モデルにおける視点・視野の二乗誤差率 η^2 に関する検討◎川崎順治 (金沢高専)・武田康佑・加藤恭子 (金沢工大)・飯島泰蔵 (東工大)		
J-008	静止画像の構図に誘発される視線移動の規則導出◎山崎将幸・亀田昌志 (岩手県大)		

[3次元映像]

9月7日 (水)	9:00 ~ 12:00	1N 会場 (6号館 4階 6417教室)	座長 川田亮一 (KDDI 研)
J-009	自由視点画像合成に基づく光線空間符号化手法の提案と評価方法の検討◎田口裕一・苗村 健 (東大)		
J-010	背景マスクを用いた奥行き情報のフィルタリングによる、自由視点 VoD 映像の高画質化◎石川彰夫・川田亮一・小池 淳 (KDDI 研)		
J-011	マルチカメラ画像の特徴的な構造を用いた情報圧縮◎山本健詞・圓道知博・藤井俊彰・谷本正幸 (名大)		
J-012	個人適応型サッカー映像の自動生成技術◎窪田進太郎・有木康雄 (神戸大)		
J-013	Extended Motion Compensation for 3D Video ◎ SeungRyong Han・Toshihiko Yamasaki・Kiyoharu Aizawa (東大)		
J-014	電子ホログラフィにおける視域・視野の拡大◎坂本雄児 (北大)		
J-015	三次元スプライトによる三次元動画表示◎大力孟司・高木康博 (農工大)		

[暗号化・電子透かし(1)]

9月7日 (水)	13:00 ~ 15:00	2M 会場 (6号館 4階 6410教室)	座長 如澤裕尚 (NTT レジナント)
J-016	Concept of a New Watermark Surviving after Re-shooting the Images Displayed on a Screen ◎ Seichi Gohshi・Haruyuki Nakamura (NHK)・Hiroshi Ito・Ryousuke Fujii・Mitsuyoshi Suzuki (Mitsubishi Electric Corporaiton)・Shigenori Takai・Yukari Tani (Mitsubishi Electric Engineering Co.)		
J-017	CRT 再撮映像に耐性を有する電子透かし実験 ◎中村晴幸・合志清一 (NHK)・藤井亮介・伊藤 浩・鈴木光義 (三菱)・高井重典・谷 愉佳里 (三菱電機エンジニアリング)		
J-018	秘密鍵を用いた画像圧縮耐性を有する電子透かし埋め込み法の開発◎井上大輔・吉富康成 (京都府大)		
J-019	音声付き動画を対象とした改ざん検出手法萩原昭夫・◎田中啓介・岩田 基・汐崎 陽 (大阪府大)		
J-020	BPCS ステガノグラフィにおける複雑領域分割のための閾値設定と下位ビット置換に関する評価◎阿部美智子・山本富士男・宮崎 剛 (神奈川工科大)		

[映像編集・検索]

9月7日 (水)	13:00 ~ 15:00	2N 会場 (6号館 4階 6417教室)	座長 今泉浩幸 (NHK-ES)
J-021	デジタルコンテンツ流通に向けた批評メタデータの自動生成と流通システムの実装と評価◎大勝琢己・亀山 渉 (早大)		
J-022	ワープロによる台本記述型番組制作手法の評価 ◎浜口斉周・道家 守・林 正樹 (NHK)		
J-023	野球中継における投球シーンからのボール座標抽出手法の提案◎阿部洋介・岩崎 遼・山下 毅 (早大)		
J-024	ビデオデータ配信時におけるシーン分割法の研究◎細矢浩之 (日本工大)		
J-025	編集映像における動画と音声ストリームのリズム同期について◎秋月達人・新田直子・馬場口 登 (阪大)		
J-026	多次元データ管理構造を用いた可視性による画像検索◎岩永洋輔・金子裕良・阿部 茂 (埼玉大)		

[暗号化・電子透かし(2)]

9月7日 (水)	15:30 ~ 17:30	3M 会場 (6号館 4階 6410教室)	座長 合志清一 (NHK 技研)
J-027	カメラ付き携帯電話機による撮影画像中の矩形領域抽出手法の高性能化 … ◎北原 亮・片山 淳・中村高雄 (NTT)		
J-028	カメラ付き携帯電話機を用いた動画向けリアルタイム電子透かし検出方式 ◎中村高雄・山本 奏・北原 亮・宮武 隆・片山 淳 (NTT)		
J-029	フレーム重畳型動画画像電子透かしのパターン切替効果の評価に関する一考察 ◎山本 奏・中村高雄・北原 亮・宮武 隆・片山 淳・高嶋洋一 (NTT)		
J-030	VC 法を用いた高速高画質電子割符生成法の拡張◎明堂絵美・酒澤茂之・滝嶋康弘 (KDDI 研)		

- J-031 可変幅量子化型ウェーブレット変換を用いた電子透かしによる改ざん種類推定
.....◎山本勇樹・新田直子・馬場口 登 (阪大)

[CG レンダリング]

- 9月8日 (木) 9:00 ~ 12:00 4M会場 (6号館4階 6410教室) 座長 斎藤 豪 (東工大)
- J-032 実画像を用いた特定シチュエーションにおけるトゥーンエフェクト◎登内 誠・藤本貴之・佐藤 尚 (神奈川工科大)
- J-033 画像処理的方法を用いた実写画像からの非写実的効果の生成◎長 聖・佐藤 尚 (神奈川工科大)
- J-034 GPUによる計算機合成ホログラムの高速化◎増田信之・田中 喬・白木厚司 (千葉大)・伊藤智義 (千葉大/JST)
- J-035 適応的ビーム分割による高周波電磁波伝搬の高速可視化◎曹 曉逸・牧野光則・白井 宏・篠田庄司 (中大)
- J-036 光線微分とメッシュモデル単純化を用いたレイトレーシング効率化◎宮下 卓・金井 理・岸浪建史 (北大)
- J-037 光源の移動に対応した光路再利用高速大域照明
.....◎YongHao Yue (東大)・尾上耕一 (プロメテック・ソフトウェア)・西田友是 (東大)
- J-038 曲率に依存した反射モデルの提案◎松藤和夫・河合直樹 (大日本印刷)

[CG インタフェース]

- 9月8日 (木) 9:00 ~ 12:00 4N会場 (6号館4階 6417教室) 座長 長谷川晶一 (東工大)
- J-039 色鉛筆画風画像描画のための色鉛筆選択方法および描画ツール
.....◎藤田まどか・Henry Johan (東大)・松井 一 (東芝)・西田友是 (東大)
- J-040 (講演取消)
- LJ-001 対話型再進化計算に基づくアパレルデザイン支援◎土井美鈴・山本高美 (お茶の水女子大)・藤代一成 (東北大)
- J-041 ビル街における歩行者のための3次元地図ビューア◎秦 祥彰・牧野光則 (中大)
- J-042 螺旋階段:属性情報を用いた階層構造データの3次元一括可視化◎桑原明栄子・相良直哉・牧野光則 (中大)
- LJ-002 EnergyBrowser: 運動によるウェブ閲覧◎中村聡史・水口 充 (NICT)・田中克己 (京大)
- J-043 注視点に依存するポリゴンモデルの適応的表示手法◎松本哲也・牧野光則 (中大)
- J-044 視触覚モダリティ変換による質感呈示法の提案◎Misa Grace Kwok・松永隆宏・今宮淳美 (山梨大)

[CG モデリング]

- 9月8日 (木) 15:00 ~ 17:30 5M会場 (6号館4階 6410教室) 座長 三谷 純 (筑波大)
- J-045 モルフォロジー演算による融雪アニメーション
.....◎中進美孝 (大阪工大)・手島裕詞 (静岡理工科大)・西尾孝治・小堀研一 (大阪工大)
- J-046 建物ポリゴン分割法による3次元建物モデル自動生成◎杉原健一 (岐阜経済大)
- J-047 多重解像度3D地形図の8分グラフ表現◎赤木剛朗 (日大)・宮寺庸造 (東京学芸大)・
本橋友江 (関東学院大)・◎野牧賢志 (日大)・土田賢省 (東洋大)・夜久竹夫 (日大)
- J-048 形状変化を伴うファイバー束物体モデルの適応的メッシュ化◎相良直哉・桑原明栄子・牧野光則・趙 晋輝 (中大)
- J-049 アニメキャラクターの頭部3Dモデル構築支援◎吉田武史 (北大)・高井那美 (北海道情報大)・高井昌彰 (北大)
- J-050 Comparative study of non-rigid objects' animations by spring models and Boundary Element Method
.....◎Denphol Pornchanoknart・Takafumi Watanabe・Jun Ohya (早大)
- J-051 ポイントベースレンダリングのための欠損のある点データの穴埋め法◎金森由博・西田友是 (東大)

[フィルタ処理・画像品質]

- 9月8日 (木) 15:00 ~ 17:30 5N会場 (6号館4階 6417教室) 座長 内海 章 (ATR)
- J-052 冗長な方向性ウェーブレット変換を用いた静止画像の雑音除去に関する一考察
.....◎大茂洋岳・田中 章・河口万由香・宮腰政明 (北大)
- J-053 (講演取消)
- J-054 雑音を考慮したVolterra級数による非線形画像復元◎木本達也・田中 章・河口万由香・宮腰政明 (北大)
- J-055 画像微小回転の高精度検出手法◎佐藤孝宗・磯貝博子・伊藤 稔 (工学院大)
- LJ-003 映像コンテンツのエラー耐性に応じたBCMCSチャネル構成に関する一検討
.....◎加藤晴久・米山曉夫・滝嶋康弘 (KDDI研)
- J-056 Axi-Vision カメラの距離画像検出ノイズの低減と番組制作への応用◎浅見典充 (成蹊大)・
河北真宏 (NHKエンジニアリングサービス)・菊池 宏 (NHK技研)・滝沢國治 (成蹊大)
- J-057 特徴量抽出方式に基づくIPベース放送サービスの映像・音声統合監視システム実装法の検討
.....◎杉本 修・川田亮一・小池 淳 (KDDI研)

[CG モーション]

- 9月9日 (金) 9:00 ~ 12:00 6M会場 (6号館4階 6410教室) 座長 関口大陸 (東大)
- LJ-004 協調動作モデルを利用したCGキャラクタのための表情表現手法◎中村正宏・星野准一 (筑波大)
- LJ-005 インタラクティブCGキャラクタのための反射的注意動作の生成◎広田健一・益子 宗・星野准一 (筑波大)
- LJ-006 CGキャラクタの心理状態を用いたコミュニケーションゲーム◎塩入健太・中野 敦・星野准一 (筑波大)
- J-058 複数人参加ゲームのための記憶に基づく対話生成◎生野 剛・野間田佑也・星野准一 (筑波大)
- LJ-007 主要行動の指定に基づくCGキャラクタの行動パターンの生成◎森 博志・星野准一 (筑波大)
- LJ-008 音楽と連動した複数人のダンスシーン生成◎太田さゆり・中野 敦・星野准一 (筑波大)
- LJ-009 Building Active Conversation Environment for Edutainment◎張 磊 (筑波大)
- J-059 モーションデータを用いた人体動作の意味理解◎西尾孝治・中村徳裕 (大阪工大)・
手島裕詞 (静岡理工科大)・金谷孝之 (広島国際大)・小堀研一 (大阪工大)

[静止画像符号化・JPEG2000]

9月9日(金)	9:00～12:00	6N会場(6号館4階 6417教室)	座長 小池 淳 (KDDI研)
J-060	時空間画像のJPEG 2000符号化におけるSNR揺らぎについて	◎加藤幸一・石川孝明・渡辺 裕 (早大)	
J-061	Motion JPEG 2000における前後フレームを用いたフリッカー低減手法の検討	◎伊谷裕介・渡辺 裕 (早大)	
J-062	JPEG2000によるHDTV低遅延符号化のための符号量制御方式	◎佐野雄磨 (早大)・内藤 整 (KDDI研)・渡辺 裕 (早大)	
J-063	DCT係数上での動画像解像度変換の高画質化に関する研究	◎後藤富朗・杉本和彦・花村敏明・北村 正 (名工大)	
J-064	画像圧縮処理システム設計の一検討	◎今井幸雄 (東海大)	
J-065	DCTにおけるAC係数の創刊を考慮した画像符号化	◎作田 豊・森中 亮・石田 崇・平澤茂一 (早大)	
J-066	情報の偏りを考慮した静止画像の可逆予測符号化法	◎小俣 順・森中 亮・石田 崇・平澤茂一 (早大)	
J-067	ブロック単位でマルチ走査を行う静止画像圧縮	◎金田海渡・芥子和宏・石田 崇・平澤茂一 (早大)	

[画像符号化]

9月9日(金)	13:00～16:00	7N会場(6号館4階 6417教室)	座長 境田慎一 (NHK技研)
J-068	時空間スケラビリティを考慮したセルアニメーションにおけるエッジ再構成に関する一検討	◎山本勇樹・河村 圭・渡辺 裕 (早大)	
J-069	MPEG-2/H.264トランスコードにおける再動き検出に関する検討	◎筑波健史 (早大)・永吉 功・花村 剛 (メディアグルー)・富永義義 (早大)	
J-070	H.264の複数参照フレームにおける動き探索の高速化手法	◎鈴木真吾・川島裕司・菊池義浩 (東芝)	
J-071	AVC/H.264による4:4:4映像符号化方式に関する一検討	◎関口俊一・井須芳美・杉本和夫・山田悦久・浅井光太郎 (三菱)	
J-072	H.264符号化におけるレート歪み近似式に基づく画質変動抑制のための符号量制御方式	◎松村篤志・内藤 整・川田亮一・小池 淳 (KDDI研)	
J-073	グローバル動きを用いた高速動画像モザイク化手法	◎清水智行・米山曉夫・滝嶋康弘 (KDDI研)	
J-074	高フレームレート映像信号の符号量に関する理論モデルの構築	◎坂東幸浩・高村誠之・上倉一人・八島由幸 (NTT)	
J-075	ベクトル変換におけるパスの本数と点の個数に関する検討	◎河村 圭・山本勇樹・渡辺 裕 (早大)	

K分野：ヒューマンコミュニケーション & インタラクション (第3分冊)

[視覚インタフェース]

9月7日(水)	9:00～12:00	1H会場(5号館2階 5236教室)	座長 塩澤秀和 (玉川大)
K-001	閲覧履歴を共有するウェブブラウザ	◎高須賀清隆・白井雄一郎・丸山一貴・寺田 実 (電通大)	
K-002	印象に基づくマンガのコマ自動作成システムの提案	◎澄田良樹・今宮淳美・Grace Misa (山梨大)	
K-003	GUI定義とスキン定義を組み合わせたレイアウトの方式	◎岡本啓嗣・北村操代・小島泰三 (三菱)	
K-004	対話型情報ナビゲーションシステムの開発	◎河野 泉・宮崎陽司・原 雅樹 (NEC)	
LK-001	番組出演者を兼ねる対話型CGエージェントの評価	◎道家 守・浜口齊周・林 正樹 (NHK)	
LK-002	Webブラウザを用いたWebページにおける調和配色システムについて	◎早川潤一・◎大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松 (名工大)	
LK-003	内部ネットワーク監視のための視覚化方法の提案	◎浅沼 格・大野一広・小池英樹 (電通大)	

[教育工学(1)]

9月7日(水)	13:00～15:00	2F会場(5号館2階 5234教室)	座長 佐々木整 (拓大)
K-005	OPEプロジェクトの進捗状況とその課題について	◎原 元司 (松江高専)・桐山和彦 (鳥羽商船高専)・山本喜一 (アルファオメガ)・白濱成希 (北九州高専)・本間啓道 (奈良高専)・岡田 正 (津山高専)・白石啓一 (詫間電波高専)	
K-006	OPEディストリビューションCD-ROMの製作と実施結果	◎桐山和彦 (鳥羽商船高専)・山本喜一 (アルファオメガ)・原 元司 (松江高専)・白濱成希 (北九州高専)・本間啓道 (奈良高専)・岡田 正 (津山高専)・白石啓一 (詫間電波高専)	
K-007	工業高校情報技術科における教材クラスを利用したプログラミング学習	◎山本哲也 (熊谷工業高校)・前川 仁 (埼玉大)	
K-008	TCP/IP学習支援のための可視化シミュレータの開発	◎立岩佑一郎・安田孝美・横井茂樹 (名大)	
K-009	ロボットを用いた組込みシステム学習支援環境の開発	◎川上亮太郎・田中裕樹・早川栄一 (拓大)	
K-010	e-ラーニングシステムに関するリッチアプリケーションズの考察と開発	◎張 羽 (早大)	

[音声インタフェース]

9月7日(水)	13:00～15:00	2H会場(5号館2階 5236教室)	座長 小作浩美 (ATR)
K-011	生体波動連続収録システム"時変サンプラー"の開発	◎吉田秀樹・Wei Xie・藤原祥隆 (北見工大)・藤本悦郎 (ファード)	
K-012	定位感に基づいて勝ち抜き選択されたHRTFによる音像定位	◎西塔宏二・岩谷幸雄・鈴木陽一 (東北大)	
K-013	咽頭の形状変化に基づいた筋電変移による母音の特徴抽出	◎矢代宏樹 (山梨大)	
K-014	音声に含まれる感情情報の認識に関する研究	◎横井 翔・中村浩紀・金子正人・藤本 洋 (日大)	
K-015	サーバサイド音声認識による携帯電話マルチモーダルインタフェースの実現	◎北村操代 (三菱)・Schwenke Derek・Harsham Bret・Schmidt-Nielsen Bent・Lee Chris・Rich Charles (Mitsubishi Electric Research Laboratories)	
K-016	会話連動ナビゲーションシステム	◎向垣内岳弥・高田慎也・横関大子郎・酒井理江・村山隆彦・新井克也 (NTT)	

[教育工学 (2)]

9月7日 (水) 15:30 ~ 17:30 3F 会場 (5号館2階 5234 教室) 座長 鈴木栄幸 (茨城大)

- K-017 移動エージェントによるコマンド学習支援システムの提案
.....○池本 悟・水谷晃三・赤羽根隆広 (帝京大)・永井正武 (神奈川大)
- K-018 グループ協調学習をベースとする技術教育システムの一考察○清野和人・金子正人・武内 惇・藤本 洋 (日大)
- K-019 教材内容と質問内容を整合させた質問・回答支援システムの構築○高田昭伸・高橋稔哉・小泉寿男 (電機大)
- LK-004 Virtual な時間共有により集団学習の場を提供する e-learning システムの開発と評価○梅村 透・赤倉貴子 (東理大)
- K-020 コミュニケーションに基づく協調学習評価支援ツールの開発○池宮 直・花川典子 (阪南大)
- K-021 Web サービスによる e-Learning システム間の情報共有
.....○小柳 健 (福岡工大)・史 一華 (西南学院大)・徐 海燕 (福岡工大)

[学習と支援インタフェース]

9月7日 (水) 15:30 ~ 17:30 3H 会場 (5号館2階 5236 教室) 座長 志築文太郎 (筑波大)

- K-022 実書籍への複合情報付加による学習支援システム○相樂恭宏 (北大)・高井那美 (北海道情報大)・高井昌彰 (北大)
- K-023 外国人留学生向けの日本語入力及び日本語学習支援システムの一提案
.....○張 小剛・高橋 勇・黒岩丈介・小高知宏・小倉久和 (福井大)
- K-024 双方向性通信可能な個人向け情報配信システムの構築
.....○植村雄一郎 (京大)・西岡 豊 (富士通テン)・柏木紘一・樋上喜信・小林真也 (愛媛大)
- K-025 電子メールマップインタフェースを用いた電子メール閲覧システムの提案
.....○平岡佑介・大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松 (名工大)
- K-026 無電源白杖と視覚障害者誘導用ブロックを用いた知的支援システムの提案
.....○坂本和彌・藤吉 賢・宮崎伸夫 (アルファシステムズ)・中村嘉志・西村拓一 (産総研)
- LK-005 ペン操作型情報収集とイベント型情報再利用に基づく情報活用システム○石井大輔・鈴木 優・石谷康人 (東芝)

[マルチメディア・仮想環境基礎 (1)]

9月8日 (木) 9:00 ~ 12:00 4F 会場 (5号館2階 5234 教室) 座長 瀬崎 薫 (東大)

- K-027 線形 Lie 代数モデルを用いた 3 次元形状の対話的変形操作・表示法
.....○金子真理子・相良直哉・牧野光則・趙 晋輝 (中大)
- K-028 関節構造を持つ 3 次元弾性物体モデルの提案
.....○渡辺隆史・大谷 淳 (早大)・棚沢 順 (千葉商科大/早大)・徳永幸生 (芝浦工大)
- K-029 Space panel : サイバースペースの空間移動ディレクション装置の提案
.....○hyeonmoon kim・大谷 淳 (早大)・小方博之 (成蹊大)
- K-030 A Photo Browser Utilizing 3D Space for Archaeological Fieldwork
.....○Bui Hang・Ichiroh Kanaya・Kosuke Sato (阪大)
- K-031 古本屋支援システム○土屋嘉宏・伊與田光宏・前川仁孝・山下和也 (千葉工大)
- K-032 損失データ再送および属性限定受信に対応した映像配信システム
.....○後藤繁生・橋本昌嗣・横沢智彦 (日本 SGI)・佐野健太郎・中村維男 (東北大)
- K-033 映像情報の動的構造化とストーリーミング配信に関する検討
.....○加藤 寛・青島大悟・藤城卓己・坂根 裕・竹林洋一 (静岡大)

[異文化コラボレーション]

9月8日 (木) 9:00 ~ 12:00 4G 会場 (5号館2階 5235 教室) 座長 大平雅雄 (奈良先端大)

- K-034 街中における機械翻訳を介したコミュニケーションの支援○林田尚子・石田 亨 (京大)
- K-035 完全自動の日本語口頭能力測定試験の開発 鈴木正紀 (Ordinate Corporation)・○原田康也・伴野崇生 (早大)
- K-036 アバタ表情解釈の異文化差○神田智子・石田 亨 (京大)
- LK-006 機械翻訳を用いた対話における思い違いに関する分析○山下直美 (NTT)・石田 亨 (京大)
- K-037 異文化間コミュニケーションのための機械翻訳を用いたチャットシステム AnnoChat の開発と適用
.....○藤井薫和・重信智宏・吉野 孝 (和歌山大)
- LK-007 絵文字チャットの異文化コミュニケーションへの適用○宗森 純・大野純佳・吉野 孝 (和歌山大)

[日常生活インタフェース]

9月8日 (木) 9:00 ~ 12:00 4H 会場 (5号館2階 5236 教室) 座長 田村弘昭 (富士通研)

- K-038 パスワードの高度化への考察○内田勝也 (情報セキュリティ大)
- K-039 手元拡大型画面操作デバイス OPR-LENS の視覚支援効果の実験的評価○山口 巧 (高知高専/高知工科大)・森岡憲弘・芝 治也 (高知工科大)・島村和典 (高知工科大/NICT 高知リサーチセンタ)
- K-040 mobrium: 眺めて取り出すインタフェース○青 勇樹・福地健太郎・小池英樹 (電通大)
- LK-008 カスタム CMOS イメージセンサを用いた情報家電用ビジュアルマルチモコン「オプトナビ」
.....○香川景一郎・山本幸司 (奈良先端大)・前田勇希 (JST)・三宅康也・田邊英樹・政木康生 (船井電機)・布下正宏・太田 淳 (奈良先端大)
- K-041 投げるジェスチャによる家電機器の操作○西田和正 (電通大)・鈴木公貴 (内田洋行)・小池英樹 (電通大)・岡 兼司・佐藤洋一 (東大)
- K-042 置き場所想起システムの検討○窪田千恵子・佐藤 尚 (神奈川工科大)
- K-043 体験映像に対する音インデックスについての分析○志村将吾・平野 靖・梶田将司・間瀬健二 (名大)
- LK-009 実世界指向型回転卓における情報提示手法と対話手法
.....○梶原慎太郎・小池英樹・福地健太郎 (電通大)・岡 謙司・佐藤洋一 (東大)

[マルチメディア・仮想環境基礎 (2)]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5F会場(5号館2階 5234教室) 座長 金子正秀(電通大)
- LK-010 仮想音環境のための頭部伝達関数コーパス …………… ◎渡邊貫治(山梨大)・岩谷幸雄・行場次朗・鈴木陽一(東北大)
- LK-011 偏光ダブルスリットを用いた視差バリア方式3Dディスプレイ …………… ◎阪本邦夫・西田雅貴(島根大)
- K-044 没入型ディスプレイにおいて距離感覚に影響を与える要素に関する研究 …………… ◎柳 在鎬・橋本直己・佐藤 誠(東工大)
- K-045 複合現実感における隠蔽領域の復元 …………… ◎内出 翼・木田雄一郎・齋藤 亮・伊藤 稔(工学院大)
- LK-012 拡張現実感のための実画像のぼけ推定に基づく画像合成手法 …………… ◎奥村文洋・神原誠之・横矢直和(奈良先端大)
- K-046 Semantic Key Frame Extraction from Life Log Video using Voice Annotation
…………… ◎Datchakorn Tancharoen・Toshihiko Yamasaki・Kiyoharu Aizawa(東大)
- K-047 会議室における頭部動作取得 …………… ◎細田真道・中山 彰・石井陽子・小林 稔(NTT)

[ヒューマン情報処理 (1)]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5G会場(5号館2階 5235教室) 座長 三浦佳世(九大)
- K-048 位置情報履歴を利用した屋外用推薦システム …………… ◎竹内雄一郎・杉本雅則(東大)
- K-049 リスクの捉え方を指標とした食のリスク情報提供技術の検討 …………… ◎山口 悟・飯橋真輔・中村真理子・杉山泰之(NTT)
- K-050 知覚のコントラストを用いた購買意欲を高める商品情報の推奨方法
…………… ◎笹本知里・有賀 透・二宮智彦・西尾浩一・百目鬼重則(NTTコムウェア)
- K-051 マイナス感情の緩和支援システム …………… ◎吉野史朗・野地 保・木下善皓・渡部容子(東海大)
- K-052 保養品販売における顧客支援システムの提案 …………… 木下善皓・◎武 金洋・野地 保・水野浩孝(東海大)
- K-053 顔の表情による感情情報伝達システムの提案 …………… 野地 保・◎高 穎・小野田 誠(東海大)
- K-054 音声から色への感情情報転移システム …………… ◎松浦純士・野地 保・郭 春皓(東海大)
- K-055 パラドキシカルな課題を用いた推論過程の考察 …………… ◎横地広海知・長坂一郎・松嶋隆二(神戸大)

[入カインタフェース]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5H会場(5号館2階 5236教室) 座長 鈴木健嗣(筑波大)
- K-056 3次元手指認識を用いたポインティングデバイスとその応用
…………… ◎豊浦雅貴・江端真行・小池英樹(電通大)・岡 兼司・佐藤洋一(東大)
- K-057 Study of Augmented Reality Based Method for Exhibiting Artistic Works with their Creation Processes
…………… ◎Ton Srichompoo(早大)・大谷 淳・米村俊一・榎本 誠
- K-058 携帯電話の傾きを利用した中国語文字入力手法 …………… ◎王 震・倉本 到・渋谷 雄・辻野嘉宏(京都工繊大)
- K-059 Interpretation of Emotional Gestures by Considering Hands Positions and Face Features
…………… ◎Jie Li・Jun-ichi Imai・Masahide Kaneko(電通大)
- K-060 画面分割を用いた視線制御インタフェース …………… ◎松金朗啓・湯浅将英・阿部清彦・大山 実・大井尚一(電機大)
- K-061 視線計測によるメディアコンバージェンス広告システムの評価
…………… ◎橋本圭輔・牛木一成・中村 誠・渡邊岳彦・百目鬼重則(NTTコムウェア)
- LK-013 Lightness Influence on Virtual Haptic Roughness Perception
…………… ◎Wanhua Hu・Kazuo Sakai・Atsumi Imamiya・Masaki Omata(山梨大)

[顔と音声のコミュニケーション]

- 9月9日(金) 9:00～12:00 6F会場(5号館2階 5234教室) 座長 青木義満(芝浦工大)
- K-062 表情と顔色の色彩強調を伴うバーチャル顔画像合成の情動提示効果 …………… ◎山田貴志(香川大)・渡辺富夫(岡山県大)
- K-063 個々の似顔絵画家の描画スタイルを反映したコンピュータによる似顔絵生成 …………… ◎沙 秀・今井順一・金子正秀(電通大)
- K-064 虹彩中心検出のためのパターンマッチング手法-輪郭セグメンテーションによる虹彩中心検出の改良-
…………… ◎米沢徹也(八代高専)・緒方公一・白谷和幸・城戸大輔(熊本大)
- K-065 顔認識における二重符号化理論とデフォルメ似顔絵との関連性について-コンピュータによる似顔絵生成への応用-
…………… ◎榎本 誠(早大)
- K-066 多重ワークの研究-多重音声理解の可能性(1)機械音声-
…………… ◎湯澤秀人・小村晃雅・矢後友和・松永義文(富士ゼロックス)
- K-067 多重ワークの研究-多重音声理解の可能性(2)遠隔会議音声-
…………… ◎小村晃雅・湯澤秀人・矢後友和・松永義文(富士ゼロックス)
- K-068 場の雰囲気収集システムの提案-必要性と活用事例 …………… ◎水島賢太郎(神戸女子短大)

[ヒューマン情報処理 (2)]

- 9月9日(金) 9:00～12:00 6G会場(5号館2階 5235教室) 座長 朝倉暢彦(金沢工大)
- K-069 加速度センサを用いた装着位置を選ばない運動強度評価システムの提案 …………… ◎長島 寛・松下宗一郎(東洋大)
- K-070 頭部装着型微小加速度検出器を用いた日常生活モニタリングの検討 …………… ◎長島 寛・松下宗一郎(東洋大)
- K-071 ミーティングにおける注意計測システムの構築 …………… ◎竹村憲太郎・松本吉央・小笠原 司(奈良先端大)
- LK-014 モニタ監視作業における判断・操作ミス測定のためのシステム開発とその応用 …………… ◎今西 明・雄山真弓(関西学院大)
- K-072 ディスプレイ解像度に応じた放送番組の適応提示手法の検討
…………… ◎沼田 誠・木村武史・浜田浩行・上野幹大・松村欣司・加井謙二郎・八木伸行(NHK 技研)
- K-073 語学学習番組のユーザ適応提示手法の検討
…………… ◎上野幹大・沼田 誠・松村欣司・加井謙二郎・木村武史・浜田浩行・八木伸行(NHK)
- K-074 知識を統合しユーザーの疑問に答えるTVエージェント
…………… ◎後藤 淳・宮崎 勝・小早川 健・比留間伸行・浦谷則好(NHK)

[福祉情報工学 (1)]

- 9月9日 (金) 9:00～12:00 6H会場 (5号館2階 5236教室) 座長 西本卓也 (東大)
- K-075 視覚障害者用音声地図の生成規則と有用性の検討 ◎家永貴史・松本三千人 (九州システム情報技研)・豊田信之・後藤拓志・木村陽子 (福岡市立心身障害福祉センター)・柴田雅博 (九州システム情報技研)
- K-076 音声サインデジタルマップを用いた経路誘導に関する研究 ○小孫堅一 (東京情報大)
- K-077 RFID リーダー・ライタ搭載ロボットによる視覚障害者支援 ○村井保之 (神奈川工科大)・巽 久行・宮川正弘 (筑波技術短大)・徳増眞司 (神奈川工科大)
- K-078 視覚障害者向けゲームの開発 (第2報)―ログデータの解析― ◎石井宏長 (芝浦工大)・印出政矢 (シャフト)・大倉典子 (芝浦工大)
- LK-015 黒色背景と白色背景での Web セーフカラーの視認性 ◎齋藤大輔・斎藤恵一 (電機大)・納富一宏 (神奈川工科大)・斎藤正男 (電機大)
- K-079 携帯電話によるシンボルコミュニケーション端末の試作開発と評価 ◎小野寺 拓・森岡将史 (NTT ドコモ)・小島哲也・井澤裕司 (信州大)・青木高光 (上田養護学校)
- K-080 発話障害者のための自然対話支援システムの開発 ◎梅舟柄安・大倉典子 (芝浦工大)
- K-081 健康福祉のためのエージェントシステムの開発 ◎西城英之・藤村幸平・湯本純也・富樫 敦 (宮城大)

[ヒューマンコミュニケーション一般]

- 9月9日 (金) 13:00～16:00 7F会場 (5号館2階 5234教室) 座長 米村俊一 (NTT)
- K-082 Studies of Prompter communication System ◎Lijen Chen・大谷 淳 (早大)・徳永幸生 (芝浦工大)・米村俊一 (NTT)
- LK-016 インターネット上の情報 Trustability 推定 ◎森本浩之・吉井伸一郎 (北大)
- LK-017 情報伝播プロセス解析によるベキ乗則の発見 ◎米田貴雄・吉井伸一郎 (北大)
- K-083 JXTA における P2P ネットワークの可視化 ◎石澤望夢・高井昌彰 (北大)
- K-084 オブジェクト再考 II- 現実表現のための最小オブジェクトセット - ○高原利生 (無所属)
- K-085 オブジェクト再考 III- 視点と粒度 ○高原利生 (無所属)

[サイバーワールド]

- 9月9日 (金) 13:00～16:00 7G会場 (5号館2階 5235教室) 座長 加藤博一 (阪大)
- K-086 高密度ピンマトリクスを利用した触覚秘密分散法の研究 ◎仲谷正史・土屋美由紀・梶本裕之・関口大陸・川上直樹・館すすむ (東大)
- K-087 Study of Recognizing an Unknown Person' Action from Motion Capture Data based on Tensor Decomposition ○Rovshan Kalanov (早大)・Hiroyuki Ogata (成蹊大)・Hajime Takada (横浜国大)・Jun Ohya (早大)
- K-088 画像情報を用いたサイバーアクタの動作制御 ○Jieun Cho・渡辺隆史・大谷 淳 (早大)
- LK-018 複合現実空間における香りの空間デザイン手法 ◎石澤正行・山下泰生・重野 寛・岡田謙一 (慶大)
- K-089 MR3D ボインタを用いた遠隔協調作業支援システム ◎鈴木雄士 (慶大)・坂内祐一 (キャノン)・宮挟和太・重野 寛・岡田謙一 (慶大)

[福祉情報工学 (2)]

- 9月9日 (金) 13:00～16:00 7H会場 (5号館2階 5236教室) 座長 中山 剛 (国立身体障害者リハビリテーションセンター)
- LK-019 聴覚障害者のための学年別ビ付きリアルタイム字幕提示システム ○小林正幸・西川 俊・三好茂樹・石原保志 (筑波技術短大)
- K-090 聴覚障害者支援のための警告報知音の到来方向の伝達方法 ◎織田修平・青木真理子・古家賢一・片岡章俊 (NTT)
- K-091 日本語指文字認識・合成用コーパスの構築 ◎江本祐太・宮島千代美・伊藤克亘・武田一哉 (名大)
- K-092 隠れマルコフモデルに基づく指文字動画画像生成 ◎森 健史・南角吉彦 (名工大)・宮島千代美 (名大)・徳田恵一・北村 正 (名工大)
- K-093 視線による Web ブラウザを用いたネットワークカメラの操作支援システム ◎大和田厚祐・阿部清彦・大山 実・大井尚一 (電機大)
- K-094 視線による重度肢体不自由者向け文字入力支援システム ◎佐藤寛修・阿部清彦・大山 実・大井尚一 (電機大)
- K-095 ハンディマウス使用を想定したソフトウェアキーボード ◎佐藤基次・縄手雅彦・森本大資 (島根大)
- K-096 ペイントツールにおける最適手ぶれ補正の自動設定 ◎森本大資・縄手雅彦 (島根大)

L 分野：ネットワークコンピューティング（第4分冊）

[ストレージとデータ収集]

9月7日（水）	9:00～12:00	1K 会場（6号館3階 6318教室）	座長 萩原 洋一（農工大）
L-001	HTTPを用いた広域分散ストレージシステム		◎八木豊志樹・須崎有康（産総研）・後藤和弘（大分県産業科学技術センター）・飯島賢吾（産総研）・丹 英之（アルファシステムズ）
L-002	動的帯域制御を用いたデータ収集システム		◎元山裕基・長坂康史（広島工大）
L-003	大規模データ収集システムにおける高信頼性マルチキャスト通信		◎梶山真治・長坂康史（広島工大）
L-004	オブジェクト指向技術を用いたネットワーク分散型データ収集システム		◎小畑敬義・長坂康史（広島工大）
L-005	CIMのヒントを活用したストレージシステムのデータコピー構築支援機能の研究		○浅野正靖・下岡健一・篠原大輔・兼田泰典・宮崎扶美（日立）
L-006	CIMのヒントにもとづくストレージシステムのDLCM支援機能の研究		◎中川弘隆・山本政行・兼田泰典・宮崎扶美・高岡伸光（日立）
L-007	メインフレームストレージソリューションにおけるバックアップ対象抽出の効率化		○平岩友理・細内昌明・牧 晋広・池ヶ谷直子・宮田和久・渡辺和彦・後藤純生（日立）
L-008	メインフレームリモートコピー制御における位置独立性の検討と実装		○細内昌明・牧 晋広・平岩友理・池ヶ谷直子・阿部秀彰・坂田啓一（日立）

[携帯端末とWeb技術]

9月7日（水）	9:00～12:00	1L 会場（6号館3階 6326教室）	座長 阪田史郎（千葉大）
LL-001	携帯電話実装型サービス合成エンジンの研究開発と評価		◎山登庸次・田中洋平・徳元誠一・大石哲矢・武本充治（NTT）
L-009	ユビキタスな環境下における多人数参加型サービスモビリティの一検討		◎田坂和之・今井尚樹・堀内浩規（KDDI 研）
L-010	モバイル情報端末におけるブラウザ表示・操作方式		○佐々木幹郎（三菱）
L-011	組込み機器向けDOMモジュールの開発		◎羽藤淳平・佐々木幹郎・齊藤正史（三菱）
LL-002	小型HTTPコミュニケーターの方式設計		◎村上陽祐・高田祐輔・大谷 真（北大）
LL-003	小型HTTPコミュニケーターSMACHの開発とその機能設計		◎高田祐輔・村上陽祐・大谷 真（北大）
L-012	モバイル用データ保管型プロキシシステムの検討		◎齋藤 毅・當山孝義・谷澤 茂（日本工大）
L-013	無効サービス検出機能を備える携帯端末向け検索システムの提案		◎藤井邦浩・長沼武史・深澤佑介・倉掛正治（NTTドコモ）

[プロトコル・性能評価]

9月7日（水）	13:00～15:00	2K 会場（6号館3階 6318教室）	座長 相原玲二（広島大）
L-014	長距離・広帯域IPネットワークにおけるコンテンツのリアルタイム伝送プロトコルの提案		◎金子 豊・竹内真也・山本 真・藤田欣裕（NHK 技研）
L-015	プロトコル解析におけるソフトウェアアーキテクチャ		◎山田博之・南澤吉昭・畠山康博（北大）
L-016	インターネットトラフィックのボアソン分布に従う非定常な時系列モデルを用いた解析に関する一考察		◎小泉大城・松嶋敏泰・平澤茂一（早大）
L-017	スループット測定によるTCP通信の評価		◎鈴木秀章・大坐島 智・川島幸之助（農工大）
L-018	パケット選択破棄による高負荷Linuxでの効率的な受信処理		◎山本紫乃・植崎修二（長崎大）
L-019	ハブティックデバイスのリモート制御における遅延予測技術に関する研究		◎金 朋・大原茂之（東海大）

[セキュリティ]

9月7日（水）	13:00～15:00	2L 会場（6号館3階 6326教室）	座長 藤野信次（富士通研）
LL-004	Providing Security Information of Mobile Networks using Personal IDS		◎東 雄介・小畑直裕・川口信隆（慶大）・塩澤秀和（玉川大）・重野 寛・岡田謙一（慶大）
L-020	Implementing Message Authentication to Real-Time Streaming Application		◎荻野 剛・金子伸一郎・上田真太郎・川口信隆・重野 寛・岡田謙一（慶大）
L-021	未利用アドレスブロック監視型モニタリングシステムの開発		◎鈴木和也・馬場俊輔・田中貴志（横河電機）
L-022	GreenMarker: lightweight biotope map analyzer using BitPlane-style ditital watermarking		○安藤類央・片桐由希子・森田正彦（慶大）
L-023	携帯電話を用いたランダム画像個人認証方式について		瀬野尾 純・○加藤貴司・ビスタ ベッド・高田豊雄（岩手県大）
LL-005	ICカードによる認証システムの構築法		◎齊藤祐輔・並木美太郎・萩原洋一・櫻田武嗣（農工大）

[ITS]

9月7日（水）	15:30～17:30	3K 会場（6号館3階 6318教室）	座長 屋代智之（千葉工大）
L-024	Potential of the unified microcellular network in providing smooth high data rate connection to the fast vehicle moving in ITS		○Thanh Hoa Phan・Takahiko Yamada（立命館大）
L-025	車車間通信を利用した位置情報通知手法に関する検討		◎氏家純也・谷林陽一・齋藤正史（三菱）
L-026	ミリ波技術を応用した保守用車入換業務支援の検討		○安徳徳央・石津成一（JR 東海）・浅野 晃（京三製作所）
L-027	車載用歩行者抽出動画像処理のGPによる自動獲得		◎小川原也・喜瀬勝之（富士重工スバル技研）・長尾智晴（横浜国大）
LL-006	輸送車両の先見的路線設定		◎向 直人・渡邊豊英（名大）
LL-007	ケプストラム分布を用いた実環境下の運転行動信号に含まれる個性のモデル化		◎西脇由博・小澤晃史・宮島千代美・伊藤克亘・武田一哉（名大）

[ネットワーク制御]

- 9月7日(水) 15:30～17:30 3L会場(6号館3階 6326教室) 座長 高橋 修 (はこだて未来大)
- L-028 複数 Mobile Network による経路アグリゲーションの提案◎舩田知広・石原 進 (静岡大)
- L-029 複数気付アドレス登録機構を利用した IPv6 モバイルルータの多重化システム◎今井尚樹・磯村 学・堀内浩規 (KDDI 研)
- L-030 有線及び無線リンク経由の通信における IPsec 適用手法の一検討◎鎌田美緒・小口正人 (お茶の水女子大)
- L-031 実 IP ネットワーク上の近接性を反映する VPN のためのオーバーレイネットワークトポロジ決定方式◎堀 賢治・吉原貴仁・堀内浩規 (KDDI 研)
- LL-008 階層型 VPN における QoS およびアクセスポリシーを考慮した経路選択手法◎岡山聖彦・山井成良・河野圭太 (岡山大)・石橋勇人・松浦敏雄 (大阪市大)
- L-032 経路切り替えによる分散 AV ファイルの連続転送制御の提案◎大崎友義 (高知工大)

[グループウェアとコミュニティ]

- 9月8日(木) 9:00～12:00 4K会場(6号館3階 6318教室) 座長 荒金陽助 (NTT)
- LL-009 コンテンツ公開 / 共有のためのコラボレーションツール◎香山瑞恵 (専大)
- LL-010 GPS 携帯電話を用いた育成ゲームによるウォーキング支援システム◎宗森 純・木家千晶・吉野 孝 (和歌山大)
- LL-011 遠隔会議への同時参加を目的とした複数音声の理解度検討◎安西 悠・江木啓訓・西川真由佳 (慶大)・湯澤秀人・松永義文 (富士ゼロックス)・岡田謙一 (慶大)
- L-033 ネットワークにおける無意識的認識を用いた集団形成支援◎小野寺伸晃・小泉寿男 (電機大)
- L-034 (講演取消)
- L-035 OMGW によるコミュニティ活性化の実現法の一考察◎羽賀弘典・金子正人・武内 惇・藤本 洋 (日大)
- L-036 プライバシー重視の分散協調型グループコミュニケーションモデルの提案とその評価◎鎌田浩嗣・大矢健太・小瀬木浩昭・武田正之 (東理大)
- L-037 コミュニティを用いたサービス利用知識流通方式◎尾上裕子・宮崎雄一朗・杉山一雄・倉掛正治 (NTT ドコモ)

[P2P・コンテンツ共有]

- 9月8日(木) 9:00～12:00 4L会場(6号館3階 6326教室) 座長 山井成良 (岡山大)
- L-038 (講演取消)
- L-039 ピアツーピアシステムにおけるコンテンツ複製配置の最適化◎川崎陽平・吉田紀彦 (埼玉大)
- L-040 ISP におけるコンテンツ配置最適設計に関する検討◎中庭明子 (阪産大)・榎原博之 (関西大)
- L-041 (講演取消)
- LL-012 Optimal Consistency Management in Dynamic Content Delivery Networks◎Zhou Su・Jiro Katto・Yasuhiko Yasuda (早大)
- L-042 (講演取消)
- L-043 Simulation of Adaptive Network against Flash Crowds◎Chenyu Pan・Merdan Atajanov (埼玉大)・Toshihiko Shimokawa (九産大)・Norihiko Yoshida (埼玉大)

[情報共有]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5K会場(6号館3階 6318教室) 座長 荒金陽助 (NTT)
- L-044 写真における周辺ユーザ情報のメタデータ利用に関する研究◎小笠原直人・佐藤 究 (岩手県大)・布川博士
- L-045 電子掲示板間インターフェースの提案◎荒川智之・鈴木 優・川越恭二 (立命館大)
- L-046 WebCMS におけるワークフローのパターン化方式◎猪子 徹・大谷 真 (北大)・奥野 拓 (はこだて未来大)
- L-047 (講演取消)
- L-048 P2P をもちいた情報共有支援における情報管理◎大塚雅史・上原貴夫 (東京工大)
- L-049 半自動的状況判定機能を持つ携帯電話情報共有システム◎宗森 純・磯崎久美子・吉野 孝 (和歌山大)
- L-050 The evaluation to information presentation and recognition on a wearable computer◎津村弘輔・井上亮文・加藤淳也・住谷哲夫・重野 寛・岡田謙一 (慶大)

[P2P・アドホック]

- 9月8日(木) 15:00～17:30 5L会場(6号館3階 6326教室) 座長 松原大典 (日立)
- LL-013 ピアツーピアシステムにおける不正ノードの動的回避◎佐藤一帆・吉田紀彦 (埼玉大)
- L-051 モバイルアドホックネットワークにおける認証機構の考察◎小原奈緒子・小口正人 (お茶の水女子大)
- L-052 アドホックネットワーク向けマルチキャスト配信率向上プロトコルの提案◎森本浩二・上野敦志・辰巳昭治 (大阪市大)
- L-053 アドホックネットワークの経路制御における動的クラスタリング◎澤村崇博・吉田紀彦 (埼玉大)
- L-054 無線アドホックネットワーク上でのメディア配信実証実験◎板谷聡子・長谷川 淳・長谷川晃朗・ピーター ディビス・山口 明・門脇直人・小花貞夫 (ATR)
- L-055 センサーネットワークと監視カメラを用いた消火活動支援システムの提案◎野飼雅弘・Yasmin Rubaiyat・大谷 淳 (早大)
- L-056 センサネットワークによる海洋情報の取得と活用◎和田雅昭 (はこだて未来大)・畑中勝守 (北海道東海大)

[デジタルID・位置情報]

- 9月9日(金) 9:00～12:00 6K会場(6号館3階 6318教室) 座長 高汐一紀 (慶大)
- L-057 非接触式 IC を利用した携帯電話向けのリアルタイム情報配信システム◎河 治国・渋谷 進 (茨城大)
- L-058 RFID タグを用いた情報提供のためのプライバシー保護◎長家正和・島川博光 (立命館大)
- L-059 RFID タグ間通信アーキテクチャを用いたユーザ履歴参照型動画配信システム◎高橋翔太 (高知工大)・山口 巧 (高知高専)・島村和典 (高知工大)
- LL-014 “リファレンスタグ” を用いたアクティブ RFID 検知精度向上方式◎小西勇介・中尾敏敏・田口大悟 (NEC)

- L-060 RFID を利用した LBS システムの検討 ……○岩橋 努・秋葉 学・辻 順一郎・高梨郁子（三菱）・渡辺 尚（静岡大）
 L-061 個人間類似度と位置情報を用いた情報検索モデルの提案 ……○山岸悟志・中村康弘（防衛大）
 L-062 地図作成学習における GPS と主観的位置情報利用の提案と評価
 ……○中澤啓介・山本友理（慶大）・井上智雄（筑波大）・重野 寛・岡田謙一（慶大）
 L-063 位置情報コミュニケーションシステムの構築と運用 ……○渡邊正弘・大倉典子（芝浦工大）

[Web アプリケーション]

- 9月9日（金） 9:00～12:00 6L 会場（6号館3階 6326 教室） 座長 山崎克之（KDDI 研）
 L-064 （講演取消）
 L-065 WisdomAdballoon:Push 型情報配信技術に基づく動的ページ構成システム
 ……○向井康人・大園忠親・伊藤孝行・新谷虎松（名工大）
 L-066 （講演取消）
 L-067 （講演取消）
 L-068 Web コンテンツの安全かつ簡便な再利用を可能とする編集技術 Visual eXcart ……○浜田伸一郎・石谷康人（東芝）
 L-069 Web を用いた Dynamic な Web ページの構築 ……○木村訓康・田村浩一郎（中京大）
 L-070 Web3D を活用した Web 博物館「鎌倉デジタル考古博物館（仮称）」の構築 ……○木野宏亮・大滝由明・吉崎亮介・井上道哉・草野友徳・出口修次・斉藤英一郎・渡部 翔・長澤可也（湘南工大）・三ツ堀 弘（鎌倉市）
 L-071 市販ソフトウェアを使った Web 監視制御システム ……○中川晃一（三菱）

[モバイルエージェントと管理運用技術]

- 9月9日（金） 13:00～16:00 7K 会場（6号館3階 6318 教室） 座長 今泉貴史（千葉大）
 L-072 モバイルエージェントによるエージェントネットワークの自動構成
 ……○池田卓也（茨城大）・大曾根達也（日立水戸エンジニアリング）・岸 義樹（茨城大）
 L-073 論理型モバイルエージェントフレームワーク Maglog ……○本村真一・川村尚生・菅原一孔（鳥取大）
 LL-015 分散型 e-Learning システムへの相互援助のためのユーザ間通信機能の実装について
 ……○本村真一・○中谷亮介・川村尚生・菅原一孔（鳥取大）
 L-074 モバイルエージェントに基づく会議日程調整システム ……○本村真一・○影本憲五・川村尚生・菅原一孔（鳥取大）
 LL-016 MobiSNMP: 移動体情報の継続的収集のためのストア & フォワード型手法の提案 ……○北形 元・小出和秀・神山広樹（東北大）・Glenn Mansfield Keeni（サイバー・ソリューションズ）・白鳥則郎（東北大）
 L-075 自律運用管理システムにおける情報更新スケジュール機能 ……○町田文雄・川戸正裕・前野義晴（NEC）
 LL-017 統計的手法を用いた計算機ログからの異常検出 ……○橋爪 拓・宮本貴朗・泉 正夫・福永邦雄（大阪府大）
 L-076 P2P アプリケーショントラフィック検出・ユーザ管理支援システムの試作
 ……○笹本知将・伊藤 洋・大坐畠 智・川島幸之助（農工大）

[レコメンデーション・Web 検索]

- 9月9日（金） 13:00～16:00 7L 会場（6号館3階 6326 教室） 座長 寺田松昭（農工大）
 L-077 個人の所有物情報を利用したレコメンデーションを実現するコンテキスト統合エージェントの適用
 ……○山崎賢悟・勅使河原可海（創価大）
 L-078 イベントコンテキスト情報を活用した動的レコメンデーションを実現するイベントナビゲーションシステムの検討
 ……○中村光雄・勅使河原可海（創価大）
 L-079 （講演取消）
 L-080 ユーザの嗜好にもとづく検索支援システム ……○高嶋活輝・中山泰一・間瀬哲也（電通大）
 L-081 （講演取消）
 L-082 キーワードと画像特徴を利用した Web ページ検索システム ……○松久保みゆき・深海 悟（大阪工大）
 L-083 精練手法に基づく検索隠し味型専門検索エンジンの半自動構築 ……○鈴木悠生・○鍋島英知・岩沼宏治（山梨大）
 L-084 子どもの保護のための Web アクセス監視支援システム ……○上田達巳・高井昌彰（北大）

[グループコミュニケーション]

- 9月9日（金） 13:00～16:00 7M 会場（6号館4階 6410 教室） 座長 井上智雄（筑波大）
 L-085 Web サイト閲覧者同士の相互認識方式 ……○齊藤拓路・小泉寿男（電機大）
 L-086 複数集団間交渉を支援するエージェントシステムの構築 ……○堤 大輔・小泉寿男（電機大）
 L-087 IRC におけるなりすましの現状 ……○丸山洋平・松澤智史・武田正之（東理大）
 L-088 IRC におけるユーザ関係の分析とその応用例 ……○井出和典・松澤智史・武田正之（東理大）
 L-089 XCAST を利用した統合コミュニケーション環境の構築
 ……○小原圭央（早大）・鈴木恒一（シーエーシー）・深澤良彰（早大）
 L-090 簡易脳波測定による時間幅を考慮したリアルタイムな思考状態の推定
 ……○林 剛史・福井健太郎・宮田章裕・重野 寛・岡田謙一（慶大）

M 分野：ユビキタス・マルチメディア・セキュリティ（第4分冊）

[セキュリティプロトコル／電子透かし]

- 9月7日（水） 9:00～12:00 1B 会場（5号館1階 5136 教室） 座長 吉浦 裕（電通大）
 M-001 携帯電話による無記名電子投票についての検討 ……○小林哲二（日本工大）
 M-002 マルチキャスト映像配信のためのスケーラブル映像暗号鍵管理
 ……○佐藤 茜・小尾高史・鈴木裕之・谷内田益義・大山永昭（東工大）
 M-003 IP ヘッダへの利用者情報埋め込み型認証システムの構築 - 認証情報の強化とトラフィック量の低減 -
 ……○中西康夫・松山 実・安井浩之（武蔵工大）
 M-004 Preserving-preserving Multi-party Statistical Computation ……○蘇 春華・櫻井幸一（九大）

- M-005 物体と光源の関係を利用した3次元画像への電子透かし法の提案◎西村輝義・勅使河原可海（創価大）
 M-006 アスキーアートの形状情報に対する情報ハイディング◎木綿麻実路・岩切宗利（防衛大）
 M-007 表情付けを考慮した楽音符号への情報ハイディング◎山本紘太郎・岩切宗利（防衛大）

【不正アクセス対策】

- 9月7日（水） 13:00～15:00 2B会場（5号館1階 5136教室） 座長 竹森敬祐（KDDI研）
 M-008 インターネットの分散観測による不正アクセスの解析 ◎杉山太一・菊地大輔（中大）・寺田真敏（日立）・
 福野直哉・田中貴之・菊池浩明（東海大）・土居範久（中大）
 M-009 （講演取消）
 M-010 不正なアプリケーションのなりすましを防止した携帯端末とICカード間の非同期メッセージングの設計
◎森 謙作・寺田雅之・石井一彦・本郷節之（NTTドコモ）・鶴坂智則・越塚 登・坂村 健（東大）
 M-011 フィッシング対策としてのPKIの適用と課題◎榎原裕之・藤井誠司（三菱）
 M-012 コンピュータセキュリティインシデントとその対応支援システム
◎梅澤昭生・横地 裕・田中貴志・門脇 正（横河電機）
 M-013 XML暗号化規格の実装実験および検討◎筑波孝仁・野口健一郎（神奈川大）

【セキュリティポリシー／アクセス制御】

- 9月7日（水） 15:30～17:30 3B会場（5号館1階 5136教室） 座長 大嶋嘉人（NTT）
 M-014 セキュリティ運用管理における機器設定統合分析システム ◎岡城純孝・松田勝志（NEC）
 M-015 Webサービスのセキュリティの研究-XACMLを用いたアクセス制御の基礎実験
 ◎江川貴彦（日立ソフトウェアエンジニアリング）・野口健一郎（神奈川大）
 M-016 異なる医療情報ネットワークドメイン間に属する機器の接続方法に関する研究
◎佐藤 守・谷内田益義・鈴木裕之・小尾高史・山口雅浩・大山永昭・喜多紘一（東工大）
 M-017 交渉条件の依存関係に着目したユーザ要求の自動交渉方式の検討◎加藤弘一・勅使河原可海（創価大）

【ユビキタスネットワーク】

- 9月8日（木） 9:00～12:00 4B会場（5号館1階 5136教室） 座長 堀内浩規（KDDI研）
 M-018 （講演取消）
 M-019 プログラムダウンロード方式ホームネットワークアダプタ
◎伊藤山彦・落合淑子・鈴木繁樹・小泉吉秋・久代紀之（三菱）
 M-020 赤外線リモコンを利用したホームサーバの実験 ◎永井洋斗基（鎌倉市立深沢中学校）・野口健一郎（神奈川大）
 M-021 人の行動分析のための赤外線通過センサの開発
 ◎高柳美沙子（奈良女子大）・大村 廉・納谷 太・野間春生・小暮 潔（ATR）
 M-022 携帯電話のPC用入出力デバイス化の提案 ◎Anand Kumar Verma・田中 充・勅使河原可海（創価大）
 M-023 インターフェイスノードを用いたセンサーネットワークのオープン化 ◎長谷川晃朗・Peter Davis（ATR）・
 藤田昭人（大阪市大）・山口 明・小花貞夫（ATR）
 M-024 センサネットワークにおけるネットワーク内処理方式の性能評価◎茂木信二・吉原貴仁・堀内浩規（KDDI研）
 M-025 Selection from a Large Number of Audio and Video Sources for Personalized Video Retrieval in A Ubiquitous
 Environment ◎Gamhewage De Silva・Toshihiko Yamasaki・Kiyoharu Aizawa（東大）

【ユビキタスコンピューティング】

- 9月8日（木） 15:00～17:30 5B会場（5号館1階 5136教室） 座長 大内 一成（東芝）
 M-026 生活支援サービス実現のためのコンテキスト生成方式の検討 ◎宮脇健三郎・佐野睦夫（大阪工大）・上田博唯（NICT）
 M-027 個人の習慣的行動における半順序関係に注目した振る舞い認識手法◎山原裕之・島川博光（立命館大）
 M-028 位置情報を用いた集団協調作業を支援するエージェントシステム◎米陀政人・小泉寿男（電機大）
 M-029 商品位置情報を活用したショッピング支援エージェントシステムの検討◎外村昭和・小泉寿男（電機大）
 M-030 RFIDリーダ付PDAによる情報提供システム ◎服部文夫（立命館大）・増野一起（日立情報システム）・
 松島敏幸（日本IBM）・Minh Phan（立命館大）
 M-031 偽装防止技術による水産物の安全なトレーサビリティ実用化技術 ◎高橋祐太・女川穂高・
 三上貞芳・長野 章（はこだて未来大）・鳴海日出人（日本データサービス）・
 桑原伸司（北日本港湾コンサルタント）・若林隆司（アルファ水工コンサルタンツ）

【ネットワークと分散処理】

- 9月9日（金） 9:00～12:00 6B会場（5号館1階 5136教室） 座長 佐藤文明（静岡大）
 M-032 遅延時間を考慮したコンピューティング資源とネットワーク資源の同時割り当て方式
 津村重宏・◎栗林伸一（成蹊大）・田邊正雄（NTT）
 M-033 （講演取消）
 M-034 P2Pストリーミング配信におけるノード離脱時の品質低下軽減を目指した配信木構築法の提案
◎山本 宙・水谷泰治・深海 悟（大阪工大）
 M-035 個人のPCによるP2Pネットワークを基盤とした柔軟な分散Web検索システムの提案
◎豊田正隆・勅使河原可海（創価大）
 M-036 IPストレージに対するWebベースのアクセスモデルの提案◎武田裕子（お茶の水女子大）
 M-037 インターフェース定義言語IDLからのWebサービス・プログラム自動生成実験
 ◎建部仁彦（富士通サポートアンドサービス）・野口健一郎（神奈川大）
 M-038 汎用通信フォーマットによる移動型オブジェクトの実現◎平中幸雄・菅井栄治・渡部修平・武田利浩（山形大）
 M-039 地理的ソーシャルネットワークシステム◎武田利浩（山形大）・小松達也（東北大）・平中幸雄（山形大）

N 分野：教育・人文科学（第4分冊）

[学習支援・教育評価]

9月7日(水)	9:00～12:00	1T 会場（3号館3階 3308教室）	座長 松居辰則（早大）
N-001	授業評価 Web アンケートシステムの開発と全学的調査結果の多変量解析評価○芝 治也・勇 秀憲・山口 巧・赤松重則・竹島敬志・島内功光・前田公夫（高知高専）		
N-002	きめ細かな解説を与えるための支援システム ◎森田直樹（東工大）・田畑 忍（皇學館大）		
N-003	履歴グラフを用いた技術要素に基づく理解度の把握 ◎小柳順一・田口 浩・島川博光（立命館大）		
N-004	システムソフトウェア教育支援環境「港」における可視化を用いた学習支援システム ◎大角圭吾・西野洋介・早川栄一（拓大）		
N-005	SIEM アセスメント尺度に基づいた要因分析結果のフィードバックによるコンピュータ入門教育への効果 ◎土肥紳一・宮川 治・今野紀子（電機大）		
N-006	操作画面取得による学習者観察支援ツールの作成 ◎伊藤智恵（中京大）・田中真一（JST）		
N-007	電子シラバスを用いた大学教養教育のカリキュラム分析 ◎由谷真之・森 幹彦・喜多 一（京大）		
N-008	教学支援システムに関する学生アンケートの分析 ◎渡辺智幸・後藤正幸（武蔵工大）・石田 崇・平澤茂一（早大）・酒井哲也（東芝）		

[情報倫理, 読解支援システム]

9月7日(水)	13:00～15:00	2T 会場（3号館3階 3308教室）	座長 立田ルミ（独協大）
LN-001	読解支援システムの統一的評価法 ◎小谷克則（NICT）・吉見毅彦（龍谷大/NICT）・九津見毅・佐田いち子（シャープ）・井佐原均（NICT）		
N-009	メタ認知アプローチによる情報モラル教育の構築 ◎今野紀子・土肥紳一（電機大）		
N-010	企業社会を意識した社会科学系学部情報倫理教育のあり方 柳原佐智子・○上木佐季子（富山大）		
LN-002	生涯学習におけるブレンディング支援システムに関する研究 ◎周 囲・安田孝美・横井茂樹（名大）		

[e-Learning, 協調学習]

9月7日(水)	15:30～17:30	3T 会場（3号館3階 3308教室）	座長 金子敬一（農工大）
N-011	e-ARCS モデルを用いた e-Learning システムによるやる気の喚起 ◎高島雄吾・小林 浩（電機大）		
N-012	誤答駆動型リアルタイムメンタリングシステム～多人数授業におけるリアルタイム演習支援～ ◎西谷 匠（神奈川大）・樋山 聡（エム・アンド・アイ）・桑原恒夫（神奈川大）		
N-013	Web アプリケーション構築技法の教育の一考察 ◎新田雅道（小松短期大）		
N-014	時空間コンテンツによる協調学習支援システムの提案 ◎北原圭吾・丸山祐太（慶大）・井上智雄（筑波大）・重野 寛・岡田謙一（慶大）		
N-015	Web 技術を用いた実験レポート添削支援システムの開発と評価 ◎角 世元・李 曉永・中川晋吾・酒井三四郎・太田 剛（静岡大）		

[プログラミング教育]

9月8日(木)	9:00～12:00	4T 会場（3号館3階 3308教室）	座長 辰巳丈夫（農工大）
LN-003	コード依存関係を用いた Java フレームワークのチュートリング ◎上野敦子・島川博光（立命館大）		
N-016	アルゴリズムの学習を目的としたプログラミング自習システム ◎阿部清彦・大山 実・大井尚一（電機大）		
N-017	簡易グラフィック表示システムを用いた C 言語入門教育 ◎岡田行平・村井保之（神奈川工科大）・巽 久行（筑波技術短大）・小平邦夫（神奈川工科大）		
N-018	プログラミングにおけるポイント操作学習のための支援システム ◎三浦義之・鈴木岳大・金子敬一（農工大）		
N-019	プログラミング実習におけるコンピュータを使わない教材とその効果 ◎玉木 徹（新潟大）		
N-020	Java プログラミング初学者のためのテスト学習支援 ◎上河内頌之・松浦佐江子（芝浦工大）		
N-021	プログラミング教育におけるペア学習の試み - III ◎寺川佳代子（常磐会学園大/京大）・喜多 一（京大）		
N-022	単体テストを用いた Java プログラミング学習支援ツール ◎清水寛美・酒井三四郎（静岡大）		

[情報処理システム, コミュニケーションツール]

9月8日(木)	15:00～17:30	5T 会場（3号館3階 3308教室）	座長 高岡詠子（千歳科技大）
N-023	情報処理システム工学への一考察 ◎林田 熙・飯倉道雄・吉岡 亨（日本工大）		
N-024	学生実験のための状態遷移図を用いたインタフェース作成支援ツール ◎金 秀男・倉本 到・渋谷 雄・辻野嘉宏（京都工繊大）		
N-025	パイプラインプロセッサ設計教育システム MEIMES-DESIGN の初期開発 ◎森本智之・堤 利幸（明大）		
N-026	携帯電話を用いた大学共同利用情報流通システムの設計と構築 ◎葉田善章・篠原正典・清水康敬（メディア教育開発センター）		
N-027	対話型映像再生に対応した業務用映像配信システム ◎後藤繁生・橋本昌嗣・横沢智彦（日本 SGI）・佐野健太郎・中村維男（東北大）		
N-028	携帯電話を用いたビデオトレーニングシステム ◎前澤直洋・中山泰一（電通大）		

[社会基盤とコンピュータ]

9月9日(金)	9:00～12:00	6T 会場（3号館3階 3308教室）	座長 横澤 誠（野村総研）
N-029	コンテンツの流通・利用のための著作権の単純化 ◎児玉晴男（メディア教育開発センター）		
N-030	On Advertisement Distribution Model and Its Analysis Method ◎Pao Sriprasertsuk・Akiko Seki・Wataru Kameyama（早大）・Nobuyuki Kinoshita・Tatsuo Inoue・Nakanishi Yasuhiro（メロディーズアンドメモリーズグローバル）		
N-031	コンテンツ循環における権利継承管理方式の提案 ◎関 亜紀子・亀山 渉（早大）		
LN-004	XML を用いた立法過程の透明化 ◎山下智立・有村啓司（北陸先端大）・井出 明（近畿大）		

- N-032 XML を用いた法改正過程の追跡システム …………… ◎有村啓司・山下智立（北陸先端大）・井出 明（近畿大）
 N-033 佐野美術館における刀剣類のデジタルアーカイブ化プロジェクトの概要 …… ◎藤原研人（慶大）・真鍋和也（Sumihira）・渡邊妙子（佐野美術館）・宇仁菅哲平（総合企画ジャイロ）・中村麻紀（佐野美術館）・井出 明（近畿大）

○ 分野：情報システム（第4分冊）

〔システム評価〕

- 9月7日（水） 9:00～12:00 1Q会場（6号館4階 6425教室） 座長 西岡大祐（日立）
 O-001 クラスタモデルを導入したアドホックネットワークの評価実験 ……………◎永松大和・能登正人（神奈川大）
 O-002 ランダムウォークアドホックネットワークモデルにおける通信性能実験 ……………◎有川 隼・能登正人（神奈川大）
 LO-001 非割込み型EDFスケジューリングにおけるパフォーマンス予測：理論と実装 ……………◎花田真樹・中里秀則（早大）
 O-003 包含概念を用いた拡張R-treeによる被災地管理 ……………◎三栗寛之・向 直人・渡邊豊英（名大）
 O-004 セマンティック Web における効率的なメタデータ収集法の評価
 ……………◎及川 啓・児玉英一郎・王 家宏・高田豊雄（岩手県大）
 O-005 項目反応理論による Web アクセスログの解析 ……………◎橋間智博（兵庫県大）
 O-006 情報システム構築における生産性評価の留意点と新たな生産性評価方法の考察 ……………◎波多野亮介・只野完二（日立）

〔システム構築とモデリング〕

- 9月8日（木） 9:00～12:00 4Q会場（6号館4階 6425教室） 座長 辻 秀一（東海大）
 O-007 画像処理を用いた店舗内の顧客の行動認識法に関する基礎的検討
 ……………◎堀 隆之・大谷 淳（早大）・棚沢 順（千葉商科大）
 O-008 工場進捗管理への UHF 帯 RFID 適用検討 ……………◎八木綾子・森川修一・早川孝之（三菱）
 O-009 F/W 越しの MS ファイルサーバでのファイル共有
 ……………植田泰士・◎梅田浩貴・久留真治・祖父江真一（宇宙航空研究開発機構）
 O-010 技術情報データベースシステムのシステム連携検討について
 ……………◎佐野琢己・田中陽子・祖父江真一（宇宙航空研究開発機構）
 O-011 即時的なドキュメント共有を行う情報システムの構成法
 ……………◎飯田雅広（筑波大）・千葉貴史（建築ピボット）・津田和彦（筑波大）
 O-012 実行可能なモデルを基盤とした情報システム設計手法とその評価 ……………◎上西 司・小泉寿男（電機大）
 LO-002 製品開発における情報処理活動 ……………◎犬塚 篤（北陸先端大）
 LO-003 ビジネス系情報システム構築におけるモデリングについての一考察 ……………◎宮西洋太郎（宮城大）

〔社会と情報システム〕

- 9月9日（金） 9:00～12:00 6Q会場（6号館4階 6425教室） 座長 刀川 真（NTT データ）
 O-013 交流分析を用いた自動プランニングシステム ……………◎土屋吉寛・今野紀子（電機大）
 O-014 CMS を用いた地域医療ポータルサイトの提案……………◎林 正治・堀井 洋・権 仁洙・吉田武稔（北陸先端大）
 O-015 モバイルインターネットのための地域ポータルサイトの開発に関する研究 ……………◎中島義徳・濱本和彦（東海大）
 LO-004 Composition of Confrontations in “An e-Japan System” ……………◎北 寿郎（同志社大）
 O-016 シミュレーション技術を用いた震災リスク・コミュニケーションに関する考察 ……………◎畑山満則（京大）
 O-017 GMAIS による戦略的地球環境経営システム (SEMS) の研究……………◎沢 恒雄（愛知学泉大）
 LO-005 学習コンテンツの共有・協創システムとその著作権管理情報 ……………◎児玉晴男（メディア教育開発センター）
 O-018 （講演取消）